

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	マクロ経済学研究 田中 淳平	1学期		2	1
	ミクロ経済学研究 朱 乙文	1学期		2	2
	国際金融論研究 前田 淳	1学期		2	3
	経済政策論研究 後藤 尚久	1学期		2	4
	産業組織論研究 後藤 宇生	2学期		2	5
	統計学研究 林田 実	1学期		2	6
	計量経済学研究 藤井 敦	1学期		2	7
	地域経済論研究 田村 大樹	1学期		2	8
	応用地域科学研究 奥山 恭英	1学期		2	9
	会計学研究 白石 和孝	1学期		2	10
	財務会計研究 西澤 健次	1学期		2	11
	管理会計研究 梅澤 俊浩	1学期		2	12
	経営学研究 晴山 英夫	1学期		2	13
	経営戦略論研究 浦野 恭平	1学期		2	14
	企業論研究 山岡 敏秀	1学期		2	15

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	マクロ経済学演習 田中 淳平	2学期		2	16
	ミクロ経済学演習 朱 乙文	2学期		2	17
	国際金融論演習 前田 淳	2学期		2	18
	経済政策論演習 後藤 尚久	2学期		2	19
	産業組織論演習 後藤 宇生	2学期		2	20
	統計学演習 林田 実	2学期		2	21
	計量経済学演習 藤井 敦	2学期		2	22
	地域経済論演習 田村 大樹	2学期		2	23
	応用地域科学演習 奥山 恭英	2学期		2	24
	会计学演習 白石 和孝	2学期		2	25
	財務会計演習 西澤 健次	2学期		2	26
	管理会計演習 梅澤 俊浩	2学期		2	27
	経営学演習 晴山 英夫	2学期		2	28
	経営戦略論演習 浦野 恭平	2学期		2	29
	企業論演習 山岡 敏秀	2学期		2	30

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	労働経済学研究 畔津 憲司	1学期		2	31
	労働経済学演習 畔津 憲司	2学期		2	32
	環境経済学研究 牛房 義明	1学期		2	33
	環境経済学演習 牛房 義明	2学期		2	34
	人的資源管理研究 福井 直人	1学期		2	35
	人的資源管理演習 福井 直人	2学期		2	36
	コーポレート・ファイナンス研究 松本 守	1学期		2	37
	コーポレート・ファイナンス演習 松本 守	1学期		2	38
経営組織論研究 山下 剛	1学期		2	39	
経営組織論演習 山下 剛	2学期		2	40	
マーケティング研究 別府 俊行	1学期		2	41	
マーケティング演習 別府 俊行	2学期		2	42	
■文化・言語専攻	英語学研究III (翻訳) 野島 啓一	1学期		2	43
	英語学演習III (翻訳) 野島 啓一	2学期		2	44
	中国民族文化研究 金縄 初美	1学期		2	45

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■文化・言語専攻	中国民族文化演習	2学期		2	46
	金縄 初美				
■東アジア専攻	東アジア政治思想研究	2学期		2	47
	金 鳳珍				
	近代中国政治史研究	1学期		2	48
	横山 宏章				
	現代中国経済研究	1学期		2	49
	白石 麻保				
	国際協力研究	1学期		2	50
	大平 剛				
	国際政治経済研究	1学期		2	51
	阿部 容子				
	安全保障研究	1学期		2	52
	戸蒔 仁司				
	アメリカ風景論研究	1学期		2	53
	乗口 眞一郎				
	イギリス地域研究	1学期		2	54
	久木 尚志				
北欧地域研究	1学期		2	55	
五月女 律子					
東アジア政治思想演習	2学期		2	56	
金 鳳珍					
近代中国政治史演習	2学期		2	57	
横山 宏章					
現代中国経済演習	2学期		2	58	
白石 麻保					
国際協力演習	2学期		2	59	
大平 剛					
国際政治経済演習	2学期		2	60	
阿部 容子					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	安全保障演習 戸蒔 仁司	2学期		2	61
	アメリカ風景論演習 乗口 眞一郎	2学期		2	62
	イギリス地域演習 久木 尚志	2学期		2	63
	北欧地域演習 五月女 律子	2学期		2	64
■共通科目	日本社会経済研究 迎 由理男	1学期		2	65
	アメリカ社会研究 中野 博文	1学期		2	66
	中国社会史研究 堀地 明	1学期		2	67
	日本社会経済演習 迎 由理男	2学期		2	68
アメリカ社会演習 中野 博文	1学期		2	69	
中国社会史演習 堀地 明	2学期		2	70	
■特別研究	特別研究 (M)IA 田中 淳平	1学期	1	2	71
		1年			
	特別研究 (M)IA 朱 乙文	1学期	1	2	72
		1年			
	特別研究 (M)IA 前田 淳	1学期	1	2	73
		1年			
	特別研究 (M)IA 後藤 尚久	1学期	1	2	74
		1年			
	特別研究 (M)IA 後藤 宇生	2学期	1	2	75
		1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	76
	林田 実	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	77
	藤井 敦	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	78
	田村 大樹	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	79
	奥山 恭英	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	80
	白石 和孝	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	81
	西澤 健次	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	82
	浦野 恭平	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	83
	別府 俊行	1年			
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	84	
山岡 敏秀	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	85	
田中 淳平	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	86	
朱 乙文	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	87	
前田 淳	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	88	
後藤 尚久	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	89	
後藤 宇生	1年				
特別研究 (M)IB	2学期	1	2	90	
林田 実	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IB 藤井 敦	2学期	1	2	91
		1年			
	特別研究 (M)IB 田村 大樹	2学期	1	2	92
		1年			
	特別研究 (M)IB 奥山 恭英	2学期	1	2	93
		1年			
	特別研究 (M)IB 白石 和孝	2学期	1	2	94
		1年			
	特別研究 (M)IB 西澤 健次	2学期	1	2	95
		1年			
	特別研究 (M)IB 浦野 恭平	2学期	1	2	96
		1年			
	特別研究 (M)IB 別府 俊行	2学期	1	2	97
		1年			
	特別研究 (M)IB 山岡 敏秀	2学期	1	2	98
		1年			
特別研究 (M)IIA 白石 和孝	1学期	2	2	99	
	2年				
特別研究 (M)IIA 別府 俊行	1学期	2	2	100	
	2年				
特別研究 (M)IIA 迎 由理男	1学期	2	2	101	
	2年				
特別研究 (M)IIB 白石 和孝	2学期	2	2	102	
	2年				
特別研究 (M)IIB 別府 俊行	2学期	2	2	103	
	2年				
特別研究 (M)IIB 迎 由理男	2学期	2	2	104	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	経済史研究 山崎 勇治	1学期		2	105
	経済史演習 山崎 勇治	2学期		2	
■地域コミュニティ専攻	社会心理学研究 田島 司	1学期		2	107
	コミュニケーション論研究 松尾 太加志	1学期		2	108
	生涯学習論研究 恒吉 紀寿	1学期		2	109
	臨床心理学研究 田中 信利	1学期		2	110
	臨床教育学研究 楠 凡之	1学期		2	111
	児童福祉論研究 河嶋 静代	1学期		2	112
	障害者福祉論研究 小賀 久	1学期		2	113
	高齢者福祉論研究 石塚 優	1学期		2	114
	福祉コミュニティ研究 渡辺 良司	1学期		2	115
	人間環境学研究 野井 英明	1学期		2	116
	生態人類学研究 竹川 大介	1学期		2	117
	文化社会学研究	1学期		2	118
	都市社会学研究 稲月 正	1学期		2	119

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域コミュニティ専攻	社会心理学演習 田島 司	2学期		2	120
	コミュニケーション論演習 松尾 太加志	2学期		2	121
	生涯学習論演習 恒吉 紀寿	2学期		2	122
	臨床心理学演習 田中 信利	2学期		2	123
	臨床教育学演習 楠 凡之	2学期		2	124
	児童福祉論演習 河嶋 静代	1学期		2	125
	障害者福祉論演習 小賀 久	2学期		2	126
	高齢者福祉論演習 石塚 優	2学期		2	127
	人間環境学演習 野井 英明	2学期		2	128
	生態人類学演習 竹川 大介	2学期		2	129
	文化社会学演習 須藤 廣	2学期		2	130
	教育制度論研究 見玉 弥生	1学期		2	131
	臨床社会学研究 西田 心平	1学期		2	132
	環境社会学研究 岩松 文代	1学期		2	133
	教育制度論演習 見玉 弥生	2学期		2	134

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	臨床社会学演習 西田 心平	2学期		2	135
	環境社会学演習 岩松 文代	2学期		2	
■文化・言語専攻	英米文化研究I (米文化) 前田 譲治	1学期		2	137
	英米文化研究II (英文化) アダム・ヘイルズ	1学期		2	
	英米文学研究I (米文学) 吉川 哲郎	1学期		2	139
	英米文学研究II (現代米文学) デニス・ジョーンズ	1学期		2	
	英米文学研究III (英文学) 木下 善貞	1学期		2	141
	英語学研究I (日英語比較) 漆原 朗子	1学期		2	
	英語学研究II (社会言語学) 平野 圭子	1学期		2	143
	英語学研究IV (通訳) 伊藤 健一	1学期		2	
	英米文化演習I (米文化) 前田 譲治	2学期		2	145
	英米文化演習II (英文化) アダム・ヘイルズ	2学期		2	
	英米文学演習I (米文学) 吉川 哲郎	2学期		2	147
	英米文学演習II (現代米文学) デニス・ジョーンズ	2学期		2	
	英米文学演習III (英文学) 木下 善貞	2学期		2	149

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	英語学演習I (日英語比較) 漆原 朗子	2学期		2	150
	英語学演習II (社会言語学) 平野 圭子	2学期		2	151
	英語学演習IV (通訳) 伊藤 健一	2学期		2	152
	中国文化研究 板谷 俊生	1学期		2	153
	中国文学研究II (中国古典文学) 黄 冬柏	1学期		2	154
	中国語学研究I (音声学) 佐藤 昭	1学期		2	155
	中国語学研究II (語法) 王 占華	1学期		2	156
	中国文化演習 板谷 俊生	2学期		2	157
	中国文学演習II (中国古典文学) 黄 冬柏	2学期		2	158
	中国語学演習I (音声学) 佐藤 昭	2学期		2	159
	中国語学演習II (語法) 王 占華	2学期		2	160
	中国思想文化研究 鄧 紅	1学期		2	161
	中国思想文化演習 鄧 紅	2学期		2	162
	日本文化研究I (宗教文化) 佐藤 真人	1学期		2	163
	日本文化研究II (表象文化) 五月女 晴恵	1学期		2	164

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	日本文学研究I (日本文学) 馬場 美佳	1学期		2	165
	日本語学研究 堀尾 香代子	1学期		2	166
	比較文学研究 木原 謙一	1学期		2	167
	比較言語研究 葛西 宏信	1学期		2	168
	日本文化演習I (宗教文化) 佐藤 真人	2学期		2	169
	日本文化演習II (表象文化) 五月女 晴恵	2学期		2	170
	日本文学演習I (日本文学) 馬場 美佳	2学期		2	171
	日本語学演習 堀尾 香代子	2学期		2	172
比較文学演習 木原 謙一	2学期		2	173	
比較言語演習 葛西 宏信	2学期		2	174	
比較文化研究I (認知言語学) ダニエル・ストラック	1学期		2	175	
比較文化研究II (日米文化比較) ロジャー・ウィリアムソン	1学期		2	176	
比較文化演習I (認知言語学) ダニエル・ストラック	2学期		2	177	
比較文化演習II (日米文化比較) ロジャー・ウィリアムソン	2学期		2	178	
■東アジア専攻	東アジア海域史研究 八百 啓介	1学期		2	179

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■東アジア専攻	東アジア経済研究 魏 芳	1学期		2	180
	東アジア国際政治研究 総田 芳憲	1学期		2	181
	現代中国政治研究 下野 寿子	1学期		2	182
	現代韓国経済研究 尹 明憲	1学期		2	183
	近代日本政治外交史研究 小林 道彦	1学期		2	184
	東南アジア地域研究I (ミャンマー) 伊野 憲治	1学期		2	185
	東南アジア地域研究II (マレーシア・シンガポール) 田村 慶子	1学期		2	186
	国際機構研究 山本 直	1学期		2	187
	アメリカ人種関係論研究 北 美幸	2学期		2	188
	アメリカ社会史研究 寺田 由美	1学期		2	189
	南欧地域研究 岡住 正秀	1学期		2	190
	ロシア地域研究 芳之内 雄二	1学期		2	191
	東アジア海域史演習 八百 啓介	2学期		2	192
	東アジア経済演習 魏 芳	1学期		2	193
	東アジア国際政治演習 総田 芳憲	2学期		2	194

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■東アジア専攻	現代中国政治演習 下野 寿子	2学期		2	195	
	現代韓国経済演習 尹 明憲	2学期		2	196	
	近代日本政治外交史演習 小林 道彦	2学期		2	197	
	東南アジア地域演習I (ミャンマー) 伊野 憲治	2学期		2	198	
	東南アジア地域演習II (マレーシア・シンガポール) 田村 慶子	2学期		2	199	
	国際機構演習 山本 直	1学期		2	200	
	アメリカ人種関係論演習 北 美幸	2学期		2	201	
	アメリカ社会史演習 寺田 由美	2学期		2	202	
	南欧地域演習 岡住 正秀	2学期		2	203	
	ロシア地域演習 芳之内 雄二	2学期		2	204	
	東南アジア近現代史研究 篠崎 香織	1学期		2	205	
	東南アジア近現代史演習 篠崎 香織	2学期		2	206	
	■共通科目	現代英文学研究 田部井 世志子	1学期		2	207
		英語表現法I クレイグ・ランバート	1学期		2	208
英語表現法II クレイグ・ランバート		2学期		2	209	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■共通科目	中国語表現法I 鄧 紅	1学期		2	210
		1年			
	中国語表現法II 鄧 紅	2学期		2	211
		1年			
現代英文学演習 田部井 世志子	2学期		2	212	
	1年				
社会システム総合演習 奥山 恭英	2学期 (ペア)	1	2	213	
	1年				
■特別研究	特別研究 (M)IA 田島 司	1学期	1	2	214
		1年			
	特別研究 (M)IA 松尾 太加志	1学期	1	2	215
		1年			
	特別研究 (M)IA 恒吉 紀寿	1学期	1	2	216
		1年			
	特別研究 (M)IA 見玉 弥生	1学期	1	2	217
		1年			
	特別研究 (M)IA 田中 信利	1学期	1	2	218
		1年			
	特別研究 (M)IA 楠 凡之	1学期	1	2	219
		1年			
	特別研究 (M)IA 河嶋 静代	1学期	1	2	220
		1年			
特別研究 (M)IA 小賀 久	1学期	1	2	221	
	1年				
特別研究 (M)IA 石塚 優	1学期	1	2	222	
	1年				
特別研究 (M)IA 野井 英明	1学期	1	2	223	
	1年				
特別研究 (M)IA 竹川 大介	1学期	1	2	224	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	225
		1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	226
	稲月 正	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	227
	岩松 文代	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	228
	前田 譲治	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	229
	吉川 哲郎	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	230
	漆原 朗子	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	231
	平野 圭子	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	232
	板谷 俊生	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	233
	鄧 紅	1年			
	特別研究 (M)IA	1学期	1	2	234
	王 占華	1年			
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	235	
佐藤 真人	1年				
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	236	
堀尾 香代子	1年				
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	237	
ダニエル・ストラック	1年				
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	238	
ロジャー・ウィリアムソン	1年				
特別研究 (M)IA	1学期	1	2	239	
木原 謙一	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IA 葛西 宏信	1学期	1	2	240
		1年			
	特別研究 (M)IA 田部井 世志子	1学期	1	2	241
		1年			
	特別研究 (M)IA 八百 啓介	1学期	1	2	242
		1年			
	特別研究 (M)IA 金 鳳珍	2学期	1	2	243
		1年			
	特別研究 (M)IA 総田 芳憲	1学期	1	2	244
		1年			
	特別研究 (M)IA 横山 宏章	1学期	1	2	245
		1年			
	特別研究 (M)IA 下野 寿子	1学期	1	2	246
		1年			
	特別研究 (M)IA 白石 麻保	1学期	1	2	247
		1年			
特別研究 (M)IA 尹 明憲	1学期	1	2	248	
	1年				
特別研究 (M)IA 小林 道彦	1学期	1	2	249	
	1年				
特別研究 (M)IA 伊野 憲治	1学期	1	2	250	
	1年				
特別研究 (M)IA 田村 慶子	1学期	1	2	251	
	1年				
特別研究 (M)IA 大平 剛	1学期	1	2	252	
	1年				
特別研究 (M)IA 北 美幸	2学期	1	2	253	
	1年				
特別研究 (M)IA 久木 尚志	1学期	1	2	254	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IA 岡住 正秀	1学期	1	2	255
		1年			
	特別研究 (M)IA 芳之内 雄二	1学期	1	2	256
		1年			
	特別研究 (M)IA 中野 博文	1学期	1	2	257
		1年			
	特別研究 (M)IA 堀地 明	1学期	1	2	258
		1年			
	特別研究 (M)IB 田島 司	2学期	1	2	259
		1年			
	特別研究 (M)IB 松尾 太加志	2学期	1	2	260
		1年			
	特別研究 (M)IB 恒吉 紀寿	2学期	1	2	261
		1年			
	特別研究 (M)IB 見玉 弥生	2学期	1	2	262
		1年			
	特別研究 (M)IB 田中 信利	2学期	1	2	263
		1年			
特別研究 (M)IB 楠 凡之	2学期	1	2	264	
	1年				
特別研究 (M)IB 河嶋 静代	1学期	1	2	265	
	1年				
特別研究 (M)IB 小賀 久	2学期	1	2	266	
	1年				
特別研究 (M)IB 石塚 優	2学期	1	2	267	
	1年				
特別研究 (M)IB 野井 英明	2学期	1	2	268	
	1年				
特別研究 (M)IB 竹川 大介	2学期	1	2	269	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IB 稲月 正	1学期	1	2	270
		1年			
	特別研究 (M)IB 岩松 文代	2学期	1	2	271
		1年			
	特別研究 (M)IB 前田 譲治	2学期	1	2	272
		1年			
	特別研究 (M)IB 吉川 哲郎	2学期	1	2	273
		1年			
	特別研究 (M)IB 漆原 朗子	2学期	1	2	274
		1年			
	特別研究 (M)IB 平野 圭子	2学期	1	2	275
		1年			
	特別研究 (M)IB 板谷 俊生	2学期	1	2	276
		1年			
	特別研究 (M)IB 鄧 紅	2学期	1	2	277
		1年			
特別研究 (M)IB 王 占華	2学期	1	2	278	
	1年				
特別研究 (M)IB 佐藤 真人	2学期	1	2	279	
	1年				
特別研究 (M)IB 堀尾 香代子	2学期	1	2	280	
	1年				
特別研究 (M)IB ダニエル・ストラック	2学期	1	2	281	
	1年				
特別研究 (M)IB ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	282	
	1年				
特別研究 (M)IB 木原 謙一	2学期	1	2	283	
	1年				
特別研究 (M)IB 葛西 宏信	2学期	1	2	284	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IB 田部井 世志子	2学期	1	2	285
		1年			
	特別研究 (M)IB 八百 啓介	2学期	1	2	286
		1年			
	特別研究 (M)IB 金 鳳珍	2学期	1	2	287
		1年			
	特別研究 (M)IB 総田 芳憲	2学期	1	2	288
		1年			
	特別研究 (M)IB 横山 宏章	2学期	1	2	289
		1年			
	特別研究 (M)IB 下野 寿子	2学期	1	2	290
		1年			
	特別研究 (M)IB 白石 麻保	2学期	1	2	291
		1年			
	特別研究 (M)IB 尹 明憲	2学期	1	2	292
		1年			
	特別研究 (M)IB 小林 道彦	2学期	1	2	293
		1年			
特別研究 (M)IB 伊野 憲治	2学期	1	2	294	
	1年				
特別研究 (M)IB 田村 慶子	2学期	1	2	295	
	1年				
特別研究 (M)IB 大平 剛	2学期	1	2	296	
	1年				
特別研究 (M)IB 北 美幸	2学期	1	2	297	
	1年				
特別研究 (M)IB 久木 尚志	2学期	1	2	298	
	1年				
特別研究 (M)IB 岡住 正秀	2学期	1	2	299	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IB 芳之内 雄二	2学期	1	2	300
		1年			
	特別研究 (M)IB 中野 博文	1学期	1	2	301
		1年			
	特別研究 (M)IB 堀地 明	2学期	1	2	302
		1年			
	特別研究 (M)IIA 恒吉 紀寿	1学期	2	2	303
		2年			
	特別研究 (M)IIA 見玉 弥生	1学期	2	2	304
		2年			
	特別研究 (M)IIA 楠 凡之	1学期	2	2	305
		2年			
	特別研究 (M)IIA 小賀 久	1学期	2	2	306
		2年			
特別研究 (M)IIA 石塚 優	1学期	2	2	307	
	2年				
特別研究 (M)IIA 竹川 大介	1学期	2	2	308	
	2年				
特別研究 (M)IIA	1学期	2	2	309	
	2年				
特別研究 (M)IIA 前田 譲治	1学期	2	2	310	
	2年				
特別研究 (M)IIA デニス・ジョーンズ	1学期	2	2	311	
	2年				
特別研究 (M)IIA 鄧 紅	1学期	2	2	312	
	2年				
特別研究 (M)IIA 王 占華	1学期	2	2	313	
	2年				
特別研究 (M)IIA ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	314	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IIA 木原 謙一	1学期	2	2	315
		2年			
	特別研究 (M)IIA 田部井 世志子	1学期	2	2	316
		2年			
	特別研究 (M)IIA 八百 啓介	1学期	2	2	317
		2年			
	特別研究 (M)IIA 横山 宏章	1学期	2	2	318
		2年			
	特別研究 (M)IIA 下野 寿子	1学期	2	2	319
		2年			
	特別研究 (M)IIA 中野 博文	1学期	2	2	320
		2年			
	特別研究 (M)IIB 恒吉 紀寿	2学期	2	2	321
		2年			
	特別研究 (M)IIB 見玉 弥生	2学期	2	2	322
		2年			
	特別研究 (M)IIB 楠 凡之	2学期	2	2	323
		2年			
特別研究 (M)IIB 小賀 久	2学期	2	2	324	
	2年				
特別研究 (M)IIB 石塚 優	2学期	2	2	325	
	2年				
特別研究 (M)IIB 竹川 大介	2学期	2	2	326	
	2年				
特別研究 (M)IIB 稲月 正	2学期	2	2	327	
	2年				
特別研究 (M)IIB 前田 譲治	2学期	2	2	328	
	2年				
特別研究 (M)IIB デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	329	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		2年			
■特別研究	特別研究 (M)IIB 木下 善貞	2学期	2	2	330
		2年			
	特別研究 (M)IIB 鄧 紅	2学期	2	2	331
		2年			
	特別研究 (M)IIB 王 占華	2学期	2	2	332
		2年			
	特別研究 (M)IIB ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	333
		2年			
	特別研究 (M)IIB 木原 謙一	2学期	2	2	334
		2年			
	特別研究 (M)IIB 田部井 世志子	2学期	2	2	335
		2年			
	特別研究 (M)IIB 八百 啓介	2学期	2	2	336
	2年				
特別研究 (M)IIB 金 鳳珍	2学期	2	2	337	
	2年				
特別研究 (M)IIB 下野 寿子	2学期	2	2	338	
	2年				
特別研究 (M)IIB 寺田 由美	2学期	2	2	339	
	2年				
特別研究 (M)IIB 近藤 倫明	2学期	2	2	340	
	2年				
特別研究 (M)IIB 馬場 美佳	2学期	2	2	341	
	2年				

マクロ経済学研究【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学部レベルのマクロ経済学では、IS-LMモデルなどに代表されるケインズ経済学が説明の中心になる場合が多いのに対し、大学院レベルのマクロ経済学では、新古典派的な一般均衡理論を動学的に拡張した理論体系（＝動学的一般均衡理論）が説明の中心となるのが世界の通例である。この講義においてもその方針に従い、単純な静学モデルを出発点にしてそれを少しずつ複雑化していくことで、最終的に「世代重複モデル」や「ラムゼイモデル」といった大学院レベルのマクロ経済学の基礎知識を学習する。この講義の到達目標は、一般均衡理論の取り扱いに習熟し、自分でモデルを構築・拡張する能力を養うことである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 一般均衡モデルの基礎(1) 【交換経済】
- 3回 一般均衡モデルの基礎(2) 【生産経済】
- 4回 一般均衡モデルの基礎(3) 【2期間モデル】
- 5回 資産市場の一般均衡モデル(1) 【不確実性】【条件付債権】
- 6回 資産市場の一般均衡モデル(2) 【均衡証券価格】
- 7回 世代重複モデルとその応用(1) 【基本モデル】【動学的効率性】
- 8回 世代重複モデルとその応用(2) 【遺産動機】
- 9回 世代重複モデルとその応用(3) 【国債負担】
- 10回 世代重複モデルとその応用(4) 【貨幣経済】
- 11回 ラムゼイモデルとその応用(1) 【基本モデル】【修正黄金律】
- 12回 ラムゼイモデルとその応用(2) 【リカードの中立命題】
- 13回 ラムゼイモデルとその応用(3) 【開放経済】
- 14回 ラムゼイモデルとその応用(4) 【実物的景気循環】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院レベルのマクロ経済学では、それを理解するために必要となる数学的知識が急激に増大する。受講生が各自で必要な数学を勉強することなしに大学院レベルのマクロ経済学を理解することは不可能だと理解しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学研究【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いて、現実の種々の経済問題についての理論的分析について理解する。

教科書 /Textbooks

未定、受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ミクロ経済学と数学
- 2 回消費者行動理論 (1) : 【選好の理論】
- 3 回消費者行動理論 (2) : 【スルーツキー方程式】
- 4 回消費者行動理論 (3) : 【補償需要】
- 5 回消費者行動理論 (4) : 【顕示選好理論】とその応用
- 6 回生産者行動理論 (1) : 【生産の理論】
- 7 回生産者行動理論 (2) : 【費用関数】
- 8 回生産者行動理論 (3) : 競争的企業の利潤最大化
- 9 回生産者行動理論 (4) : 財の供給と投入需要、長期vs.短期
- 1 0 回厚生経済学 (1) : 【エッジワースのボックス・ダイアグラム】【パレート最適】
- 1 1 回厚生経済学 (2) : 【消費の効率性】
- 1 2 回厚生経済学 (3) : 【生産の効率性】
- 1 3 回厚生経済学 (4) : 競争的企業の一般均衡、厚生経済学の【定理】
- 1 4 回経済とミクロ経済分析
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 3 0 %、 レポート 7 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

数学的基礎知識

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

消費者理論、生産者理論、市場の効率性

国際金融論研究【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることとする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する諸問題について、自ら課題を設定し、論理展開し、レポートを作成できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

秦忠夫ほか(2012)『国際金融のしくみ』[第4版]、有斐閣アルマ。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 国際収支【複式簿記の原理】
- 2回 国際収支【経常収支】【資本収支】
- 3回 外国為替と国際通貨【並為替・逆為替】
- 4回 外国為替と国際通貨【基軸通貨】
- 5回 為替相場と円高・円安【購買力平価】
- 6回 為替相場と円高・円安【実効為替レート】
- 7回 戦後の国際通貨制度【IMF】
- 8回 戦後の国際通貨制度【変動相場制】
- 9回 発展途上国の開発金融【世界銀行】
- 10回 発展途上国の開発金融【直接投資】
- 11回 ドル体制の変遷【プラザ合意】
- 12回 ドル体制の変遷【世界金融危機】
- 13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関【投資銀行】
- 14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関【デリバティブ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞・ニュースに触れる習慣を身につけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で採用されたまたは採用している経済政策に関して国際比較をしながら学習する。産業政策、公共政策、雇用政策、社会福祉政策などを詳細に学習する。経済の国際化、日本の急速な少子高齢化など経済状況の変化に応じて制度変更が実施されてきている。その点に注目して学習を進め、今後の経済政策のあり方について考察を深める。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済・社会に関する問題を解決するための経済政策の知識を身につける。
- ②現実の経済問題を設定し、その解決策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

『経済政策の考え方』河合正弘・武蔵武彦・八代尚宏著、有斐閣アルマ
『銀行の破綻と競争の経済学』菊池英博、東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済政策論とは - 経済政策の必要性 -
- 2回 政府の役割 - 市場の失敗と政府の役割 - (1)【市場経済】【市場の失敗】
- 3回 政府の役割 - 市場の失敗と政府の役割 - (2)【政府の役割】【政府の失敗】
- 4回 産業政策(1)【市場の理論と企業の参入・退出について】
- 5回 産業政策(2)【農業政策について】
- 6回 産業政策(3)【経済のグローバル化と産業空洞化について】
- 7回 公共政策(1)【公共政策の理論】
- 8回 公共政策(2)【公益事業について】
- 9回 公共政策(3)【環境政策について】
- 10回 雇用政策(1)【失業対策について】
- 11回 雇用政策(2)【雇用維持・拡大政策の理論】
- 12回 福祉政策(1)【公的年金制度について】
- 13回 福祉政策(2)【公的医療政策について】
- 14回 福祉政策(3)【福祉政策の課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30% ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済政策論研究では、広範にわたる分野を深く学習するため、毎回予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論研究【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゲーム理論をベースに不完全競争かつ様々な経済環境での企業行動や企業戦略・産業の動きに関して解説を行う。特に市場構造に注目して講義を行う。また、理論とその実証分析に力点を置き、最新の先行研究も紹介しながら、解説を行う。学生は、講義に参加するだけでなく、道具を身につけるとい意識を持って出席して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ Oz Shy. 1995. Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 産業組織論の概要
- 第2回 ミクロ経済学の復習
- 第3回 非協力ゲーム：静学ゲーム
- 第4回 非協力ゲーム：動学ゲーム
- 第5回 独占
- 第6回 寡占
- 第7回 寡占：カルテルと無限繰り返しゲーム
- 第8回 寡占：クールノーの極限定理
- 第9回 寡占：差別化された財とProduct Positioning
- 第10回 独占的競争
- 第11回 価格差別
- 第12回 産業動学
- 第13回 ネットワーク外部性
- 第14回 情報の役割
- 第15回 Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の知識が必要
 戦略的水・資源循環リーダー育成事業(2009-13年度：科学技術振興調整費助成事業)の講義科目になっています。留学生が多ければ、講義は英語で行われます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学研究【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

到達目標

- ① 統計的推定と検定を理解する。
- ② 正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
- ③ 漸近分布の概念を理解する。

教科書 /Textbooks

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学研究【昼】

担当者名
/Instructor

藤井 敦 / 経済学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の実証分析でよく用いられる計量経済学的手法について学習する。学部レベルの統計学・計量経済学の知識を復習したのち、回帰分析をやや理論的に扱う。経済データの特徴に対応した計量分析手法として、制限従属変数、時系列分析、パネルデータを扱う。理論的な展開と実証分析事例を平行させて理解を深める。

到達目標は、利用可能なデータと分析目的が与えられたときに、適切な分析手法を選択できることである。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Greene (2008), *Econometric Analysis*, Pearson Education.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、統計学の復習(同時確率分布とモーメント)
- 2回 統計学の復習(推定、検定)
- 3回 計量経済学の復習(回帰分析、回帰診断、係数に関する検定)
- 4回 計量経済学の復習(系列相関と不均一分散、同時方程式)
- 5回 一般化最小二乗法による推定と検定
- 6回 同時方程式(識別問題)、SUR
- 7回 操作変数法、GMM
- 8回 最尤推定法
- 9回 母数に関する非線形制約の検定
- 10回 プロビット、ロジットモデル
- 11回 トービットモデル、サンプルセレクション
- 12回 時系列モデル1 (ARMA, VAR)
- 13回 時系列モデル2 (単位根, 共積分)
- 14回 パネルデータ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

数学の予備知識として、二次関数のグラフを描けるようにしておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済論研究【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済活動と地域との複雑な関わりを理解してもらうことを目標とする。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に指定しない。

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学研究【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、施策志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的で、しかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深く、しかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニック
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習態度と期末の発表およびレポートの内容による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学、さらには微分積分や線形代数の知識を必要とする。統計的手法や計量経済学の知識は有効。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学研究【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。本講義のねらいは、現代会計学が抱える基本的な課題を理解したうえで解決の方途を見出すことである。

教科書 /Textbooks

昨年度は、桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）を使用した。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心に、テキストを輪読し、解説することにした。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80% ディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計研究 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理が確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何を意味するのか、その概要を研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斎藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』、中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【貨幣性資産】【非貨幣性資産】
- 8回 会計観の転換について【動態論】【静態論】
- 9回 旧態の会計の諸問題【必要性の論理】【可能性の論理】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【論理的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【規範理論】
- 12回 現代会計の諸問題【説明理論】
- 13回 IASB,FASB等の会計思考【コンバージェンス】
- 14回 諸外国の会計思考のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60 % レポート ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチについて、教科書やインターネットで学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計研究 【昼】

担当者名
/Instructor

梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計理論の応用分野の知識を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤弘光・齋藤正章『改訂新版 管理会計』放送大学教育振興会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 管理会計概論 (1)
- 3回 管理会計概論 (2) 前半
- 4回 管理会計概論 (2) 後半
- 5回 管理会計概論 (3) 前半
- 6回 管理会計概論 (3) 後半
- 7回 資本予算 (1) 前半
- 8回 資本予算 (1) 後半
- 9回 資本予算 (2) 前半
- 10回 資本予算 (2) 後半
- 11回 株主価値を高める事業戦略 前半
- 12回 株主価値を高める事業戦略 後半
- 13回 株主価値と経営計画 前半
- 14回 株主価値と経営計画 後半
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルの「管理会計論」と「企業ファイナンス」の知識は習得済みであること。

毎回レポートを課します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学研究【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカにおける戦略と組織について理論的考察と事例研究を行う。

教科書 /Textbooks

A. D. チャンドラー著 (有賀裕子訳) 『組織は戦略に従う』 ダイヤモンド社、2004年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、受講生はテキストのテーマについて報告し、討論を行う。

- 1～3回 環境 → 戦略 → 組織
- 4～5回 垂直統合戦略と集権的職能部制組織
- 6～7回 多角化戦略と分権的事業部制組織
- 8～14回 デュポン、GM、シアーズ・ローバック、スタンダード・オイル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、 討議 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

戦略論や組織論についての基礎知識を習得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論研究【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
到達目標は以下のとおりです。
・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究目的を考慮したうえで、経営戦略論の代表的文献の中から指定します。
昨年度使用教科書
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。
第1回 ガイダンス
第2～14回 上記テキスト各章を輪読、および討議。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

企業論研究【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ=持株会社の研究

我が国で戦後一貫して、その設立を禁止されていた持株会社が、ついに解禁された。1997年に持株会社が解禁されたのである。早くも現在、日本の巨大金融グループ・事業グループにおいて、積極的に利用され、その姿を現実のものとしている。そこで、講義では、持株会社の設立・持株会社の経営・持株会社のガバナンス（機関）を中心に学習していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～①下谷正弘『持株会社解禁』中公新書、1996年・②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(○)、2006年・③ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年。
- 2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年(○)・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年(○)・③布井千博『会社法』新世社、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態論1
- 2回 企業形態論2
- 3回 株式会社1
- 4回 株式会社2
- 5回 株式会社3
- 6回 株式会社と証券市場1
- 7回 株式会社と証券市場2
- 8回 ガバナンス1
- 9回 ガバナンス2
- 10回 ガバナンス3
- 11回 持株会社1
- 12回 持株会社2
- 13回 持株会社とガバナンス1
- 14回 持株会社とガバナンス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習。レジュメの報告と内容。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題

- ①ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年を、四百字詰原稿用紙で10枚以上にまとめてみる。
- ②持株会社解禁によって、どのような問題が発生しているのか、新聞記事を中心にまとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態(個別企業形態と企業集中形態)・株式会社(公開株式会社・公開会社・非公開会社)・持株会社(事業持株会社と純粋持ち株会社)・ガバナンス(持株会社のガバナンス)

マクロ経済学演習【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では以下の2つを目的とする。

① 経済数学の学習

大学院レベルのマクロ経済学の習得には一定水準の数学的能力が不可欠となるが、講義で必要な数学の説明を行う時間はないので、この演習で経済数学の専門書を輪読する。到達目標は、必要な数学的技法に習熟し、自分でモデル計算を行える力を身につけることである。

② 各自が興味を持った論文の精読・報告

学生が興味を持った論文を自力で読み、それを演習で報告してもらう。到達目標は、論文読解能力やプレゼンテーション能力を鍛えると同時に、修士論文のテーマを見つけることである。

教科書 /Textbooks

経済数学のテキストとして、以下の2冊を予定している。

A.Dixit 「Optimization in Economic Theory」 Oxford Press

A.C.Chiang 「Dynamic Optimization」 McGraw Hill

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告、経済数学(静学的最適化1)【ラグランジュ乗数法】
- 3回 文献報告、経済数学(静学的最適化2)【クーン・タッカー条件】
- 4回 文献報告、経済数学(静学的最適化3)【行列】
- 5回 文献報告、経済数学(静学的最適化4)【全微分】【比較静学】
- 6回 文献報告、経済数学(静学的最適化5)【消費者選択問題】
- 7回 文献報告、経済数学(動学的最適化1)【差分方程式】
- 8回 文献報告、経済数学(動学的最適化2)【ラグランジュ乗数法】
- 9回 文献報告、経済数学(動学的最適化3)【離散時間の最適成長モデル】
- 10回 文献報告、経済数学(動学的最適化4)【微分方程式】
- 11回 文献報告、経済数学(動学的最適化5)【固有値問題】
- 12回 文献報告、経済数学(動学的最適化6)【変分法】
- 13回 文献報告、経済数学(動学的最適化7)【最適制御理論】
- 14回 文献報告、経済数学(動学的最適化8)【動的計画法】
- 15回 文献報告、経済数学(動学的最適化9)【連続時間の最適成長モデル】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 報告の出来 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に関しては、徹底的な準備を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、具体的なミクロ経済分析の論理と方法について学習し、受講者の関心のある分野の論文をサーベイしつつ、関連分野についての議論を理解する。

教科書 /Textbooks

未定。受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 授業計画例 (受講者の関心分野によって異なり得る。)
- 1 回ミクロ経済学と数学
- 2 回不完全競争の経済分析 (1) : 【独占】、【価格の差別化】
- 3 回不完全競争の経済分析 (2) : 【寡占】クールノのモデル
- 4 回不完全競争の経済分析 (3) : シュタッケルベルグのモデル
- 5 回不完全競争の経済分析 (4) : 【独占的競争】
- 6 回不確実性と情報の経済分析 (1) : 【不確実性】、【リスク】、【情報】
- 7 回不確実性と情報の経済分析 (2) : 【状態条件付き請求権】
- 8 回不確実性と情報の経済分析 (3) : 【逆選択】
- 9 回不確実性と情報の経済分析 (4) : 【モラルハザード】
- 1 0 回ゲーム理論とミクロ経済分析 (1) : 【ゲーム理論】とは
- 1 1 回ゲーム理論とミクロ経済分析 (2) : 【同時手番ゲーム】
- 1 2 回ゲーム理論とミクロ経済分析 (3) : 【逐次手番ゲーム】
- 1 3 回ゲーム理論とミクロ経済分析 (4) : ゲーム理論とその応用
- 1 4 回ミクロ経済分析の応用
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 ... 3 0 %、 レポート ... 7 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学における数理的手法についての基礎知識

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性と情報、ゲーム理論

国際金融論演習【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する諸問題について、自ら課題を設定し、論理展開し、レポートを作成できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

秦忠夫ほか(2012)『国際金融のしくみ』[第4版]、有斐閣アルマ。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【安定成長協定】
- 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【ERM2】
- 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【アジア金融・通貨危機】
- 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【ロシア危機】
- 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【ドルベッグ】
- 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【不胎化介入】
- 7回 アメリカ発の金融危機【サブプライム危機】
- 8回 アメリカ発の金融危機【リーマンショック】
- 9回 欧州への金融危機の波及【流動性危機】
- 10回 欧州への金融危機の波及【ラトビア危機】
- 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【金融安定化法】
- 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【外貨準備】
- 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例などについて)
- 14回 DVD学習内容の解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞・ニュースに触れる習慣を身につけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済政策論演習 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で採用されたまたは採用している経済政策に関して国際比較をしながら演習形式で学習する。1学期の「経済政策論研究」に引き続き、国際貿易政策、為替政策、金融政策、財政政策などを詳細に学習する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済・社会の問題を解決するために、経済政策に関する理論を修得する。
- ②自ら経済問題を設定し、その解決策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

『経済政策の考え方』河合正弘・武蔵武彦・八代尚宏著、有斐閣アルマ
『銀行の破綻と競争の経済学』菊池英博、東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日米貿易摩擦と貿易理論・政策(1)【貿易摩擦の歴史】
- 2回 日米貿易摩擦と貿易理論・政策(2)【貿易摩擦が発生する原因とその解決策】
- 3回 円・ドルレートの推移と為替政策(1)【円ドルレートの変遷】
- 4回 円・ドルレートの推移と為替政策(2)【為替レート決定理論】
- 5回 円・ドルレートの推移と為替政策(3)【国際協調政策としての為替政策】
- 6回 まとめ(1)【貿易政策と為替政策の関係】
- 7回 戦後の金融規制と近年の銀行規制(1)【信用維持規制】
- 8回 戦後の金融規制と近年の銀行規制(2)【BIS規制とは】
- 9回 戦後の金融規制と近年の銀行規制(3)【BIS規制と90年代の銀行経営】
- 10回 戦後の金融規制と近年の銀行規制(4)【BIS基準変更と銀行経営】
- 11回 戦後の金融規制と近年の銀行規制(5)【BIS規制とサブプライム問題】
- 12回 高齢化社会と財政政策(1)【日本の高齢化の現状】
- 13回 高齢化社会と財政政策(2)【高齢化と社会保障政策】
- 14回 高齢化社会と財政政策(3)【高齢化と経済】
- 15回 まとめ(2)【高齢化と社会保障、銀行経営】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の経済政策研究を履修していることが望ましい。また、経済政策研究と同様、毎回の予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論演習【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

構造型推定のベースとなっている離散選択理論について解説を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：はじめに
 第2回：properties of discrete choice models
 第3回：logit model
 第4回：probit model
 第5回：generalized extreme value model
 第6回：mixed logit model
 第7回：individual-level parameters
 第8-10回：aggregate data type
 第11回：numerical maximization
 第12回：drawing from densities
 第13回：simulation estimation
 第14回：EM algorithms
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学演習【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、統計処理ソフトウェアSASに習熟する。SASのデータステップ、プロシジャステップ、EXCELとの連携の仕方を学ぶ。次にCAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの経済理論を簡単に学習し、これらを題材にしたデータ解析の技術の習得を目指す。

到達目標

- ①SASによる統計解析ができるようになる。
- ②回帰分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。
- ③CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの実証分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1991.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 SASデータステップ
- 2 SASプロシジャステップ
- 3 SASとEXCEL
- 4 SAS出力の読み方
- 5 CAPMの初歩
- 6 CAPMの理論
- 7 CAPMの演習
- 8 CAPMと日本市場
- 9 人的資本論の初歩
- 10 人的資本論の理論
- 11 人的資本論の演習
- 12 人的資本論と日本経済
- 13 ヘドニック価格指数の初歩
- 14 ヘドニック価格指数の理論
- 15 ヘドニック価格指数の演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

統計学研究を既習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SAS、CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数

計量経済学演習【昼】

担当者名
/Instructor

藤井 敦 / 経済学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実証分析の論文を読み、経済理論をどのようにして実際のデータで分析するのかを学ぶ。理論モデルに合わせた計量モデルの構築、データの収集とその検討、計量モデルの推定と検定、統計分析結果の報告の仕方と解釈、政策的合意の導出までの一定のプロセスを実例を用いて経験することが目的である。余裕があれば、コンピュータを用いた簡単な分析を体験する。

教科書 /Textbooks

適宜、実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、問題の背景→統計モデルの設定→推定・検定→解釈のシンプルな例を紹介
- 2回 回帰分析による実証分析：なぜ回帰分析を用いなければならないのか
- 3回 回帰分析による実証分析：回帰分析からどのような結論を引き出せるか
- 4回 パネルデータによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 5回 パネルデータによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 6回 パネルデータによる実証分析：パネルデータ用モデル特有の統計的推測
- 7回 多項ロジットモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 8回 多項ロジットモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 9回 多項ロジットモデルによる実証分析：多項ロジットモデル特有の統計的推測
- 10回 カウントデータモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 11回 カウントデータモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 12回 カウントデータモデルによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 13回 VARによる実証分析：通常の計量経済学モデルとどこが違うか
- 14回 VARによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

計量経済学研究を履修しておく、より効果的に学べる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済論演習 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつては、工場や工業地帯が地域経済を支える基盤であったが、今日ではその役割は都市が引き受けている。これは、経済活動の変化がもたらしたものであるが、その背後には経済を取り囲む諸環境の変化がある。本授業では、このような環境変化の中心に技術革新があると考え、特に今日のコンピュータ・ネットワークの急速な発達が都市経済にどのような影響を及ぼすかについて解説する。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 経済と環境
2. 技術について
3. 情報化社会と情報技術
4. 空間克服技術
5. 空間克服技術としてのコンピュータ・ネットワーク
6. 空間的フローについて
7. 情報のキャリアーとしての人間
8. 都市集積の理論
9. 光速の情報流の経済的意味
10. コンピュータの社会化の歴史
11. 企業の変容
12. Web 2.0はどこに
13. イノベーションと都市
14. 21世紀の都市
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に指定しない。

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「情報社会と都市」について一緒に考えたいと思います。

キーワード /Keywords

応用地域科学演習【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を前提として、受講生による個別具体的問題意識を踏まえて、その解明のための助言等を適宜示唆することとする。したがって、この授業では担当者によって予め用意された講義内容を一方的に行うのではなく、むしろ受講生による問題意識の顕在化に努めさせるとともに、そのアプローチの仕方等を示唆することにより、その適用能力を、適宜、高めてもらうことを意図している。

教科書 /Textbooks

演習の趣旨から、テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 産業連関表とは
- 3回 産業連関表の取り扱い
- 4回 ベクトル・行列の計算
- 5回 データおよび部門の概念
- 6回 均衡生産量決定モデル
- 7回 均衡生産量決定モデルの拡張
- 8回 均衡価格決定モデル
- 9回 均衡価格決定モデルの拡張
- 10回 産業構造の分析
- 11回 価格構造の分析
- 12回 地域産業連関表の詳細
- 13回 国際産業連関表の詳細
- 14回 最適化問題としての産業連関表
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の発表と期末のレポートの内容による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「応用地域科学研究」が履修済みであることを必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学演習【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。本講義のねらいは、現代会計学が抱える基本的な課題を理解したうえで解決の方途を見出すことである。

教科書 /Textbooks

昨年度は、桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）を使用した。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心に、テキストを輪読し、解説することにした。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80% ディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計演習 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理が確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何を意味するのか、その会計の論理の妥当性を研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斎藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』、中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的 【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【信頼性】【有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討 【関連性】
- 5回 財務諸表の構成要素 【資産】【負債】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【純資産】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【定量化】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定性化】
- 11回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 12回 財務報告のその他の重要な論点【包括利益】【純利益】
- 13回 IASB,FASB等の考え方の比較【会計基準】
- 14回 諸外国の会計思考のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60 % レポート ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチについて、教科書やインターネットで学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計演習 【昼】

担当者名
/Instructor

梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計理論の応用分野の知識を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版 管理会計』放送大学教育振興会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 原価計算の測定と原価情報の活用①
- 3回 原価計算の測定と原価情報の活用②
- 4回 原価計算の測定と原価情報の活用③
- 5回 予算管理システム①
- 6回 予算管理システム②
- 7回 予算管理システム③
- 8回 部門別業績管理①
- 9回 部門別業績管理②
- 10回 部門別業績管理③
- 11回 業績管理会計の理論①
- 12回 業績管理会計の理論②
- 13回 業績管理会計の理論③
- 14回 業績管理会計の理論④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルの「管理会計論」と「企業ファイナンス」の知識は習得済みであること。

毎回レポートを課します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学演習【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスをめぐる論争を整理し、検討する

教科書 /Textbooks

今西宏治著 『株式会社法の権力とコーポレート・ガバナンス』 文真堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者は、毎回テーマについて報告し、討議を行う。

- 1～2回 企業の支配構造の検討
- 3～4回 企業主権論の論争
- 5～7回 内部統治論の検討
- 8～11回 ガバナンスの国際比較(アングロサクソン型、ライン型、日本型、中国型)
- 12～14回 日本のガバナンス改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、討議 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

株式会社論の基礎知識を習得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論演習【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講では「経営戦略論研究」で身につけた経営戦略の理論をベースに、実際の企業のケース・スタディを行うことで、理論と実践の統合をはかることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では企業のケース資料の読み込み・討議をつうじて、企業経営の実践的理解を深めていきます。

講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。

また、随時レポートの提出を求めます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 ケース素材から13社選び、ケース討議を行う。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に学んだ経営戦略論の理論の復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

企業論演習【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、盛んに議論されている企業統治（コーポレートガバナンス）論について学習していく。なかでも、「純粋持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで研究していく。

研究テーマに応じた参考文献を担当者が紹介・指示するとともに、受講者が参考文献一覧を作成し、その中から必要な文献を順次講読・検討していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘の持株会社に関する文献3冊(人数如何では、こちらから用意します)。

『持株会社解禁』中公新書、1996年

『持株会社の時代』有斐閣、2006年

『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

持株会社に関する文献。

1、企業論関係～①箱田(他)編『持株会社の実務～第5版～』東洋経済新報社、2007年・②高橋宏幸『戦略的持ち株会社の経営』中央経済社、2007年。

2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 過去の研究テーマの紹介・説明
- 2回 研究テーマの設定
- 3回 参考文献表の作成
- 4回 論文構成について
- 5回 英語参考文献の紹介と精読
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 第1回プレゼンテーション
- 13回 第2回プレゼンテーション
- 14回 第3回プレゼンテーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60% 学習態度 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年を学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社・持株会社の機能

労働経済学研究【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。本講義では、採用・解雇基準の設定、賃金形態の設定、職業訓練の実施といった人事制度に関するトピックについて学ぶ。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための基礎を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』, エドワード P. ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：人事の経済学とは 【人事制度】
- 第2回 採用基準の設定(1) 【限界分析】
- 第3回 採用基準の設定(2) 【対費用効果】
- 第4回 適任者の採用【自己選択】 【モニタリング】
- 第5回 労働者の生産性を知る【非対称情報】 【職務配置】
- 第6回 変動給与と固定給与(1) 【投入ベース】 【産出ベース】
- 第7回 変動給与と固定給与(2) 【リスク回避】 【就労インセンティブ】
- 第8回 人的資本理論(1) 【人的資本理論】 【学校教育】
- 第9回 人的資本理論(2) 【職場訓練】
- 第10回 離職・解雇・希望退職(1) 【年齢構成】
- 第11回 離職・解雇・希望退職(2) 【希望退職】 【選別的解雇】
- 第12回 情報, シグナル及び引き抜き(1) 【シグナリング】
- 第13回 情報, シグナル及び引き抜き(2) 【引き抜き】
- 第14回 動機づけとしての昇進(1) 【トーナメント】
- 第15回 動機づけとしての昇進(2) 【絶対成果】 【相対成果】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読形式を基本とするため、予めテキストを読んでおくことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学演習【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。本講義では、1学期の労働経済学研究の延長として、特に組織制度に注目しながら、チームによる仕事や職務と権限の構造などを学ぶ。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための方法を獲得することが目標とする。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』, エドワード P. ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社内における利害行動【社内競争】
- 第2回 年功型インセンティブ制度【賃金プロファイル】
- 第3回 チーム(1)【チーム】
- 第4回 チーム(2)【チームインセンティブ】
- 第5回 特殊な雇用関係・契約【アウトソーシング】【フランチャイズ】
- 第6回 金銭的インセンティブ【ボーナス】【ペナルティ】
- 第7回 非金銭的インセンティブ【非金銭的報酬】
- 第8回 付加給付【カフェテリア方式】
- 第9回 付加給付【年金給付】
- 第10回 職務と権限【職務権限構造】
- 第11回 評価(1)【人事評価】
- 第12回 評価(2)【評価利用】
- 第13回 労働者の権限強化(1)【意思伝達】
- 第14回 労働者の権限強化(2)【権限強化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働経済学研究を履修済みであることが必要である。
輪読形式を基本とするため、予めテキストを読んでおくことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学研究【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学-理論と実践』 勁草書房 2005年○
 岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○
 環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共和分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理研究【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経営の側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。扱う領域は学部講義である「人事管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したいと考えています。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白木三秀(2011)『人的資源管理の基本(第2版)』文真堂。(2,520円)
 上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。(2,730円)
 岩出 博(2007)『Lecture人事労務管理』泉文堂。(4,410円)
 その他、講義中に適宜参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究へのプロローグ
- 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
- 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
- 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
- 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
- 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
- 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
- 9回 賃金制度と福利厚生制度【年功賃金】【成果主義賃金】【カフェテリア・プラン】
- 10回 労使関係論【企業別組合】
- 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
- 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 働く時間と空間の多様化【ワーク・ライフ・バランス】
- 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート・・・75% (初回と最終回を除いて毎回2,000字程度のレポートを課す。未提出の回数が多い場合は不可とする。)
 期末レポート・・・25% (4,000字～6,000字を予定)
 ※各自が書いた中間レポートの内容を、口頭で報告してもらうことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は指定された箇所を必ず読んでくることはもちろんのこと、教科書以外に配布する論文も必読とする。

履修上の注意 /Remarks

大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。また、講義は日本語で行なう。経営学の個別分野に該当するため、経営学の初学者には少々難しい内容になると思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院担当は今年度がはじめてなので、学生諸君の理解水準をよく把握できていない。また受講者も比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

人的資源管理演習【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経々側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

扱う領域は学部講義である「人事管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したいと考えています。「人的資源管理研究」では基本的な内容も含めて議論をするのに対して、「人的資源管理演習」においては学術的研究の動向にウエイトを置いた議論を展開したいと考えています。

教科書 /Textbooks

大学院水準の教科書が人的資源管理では少ないため、とくに指定しない。
ただし、良い本が見つかれば、講義開始時に改めて指定する可能性はある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白木三秀(2011)『人的資源管理の基本(第2版)』文眞堂。(2,520円)
上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。(2,730円)
奥林康司編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)
岩出 博(2007)『Lecture人事労務管理』泉文堂。(4,410円)
※奥林編(2009)は「人的資源管理研究」の指定教科書である。
※別途、各回において論文を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 4回 職務設計論の研究【分業】【調整】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 雇用管理の研究【終身雇用】【雇用の流動化】
- 7回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 8回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 9回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 10回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25% (配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらおう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いほうが多くなることはあらかじめ了承されたい。)
中間レポート・・・50% (初回と最終回を除いて毎回2,000字程度のレポートを課す。未提出の回数が多い場合は不可とする。)
最終レポート・・・25% (4,000字～6,000字を予定)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された論文は必ず読んでくること。

人的資源管理演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義は日本語で行なう。
大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。また、「人的資源管理研究」の上位科目に該当するので、当然ながら「人的資源管理研究」の履修を前提とする。ただ、当該科目を履修していないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただ、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院担当は今年度がはじめてなので、学生諸君の理解水準をよく把握できていない。また受講者も比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。
人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。ただ、上記のとおり人的資源管理の基礎知識は前提として講義を進めるので、それが不安な人は「人的資源管理研究」から受講してほしい。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

コーポレート・ファイナンス研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、欧米のビジネススクールで定評のあるテキストを輪読し、コーポレート・ファイナンスの基礎概念と主要なトピックを学習します。

教科書 /Textbooks

Richard Brealey, Stewart Myers, Franklin Allen, Principles of Corporate Finance 10th, McGraw Hill Higher Education, 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Stephen A. Ross, Corporate Finance, McGraw-Hill Higher Education.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Goals and Governance of the Firm
- 第3回 How to Calculate Present Values
- 第4回 Valuing Bonds
- 第5回 The Value of Commons Stocks
- 第6回 Net Present Value and Other Investment Criteria
- 第7回 Making Investment Decisions with the Net Present Value Rule
- 第8回 Introduction to Risk and Return
- 第9回 Portfolio Theory and the Capital Asset Pricing Model
- 第10回 Risk and the Cost of Capital
- 第11回 Agency Problems, Compensation, and the Performance Measurement
- 第12回 Efficient Markets and Behavioral Finance
- 第13回 How Corporations Issue Securities
- 第14回 Payout Policy
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...50% 授業への貢献度など(報告・発言・レポートなど)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学(計量経済学)」・「会計学(財務会計・管理会計)」の知識を前提とします。不安がある場合はしっかり復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

参加者は毎回報告の義務があります。また、授業中に何も発言しない人(自発的に発言しない人)には単位を与えません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレート・ファイナンス演習【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、コーポレート・ファイナンスにおける主要なトピックの1つである、コーポレート・ガバナンスに関する文献を輪読し、コーポレート・ガバナンスに関する基礎知識を得ると同時に、近年の研究動向を追うことを目的とします。

教科書 /Textbooks

Randall, Morck, A History of Corporate Governance around the World: Family Business Groups to Professional Managers, The University of Chicago Press, 2005

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献(最新の論文も含む)は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 The Global History of Corporate Governance
- 第3回 The Rise and Fall of the Widely Held Firm: A History of Corporate Ownership in Canada
- 第4回 The History of Corporate Ownership in China: State Patronage, Company Legislation, and the Issue of Control
- 第5回 Corporate Ownership in France: The Importance of History
- 第6回 The History of Corporate Ownership and Control in Germany
- 第7回 The Evolution of Concentrated Ownership in India: Broad Patterns and a History of the Indian Software Industry
- 第8回 The History Corporate Ownership in Italy
- 第9～10回 A Frog in well knows Nothing of the Ocean: A History of Corporate Ownership in Japan
- 第11回 Financing and Control in The Netherlands: A Historical Perspective
- 第12回 The History of Politics of Corporate Ownership in Sweden
- 第13回 Spending Less Time with the Family: The Decline of Family Ownership in the United Kingdom
- 第14回 Why Has There Been So little Block Holding in America?
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...50% 授業への貢献度など(報告・発言・レポートなど)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学(計量経済学)」・「会計学(財務会計・管理会計)」の知識を前提とします。不安がある場合はきちんと復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

参加者は毎回報告の義務があります。また、授業中に何も発言しない人(自発的に発言しない人)には単位を与えません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論研究【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

到達目標は以下の通りです。

- ①組織の成立・維持の要素を説明できる。
- ②専門化、誘因、権威、意思決定について説明できる。
- ③具体的な組織の管理の問題と結びつけて考えることができる。

教科書 /Textbooks

C.I.バーナード(山本安次郎、田杉競、飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した三点の理解を目指します。
講義では、学生による報告、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

第1回 ガイダンス
第2回～14回 上記テキストの各章の輪読
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30% 発表・報告内容 40% レポート提出等 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部において経営組織論の講義を履修していると理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

キーワード /Keywords

組織3要素、有効性と能率、専門化、誘因、権威、意思決定

経営組織論演習 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「経営組織論研究」での講義内容を踏まえつつ、より実践的な組織の管理について考えることを目的とします。

到達目標は以下の通りです。

- ①組織の中の個人行動について理解し、説明できる。
- ②集団行動の原理について理解し、説明できる。
- ③組織管理の実践方法について理解し、組織運営の問題に対して具体的な対応策を提案できる。

教科書 /Textbooks

ステファン・P・ロビンス（高木晴夫監訳）『[新版] 組織行動のマネジメント-入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した3点の理解を目指します。
講義では、学生による報告、報告に基づく討論によって理解を深めていきます。

第1回 ガイダンス
第2回～14回 上記テキストの各章の輪読
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30% 発表・報告内容 40% レポート提出等 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営組織論研究の講義を履修していると理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応するために、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

キーワード /Keywords

組織の中の個人行動、集団行動、組織のシステム

マーケティング研究 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本コースでは、マーケティングの基本構造を明らかにした後、様々な角度から効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そのため、授業はケース演習が中心になる予定。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～4回 マーケティング知識の確認
第5～14回 ケース討論
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングの基礎知識を身につけて来て欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング演習 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。本コースでは、マーケティングの基本構造を明らかにした後、様々な角度から効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そのため、授業はケース演習が中心になる予定。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～12回 ケース討論
第13～14回 総合演習
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングの基礎知識を身につけて来て欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究Ⅲ (翻訳) 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this seminar functions as translation as well as familiarize with working knowledge of theories on translation. Varieties of theoretical framework will be introduced to students to prepare for professional work in their own fields. Students are recommended to locate their own research topic for class projects.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書 /Textbooks

Theories of Translation R.Schulte and J. Biguenet Cambridge University Press ¥6,528

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introductory Lecture.
- Week 2 On the Art of Translation.
- Week 3 On Translation.
- Week 4 On Language and Words
- Week 5 From On the Different Methods of Translating.
- Week 6 From Introduction to His Translation of Agamemnon.
- Week 7 Translations.
- Week 8 Preface to The Early Italian Poets.
- Week 9 On the Problem of Translation.
- Week 10 The Task of Translator.
- Week 11 Guido's Relations.
- Week 12 Knowing translation.
- Week 13 Towards characterizing translator experience.
- Week 14 An evidence-based approach to applied translation studies
- Week 15 The difference that translation makes and Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

It is required to submit a term paper in English of more than 2,000 words.
in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

英語学演習Ⅲ (翻訳) 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書 /Textbooks

Printed Material:
Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introductory Lecture
Week 2 Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3 Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4 Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5 Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6 Project Work (I): Relevance-theoretic Approach.
Week 7 Project Work (II): Translation Principles.
Week 8 Project Work (III): Communication Situations
Week 9 Communicative Clues
Week 10 Inter-lingual Interference
Week 11 Direct Translation and Indirect Translation
Week 12 A Unified Account of Translation
Week 13 Research Program: Planning and structuring
Week 14 Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15 Course review

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国民族文化研究 【昼】

担当者名 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国は56の民族が居住する多民族国家であり、各民族の文化的特徴が異なることから多様な中国文化が形成されている。本講義では中国に居住する民族の文化について原書講読を通じて専門知識を習得するとともに、民族研究における調査・研究方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『民俗学概論』 陶立璠 著 中央民族学院出版社 1987年 プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国少数民族の信仰と習俗 上巻』 賈光広等編者 伊藤清司監修 王汝瀾訳
『中国少数民族の信仰と習俗 下巻』 賈光広等編者 伊藤清司監修 林雅子訳
その他授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国少数民族に関する概要
- 2回 中国少数民族の基本特徴と分類
- 3回 中国少数民族に関する研究の動向について
- 4回 物質文化(飲食文化)
- 5回 物質文化(服飾文化)
- 6回 物質文化(建築文化)
- 7回 人生儀礼(誕生儀礼)
- 8回 人生儀礼(成人儀礼)
- 9回 人生儀礼(婚姻儀礼)
- 10回 人生儀礼(葬儀)
- 11回 精神民俗(巫術と民俗)
- 12回 精神民俗(宗教信仰と民俗)
- 13回 口承伝承と民俗
- 14回 口承伝承と民俗
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表内容・質問や発言の内容により評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する関係論文や資料を熟読し講義に備える。
授業中に与えられた課題について次回の授業までに調べてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国民族文化演習【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国民族文化研究で習得した内容をふまえ、「文化伝承」「社会変容」「異文化受容」「文化交流」といった多くの民族が直面している課題について、主に多くの民族が居住する雲南省における少数民族の状況を通して理解を深める。

教科書 /Textbooks

『瀘沽湖紀事』鄧啓耀著 中国旅遊出版社 2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『多民族国家 中国』王柯著 岩波新書 2005年
その他授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 雲南省少数民族文化の概要
- 2回～3回 民族文化と観光
- 4回～5回 社会変容と民族文化
- 6回～7回 文化伝承について
- 8回～8回 異文化受容について
- 9回～10回 文化の交流について
- 12回～14回 各自のテーマでの発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、質疑応答により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを輪読するので、指示された箇所の和訳を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想研究【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア政治思想との比較研究を視野に入れて、朝鮮の東学思想と甲午農民戦争の研究文献を解説する。そのため、下記の教科書を解説していきたい。それを通して、朝鮮の政治思想と民衆思想への理解を深める。

教科書 /Textbooks

趙景達『異端の民衆反乱』（岩波書店、1998）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 趙景達『朝鮮民衆運動の展開』（岩波書店、2002）
- 趙景達『植民地期朝鮮の知識人と民衆』（有志舎、2008）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 序章
- 第3回 第1章
- 第4回 第2章
- 第5回 第3章
- 第6回 第4章
- 第7回 第5章
- 第8回 第6章
- 第9回 第7章
- 第10回 第8章
- 第11回 第9章
- 第12回 第10章
- 第13回 第11章
- 第14回 終章
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告と討論（50点）、レポート（50点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の参考書を自主学習してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生は自分の修士論文のテーマを早く決めること。

キーワード /Keywords

東学、西学、伝統と近代、異端と正統、政治思想、民衆思想、思想史

近代中国政治史研究 【昼】

担当者名
/Instructor

横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代中国に貫かれる政治的特徴を検討する。とくに中華民国時期（1912年～49年）を中心に、革命と戦争、国民国家建設の課題と挫折の歴史を検証する。孫文、袁世凱、陳独秀、胡適、蒋介石などの人物研究が中心。
人物研究を通して、中国における革命と連続性の本質を政治史の観点から理解することを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

横山宏章『中華民国』中央公論社新書
横山宏章『中華民国史』三一書房
横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店
横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会
横山宏章『中国の異民族支配』集英社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横山宏章『中華思想と現代中国』集英社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

一回は180分 講義と討論の演習方式
1,2回 中華民国とは何か 【賢人支配の善政主義】の立場から論ずる
3,4回 辛亥革命と「排満」 【中華と夷狄】の概念を論証する
5,6回 孫文の「三序」構想 孫文の【愚民史観】を検証
7,8回 袁世凱と強国の建設 共和体制における集権政治のあり方を見る
9,10回 陳独秀、胡適の「新文化運動」 中国における【デモクラシーとサイエンス】を検証
11,12回 蒋介石の国民国家建設構想と反蒋介石運動 統治のあり方としての【以党治国】論
13,14回 中華民国と「自由」 中国近代における自由の系譜
15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

討論とレポート
討論80% レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

拙著を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済研究【昼】

担当者名
/Instructor

白石 麻保 / 中国学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献，Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル，中文文献，邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い，報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(4)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(5)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(1)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(2)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(3)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(1)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(2)
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(3)
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1)
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(主にミクロ)経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では70年にも及ぼうとする国際開発援助の歴史を振り返り、国際社会が途上国の抱える課題にどのように取り組んできたのかを学ぶとともに、なぜそれが功を奏してこなかったのかを国際政治の文脈から考察します。その上で、今後の開発のあり方について議論を行います。受講生は国際開発援助に関する知識を深め、過去の失敗とそこから得られた教訓をもとに、今後の開発援助がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持つことが出来るようになります。

教科書 /Textbooks

- 西川潤他『開発を問い直す』日本評論社、2011年。
- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 城山英明『国際援助行政』東京大学出版会、2007年。
- 下村恭民他『開発援助の経済学』(第4版)有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、ディスカッションを交えて内容の理解に努めます。

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回～第7回 下村の上記文献を毎回2章ずつ読み進める。
- 第8回～第14回 西川の上記文献を毎回2章ずつ読み進める。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・20% 授業への貢献度(議論への参加)・・・40% レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この分野をはじめて学ぶ受講生は、あらかじめ上記参考書を購入して読むようにしてください。また、学部開講科目の「国際協力論I」を聴講することも勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

教科書 /Textbooks

- 受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。
- Joseph M. Grieco & G. John Ikenberry, State Power and World Markets: The International Political Economy, W W Norton & Co Inc, 2002.
 - Benjamin J. Cohen, International Political Economy: An Intellectual History, Princeton University Press, 2008.
 - Robert Gilpin, Global Political Economy: Understanding the International Economic Order, Princeton University Press, 2001.
 - Andreas Hasenclever & Peter Mayer & Volker Rittberger, Theories of International Regimes, Cambridge University Press, 1997.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
- スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、質疑応答をしながら授業を進める。

第1回 インTRODクシヨN

第2回～第14回 文献の輪読

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...30%、期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究 【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、①山内進編『「正しい戦争」という思想』勁草書房、2006年、が基本的入門書となるが、それ以外には、例えば、②マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』風行社、2008年、や、③マイケル・ウォルツァー『戦争を論ずる』風行社、2008年、などがあるが、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけでなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス
第2回～14回 輪読
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 (30%)、予習状況 (30%)、レポート (40%) から評価したい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記参考図書のうち、①は読了しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ風景論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では「風景とは一つの文化的イメージ」であり「一つの制度」であるという認識を前提に、極めて学際的な風景論、風景学の基礎を学ぶとともに、フロンティアや西部、摩天楼の都市など、アメリカ固有の象徴的空間の歴史的・地理的な成立要因を考え、広大な国土を持つアメリカ各地の風景についての理解を、映像資料やテキストを通して深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『風土-人間学的考察』 和辻哲夫著 (岩波文庫)
『日本の風景・西欧の景観』 オギユスタン・ヘルク(講談社現代新書)
その他プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『概説 アメリカ文化史』 笹田直人他編著 (ミネルヴァ書房)
- 『トポフィリア-人間と環境』 イーファー・トゥアン (セリカ書房)
- 『風景の研究』 柴田 陽弘編 (慶應義塾大学出版局)
- 『風景と人間』 アラン・コルバン (藤原書店)
- 『風景学-風景と景観をめぐる歴史と現在』 中川理 (共立出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「アメリカ風景論研究」の目的と研究方法
- 2回 『風土-人間学的考察』に基づき地理的風土と精神風土
- 3回 アメリカの精神風土に及ぼす地理的要因
- 4回 広大なアメリカの国土と風景の視覚的考察
- 5回 アメリカにおける風景観の変容～風景画の発展と崇高の美学
- 6回 風景画の発展と崇高の美学
- 7回 アメリカの四季と動物
- 8回 アメリカの先住民達と森の生活
- 9回 植民地時代から環境保護思想へ
- 10回 西部開拓史とターナーのフロンティア学説
- 11回 アメリカの産業都市の風景とその変遷
- 12回 アメリカの都市空間と近代
- 13回 ニューヨーク・シカゴ・ボストン・ロサンゼルス等の視覚的考察
- 14回 アメリカの主たるユダヤ街、中華街、クエイカー教徒の生活風景
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

植民地時代以前から現代までのアメリカ史やアメリカ文化全般について、またはエコロジー思想や環境保護運動などについて、一般的な知識があることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。現代イギリス文化を構成している諸要因を通時的・共時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 異文化理解の方法(歴史認識をめぐって)
- 3回 異文化理解の方法論(資料読解の方法)
- 4回 異文化理解の方法論(多文化主義の変遷)
- 5回 イギリス文化の状況(1970年代まで)
- 6回 イギリス文化の状況(1980年代以降)
- 7回 文化研究の方法論的変遷(1960年代まで)
- 8回 文化研究の方法論的変遷(1970年代)
- 9回 言語論的展開
- 10回 サッチャー主義とイギリス社会
- 11回 スコットランドの文化と現状
- 12回 ウェールズの文化と現状
- 13回 北アイルランド紛争の背景
- 14回 21世紀イギリス社会の展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解してから授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北欧地域研究 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の政治制度および政党政治の特徴を踏まえた上で、北欧諸国間で進められている地域協力（北欧協力）について学ぶことを目指す。講義は、受講生が政治学、国際関係論の基礎を既に学んでおり、ヨーロッパの政治制度、政党政治、国際関係（ヨーロッパ統合）についても基礎知識を持っていることを前提として進める。到達目標は、北欧諸国に関する知識を養い、北欧地域の特徴について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の前半は、各国の政治制度、政党政治の特徴について学び、後半は第二次世界大戦後の北欧協力の進展をヨーロッパ統合と比較しながら考えることを目指す。

- 1回 ガイダンス、北欧諸国の基礎知識
- 2回 北欧諸国の政治制度（1）
- 3回 北欧諸国の政治制度（2）
- 4回 北欧諸国の政治制度（3）
- 5回 北欧諸国の政治制度（4）
- 6回 北欧諸国の政党政治（1）
- 7回 北欧諸国の政党政治（2）
- 8回 北欧諸国の政党政治（3）
- 9回 北欧諸国の政党政治（4）
- 10回 北欧協力の進展（1）
- 11回 北欧協力の進展（2）
- 12回 北欧協力の進展（3）
- 13回 北欧協力の進展（4）
- 14回 北欧協力の進展（5）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、レポート40%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

政治学、国際関係論に関する基礎知識がない場合には、各自で授業時間外に勉強することが必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想演習【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国、以下三国）の政治思想を比較考察する。そのため、下記の教科書を解読する。そして「アジアから考えるという視点」と「文明論的な視点」で、三国における伝統と近代の異種交配（hybridization）の現象を観察し、相互間の類似性と異質性を構造比較する。それを通して、三国それぞれの伝統と近代のもつ普遍と特殊、正と負に関する歴史的・思想的理解を深め、それらの批判的省察を試みる。

教科書 /Textbooks

金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 李暁東『近代中国の立憲構想』（法政大学出版会、2005）
- 大塚健洋編著『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回～第3回 序章
- 第4回～第6回 第1章
- 第7回～第8回 第2章
- 第9回～第11回 第3章
- 第12回～第13回 第4章
- 第14回 終章
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論（50点）、レポート（50点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連文献を読みあさること。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

思想や哲学に興味をもつこと。

キーワード /Keywords

アジアから考える、文明論、異種交配、批判的省察、伝統と近代、国際政治観、政治観

近代中国政治史演習 【昼】

担当者名 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代中国政治史研究を受けて、演習形式で問題を掘り下げる。また受講者の問題関心に沿って、個別テーマを互いに議論しあう。個別テーマの議論を通し、中国における革命と連続性の本質を政治史の観点から理解することを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

横山宏章『中華民国』中央公論社新書
横山宏章『中華民国史』三一書房
横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店
横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横山宏章『中華思想と現代中国』集英社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の個別レポートを議論する。1回は180分

- 1,2回 個人報告レポート
- 3,4回 個人報告レポート
- 5,6回 個人報告レポート
- 7,8回 個人報告レポート
- 9,10回 個人報告レポート
- 11,12回 個人報告レポート
- 13,14回 個人報告レポート
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容で評価する。 発表100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各人が報告を準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済演習【昼】

担当者名
/Instructor

白石 麻保 / 中国学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献，Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル，中文文献，邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い，報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済分析の視点と手法(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済分析の視点と手法(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済分析の視点と手法(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の特徴(1)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の特徴(2)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の特徴(3)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の特徴(4)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の特徴(5)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の評価(1)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の評価(2)
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の評価(3)
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の評価(4)
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の評価(5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%

ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(主にミクロ)経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力演習 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、英語文献を用いて国際開発・国際協力に関する最先端の議論について学習します。この演習を受講することで、当該分野での最先端の議論が理解出来るとともに、OECDや国連における英文での会議文書を難なく読み進められるようになります。

教科書 /Textbooks

Brian Keeley (2012) From Aid to Development: The Global Fight against Poverty, Paris: OECD.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ウィリアム・イースタリー 『エコノミスト南の貧困と闘う』東洋経済新報社、2003年。
- ウィリアム・イースタリー 『傲慢な援助』東洋経済新報社、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、ディスカッションを交えて内容の理解に努めます。

- 第1回 上記文献Chap. 1 Introduction
- 第2回、第3回 Chap. 2 The persistence of poverty
- 第4回、第5回 Chap. 3 What is aid?
- 第6回、第7回 Chap. 4 Shifting development goals and motivations
- 第8回、第9回 Chap. 5 Are we getting results?
- 第10回、第11回 Chap. 6 Changing relationships and policies
- 第12回、第13回 Chap. 7 Governance matters
- 第14回、第15回 Chap. 8 New partners for development まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・30% 授業への貢献度(議論への参加)・・・30% レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際協力研究」を履修済みであると内容理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済演習【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治経済学についての文献（主に英語の学術論文）を通じて、近年の国際政治経済秩序の変容に関して理解を深め、理論的・実証的な分析ができるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献や学術雑誌を候補として挙げておく。

- Daniel W. Drezner, All Politics Is Global: Explaining International Regulatory Regimes, Princeton University Press, 2008.
- Thomas H. Oatley, International Political Economy, Pearson Education, 2011.
- International Organization
- Comparative Political Studies
- International Studies Quarterly

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、ディスカッションをしながら授業を進める。

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回～第14回 文献の輪読、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...40%、授業参加（ディスカッションへの貢献度など）...20%、期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語文献を利用するので英語の読解力を身につけておくこと。
既に「国際政治経済研究」を履修している場合には効果的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障演習 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の「安全保障研究」に引き続き、戦争倫理学関連の英語の研究書（もしくは防衛関連の研究書）を輪読する。戦争倫理学の場合、当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。1学期の「安全保障研究」を履修していることが望ましい。また、履修者の研究テーマが戦争や紛争であるとなお望ましい。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、山内進編『「正しい戦争」という思想』勁草書房、2006年、が基本的入門書となるが、それ以外に日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけでなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

履修希望者は、必ず履修登録前に担当者にメールで相談されたい。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス
第2回～14回 輪読
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 (30%)、予習状況 (30%)、レポート (40%) から評価したい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「安全保障研究」を履修した者が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ風景論演習 【昼】

担当者名 /Instructor 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ的な空間と風景を認識するとはどういうことか、受講者と討論しながら理解を深める。受講者との討論を通して、アメリカの風景画や自然保護思想などを取り上げる。現代のツーリズムや環境保護運動、或いはアメリカの風景画・水彩画美術などの考察にもつなげたい。

教科書 /Textbooks

- Henry Nash Smith著 Virgin Land: The American West as Symbol and Myth
- Leo Marx著 The Machine in the Garden: Technology and Pastoral Ideal in America

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Sue Rainey著 Creating Picturesque America: Monument to the Natural and Cultural Landscape. Applewood Books (2001)
 - Richard Slotkin著 Regeneration Through Violence; The Mythology of the American Frontier, 1600-1860. Wesleyan UP (1974)
 - Neil Campbell & Alasdair Kean著 American Cultural Studies: An Introduction to American Culture (2006)
- エドモンド・バーク『崇高と美の観念の起源』(みすず書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：アメリカン・スタディーズとはどのような学問か(資料配布)
- 2回 神話としてのアメリカ西部
- 3回 プリント配布資料および映像資料による討論
- 4回 H. N. Smith, Virgin Land のテーマと構造解説
- 5回 H. N. Smith, Virgin Land (pp. 15-50) に基づく考察と討論
- 6回 H. N. Smith, Virgin Land (pp.51-122) に基づく考察と討論
- 7回 H. N. Smith, Virgin Land (pp.123-262) に基づく考察と討論
- 8回 Marx, The Machine in the Garden のテーマと構造解説
- 9回 Marx, The Machine in the Garden の"The Machine"に基づく討論
- 10回 Marx, The Machine in the Garden の"The Garden"に基づく討論
- 11回 Marx, The Machine in the Garden の"The Garden of Ashes"に基づく討論
- 12回 さまざまな影響に曝される風景
- 13回 風景と大気現象と風景の保存
- 14回 空間をめぐる風景と人間の行動様式
- 15回 総合的纏め

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

アメリカン・スタディーズの基礎を、アメリカの地理や風景の研究に焦点を当てる。学部時代にできるだけアメリカ関係の授業を受講しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域演習【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリス社会を総合的に取り扱った歴史的な著作を中心に議論を展開する。

教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
J. Harris, Private Lives Public Spirit
『歴史とは何か』
『近代市民社会の成立』
『想像の共同体』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズが
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを正確に読んでから授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北欧地域演習 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を輪読することを通して学ぶことを目指す。演習は、受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を持っていることを前提として進める予定である。到達目標は、英語の文献を用いて北欧諸国に関する研究を行えるようになることである。

教科書 /Textbooks

Scandinavian Political Studies や Cooperation and Conflict などの北欧諸国で発行されている英文学術雑誌や、北欧諸国の政治に関する英語の書籍のコピーを配布し、講読する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の前半は指定文献を受講者全員で講読し、後半は学生が各自で設定したテーマで研究発表を行ってもらう。

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国における政治の基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による指定文献の発表(1)
- 4回 学生による指定文献の発表(2)
- 5回 学生による指定文献の発表(3)
- 6回 学生による指定文献の発表(4)
- 7回 学生による指定文献の発表(5)
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定文献を授業前に読んでおくことが必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本社会経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後の日本経済の構造を高度成長期とポスト・バブル期の企業システムを中心検討する。検討内容は、コーポレートガバナンス（企業統治）、企業間関係、労使関係、企業の資金調達であり、これらの検討を通じて日本型企業システムの特徴とその変容を明らかにしたい。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭『現代日本経済』有斐閣
吉川洋『転換期の日本経済』岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の順序と内容で進めていきます。

- 1回 高度成長のメカニズム
- 2回 産業政策の役割
- 3回 株主持ち合いと安定株主
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 下請制
- 6回 協調的労使関係
- 7回 高度成長の終焉
- 8回 安定成長
- 9回 バブルの発生
- 10回 バブルの崩壊と長期不況
- 11回 不良債権問題と資金調達
- 12回 構造改革路線の定着
- 13回 規制緩和と企業制度改革
- 14回 不況からの脱出と企業システムの変容
- 15回 アジアの経済発展と日本

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80%、 授業中の態度（ディスカッションへの参加）...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポーターは必ずレジユメを配布すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のB・オバマ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治 新版』(有斐閣アルマ 2010年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 20世紀後半における保守主義政治【保守主義】
- 第3回 レーガン政権のイデオロギー【保守主義】
- 第4回 クリントン政権の歴史的位相【ニューデモクラット】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

中国社会史研究【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史の変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』(講談社、2005年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』(清文堂、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ(総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

日本社会経済演習【昼】

担当者名 /Instructor 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本のバブル経済と2007 - 8年のアメリカ金融危機を多角的に検討します。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の授業時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献をサーベイしたあと、基本文献を順次取り上げてゆきます。

- 1回 演習の進め方・文献サーベイの分担決定
- 2回 検討文献の決定と分担の決定
- 3回 バブル経済の発生メカニズムについて(1)【金融自由化】
- 4回 同上(2)【プラザ合意】【円高不況】
- 5回 バブル崩壊と政策対応-政府の対応
- 6回 バブル崩壊と日銀
- 7回 不良債権処理問題について(1)【住専処理問題】
- 8回 同上(2)【公的資金注入】
- 9回 長期不況と90年代日本の財政政策
- 10回 アメリカ金融危機のメカニズム(1) 【サブプライムローン】
- 11回 同上(2)【証券化】
- 12回 金融危機と世界経済
- 13回 金融危機とアメリカ政府
- 14回 各国の政策対応
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの内容...80%、授業中の態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

全員文献を必ず読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会演習【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL・ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずして生まれた社会に特有の精神風土が開花することになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company, 1991)[有賀貞訳『アメリカ自由主義の伝統』(講談社学術文庫 1994年)]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 アメリカにおけるJ・ロック 【自由主義】
- 第3回 トクヴィルとハーツ 【政治参加】
- 第4回 革新主義史学への挑戦者としてのハーツ 【革新主義】
- 第5回 アメリカにおける階級 【社会主義】
- 第6回 アメリカ革命への視座 【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義とアメリカ 【共和主義】
- 第8回 ジャクソン期の「民主主義」 【ジャクソン期】
- 第9回 南部政治の特殊性 【南部】 【奴隷制】
- 第10回 南北戦争と南北のイデオロギー対立 【南北戦争】
- 第11回 再建期の思想動向 【再建期】
- 第12回 革新主義を支えたもの 【社会主義】 【キリスト教】
- 第13回 ニューディールの実験主義 【ニューディール】
- 第14回 ハーツと1950年代の自由主義政治 【冷戦】
- 第15回 『アメリカ自由主義の伝統』の今日性 【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会史演習【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本科目は「中国社会史研究」での到達点を基礎に、中国社会を歴史的に理解することを目標とする。16世紀から20世紀前半までの中国社会史に関する先行研究を消化しながら、時代と地域を限定し、同時代の一次資料及び研究文献の検討を通じて中国社会の内実接近する。具体的課題としては近代中国における災害・飢饉と飢饉救済活動を考察する。

教科書 /Textbooks

・ 高橋孝助『飢饉と救済の社会史』(青木書店、2006年)他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 李文海編『天有凶年：清代災荒与社会』(三聯書店、2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献配布
- 第2回 中国社会史研究の現状1(16-18世紀)
- 第3回 中国社会史研究の現状2(19-20世紀初頭)
- 第4回 1876年華北における大干魃の発生
- 第5回 1876年華北大干魃後の江南への難民の流出とその対策
- 第6回 1876年華北大干魃における慈善活動と飢饉救済活動
- 第7回 1876年山西における清朝地方政府による飢饉救済政策
- 第8回 1876年山東における外国人の救済活動
- 第9回 1876年河南における民間人の飢饉救済活動
- 第10回 1876年大干魃よりみた華北社会の構造
- 第11回 1906年江北における大水害の発生
- 第12回 1906年江北大水害と日本上海総領事館の中国社会調査
- 第13回 1906年江北大水害と西欧人の飢饉救済
- 第14回 1906年江北大水害と中国人の救済活動
- 第15回 まとめ(総合討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会史、1876年、華北大旱害、外国人の救済活動、1906年、江北大水害、救済活動

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生各自が興味を持っているマクロ経済学関連の主要文献(テキスト・論文など)を選択し、それを報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 70 % 日常の授業への取り組み ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定、受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 ミクロ経済問題についての調査報告(1)
- 3回 ミクロ経済問題についての調査報告(2)
- 4回 ミクロ経済問題についての調査報告(3)
- 5回 ミクロ経済分析的アプローチ論究(1)
- 6回 ミクロ経済分析的アプローチ論究(2)
- 7回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(1)
- 8回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(2)
- 9回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(3)
- 10回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(4)
- 11回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(5)
- 12回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(6)
- 13回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告(7)
- 14回 現代ミクロ経済学の展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30 % レポート 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の復習

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ミクロ経済学の論理と方法

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。また、研究テーマに関する参考文献として適宜指示ないし配布された資料のレジюмеを受講者は作成し、報告する。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容・進め方の説明。研究テーマの候補の話し合い
- 2回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 3回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 4回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 5回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 6回 研究内容の報告
- 7回 研究内容の報告
- 8回 研究内容の報告
- 9回 修正された研究内容の報告
- 10回 修正された研究内容の報告
- 11回 修正された研究内容の報告
- 12回 修正された研究内容の報告
- 13回 レポートの内容の発表
- 14回 レポートの内容の発表
- 15回 レポートの内容の発表

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ②現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～15回
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジユメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に教科書を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて、各自学習し、発表を行う。これを通じて、計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする。

教科書 /Textbooks

適宜、資料および実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education.
GeNii(<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>、学術研究検索サイト)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 関心のある先行研究論文を1本ずつ選び、内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記のGeNiiを用いて、各自の関心のある研究分野について先行研究を検索しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。
毎回の文献輪読を基本とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習態度と期末のレポートの内容による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年間にわたり修士論文作成のための指導を徹底して行う。テーマは院生と相談のうえ決めたいが、できれば、修士論文のテーマに沿った内容のものにしたいと考えている。なお、当方は、暖簾と無形資産の会計、ブランド会計、国際会計、企業利益と課税所得の差異（税務会計）、カレント・コスト会計、債務者利得の問題、評価と資本維持の問題、減損会計などについて少々掘り下げて検討しているつもりである。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）、白石和孝『知的無形資産会計』（新世社）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、小松草編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）など

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

醍醐聡編『新版財務会計論ガイダンス』（中央経済社）、『新版会計法規集 第5版』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 修士論文のテーマ選定から作成に至るまでの指導を徹底して行う。中間報告以外の日には、修士論文のテーマに沿った内容の雑誌・紀要などを輪読したい。

2回 同上
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の中間報告を評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追随するあまり、会計の古典（学問的蓄積）を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
テキストを精読しながら、会計の根本的な問題を考える。各担当者がレジユメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60 % レポート ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者とその思想などについて、教科書やインターネットで学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派アプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に無し

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。
下谷正弘の持株会社に関する研究を題材にして、今やブームになっている持株会社の機能について検討していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下谷正弘の持株会社に関する文献。
 - 『持株会社解禁』中公新書、1996年
 - 『持株会社の時代』有斐閣、2006年
 - 『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年
- 法律関係の文献
 - 前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年
 - 岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2
- 3回 持株会社の設立3
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1
- 12回 持株会社の株主の保護2
- 13回 持株会社の株主の保護3
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度 (授業参加態度) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

下谷の持株会社に関する文献(『持株会社解禁』中公新書・『持株会社の時代』有斐閣、2006年・『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年)を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持株会社の機能・持株会社とガバナンス

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生各自が興味を持っているマクロ経済学関連の主要文献(テキスト・論文など)を選択し、それを報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 70 % 日常の授業への取り組み ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて報告書を作成し、報告・議論を行うことによって、ミクロ経済学の専門的研究を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定、受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済分析の論理と方法(1) : 現代ミクロ経済学の展開
- 2回 ミクロ経済分析の論理と方法(2) : 現代ミクロ経済学の展開
- 3回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(1)
- 4回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(2)
- 5回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(3)
- 6回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(4)
- 7回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(5)
- 8回 「特別研究I」の研究テーマの調査・研究報告(6)
- 9回 「特別研究I」のレポート作成および報告(1)
- 10回 「特別研究I」のレポート作成および報告(2)
- 11回 「特別研究I」のレポート作成および報告(3)
- 12回 「特別研究I」のレポート作成および報告(4)
- 13回 「特別研究I」のレポート作成および報告(5)
- 14回 「特別研究I」のレポート作成および報告(6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30 % レポートもしくは論文 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の復習

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ミクロ経済学の論理と方法

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。また、研究テーマに関する参考文献として適宜指示ないし配布された資料のレジユメを受講者は作成し、報告する。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容・進め方の説明。研究テーマの候補の話し合い
- 2回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 3回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 4回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 5回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 6回 研究内容の報告
- 7回 研究内容の報告
- 8回 研究内容の報告
- 9回 修正された研究内容の報告
- 10回 修正された研究内容の報告
- 11回 修正された研究内容の報告
- 12回 修正された研究内容の報告
- 13回 レポートの内容の発表
- 14回 レポートの内容の発表
- 15回 レポートの内容の発表

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IA に引き続き、海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ② 現実の経済問題について、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15 回
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では経済学と統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジユメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に教科書を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには、考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて、参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ、何を、どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて、研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
- 2回 どんな問題に興味があるか、先行研究論文数本を選び、自身の興味の背景とともに内容を報告。
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で、どのようなデータが利用可能かを報告。
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 データの利用可能性を前提にして、計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

興味のある先行研究を探しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

研究テーマに関連する主要文献を徹底して読込み、理論的考察のための枠組みを構築する。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15 回
受講者の文献報告にしたがって精読の方法、思考のまとめ方などについて指導していく。
文献輪読と受講者の研究報告を中心に進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習はもちろんのこと、授業を通じて自らの研究体制を固めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODククション・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習態度と期末のレポートの内容による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年間にわたり修士論文作成のための指導を徹底して行う。テーマは院生と相談のうえ決めたいが、できれば、修士論文のテーマに沿った内容のものにしたいと考えている。なお、当方は、暖簾と無形資産の会計、ブランド会計、国際会計、企業利益と課税所得の差異（税務会計）、カレント・コスト会計、債務者利得の問題、評価と資本維持の問題、減損会計などについて少々掘り下げて検討しているつもりである。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）、白石和孝『知的無形資産会計』（新世社）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）など

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

醍醐聰編『新版財務会計論ガイダンス』（中央経済社）、『新版会計法規集 第5版』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 修士論文のテーマ選定から作成に至るまでの指導を徹底して行う。中間報告以外の日には、修士論文のテーマに沿った内容の雑誌・紀要などを輪読したい。

2回 同上
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の中間報告を評価... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代会計の変化は速く、それに追随するあまり、会計の古典（学問的蓄積）を読む機会が少なくなってきた。本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて「会計とは何か」ということについて検討したいと思う。

教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
テキストを精読しながら、会計の根本的な問題を考える。各担当者がレジユメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60 % レポート ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者とその思想などについて、教科書やインターネットで学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無し

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下谷正弘の持株会社に関する文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2 (具体例1)
- 3回 持株会社の設立3 (具体例2)
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1 (株主代表訴訟)
- 12回 持株会社の株主の保護2 (株主代表訴訟)
- 13回 持株会社の株主の保護3 (株主代表訴訟)
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度 (授業参加態度) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

下谷の持株会社に関する文献を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社の解禁

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 2年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年間にわたり修士論文作成のための指導を徹底して行う。テーマは院生と相談のうえ決めたいが、できれば、修士論文のテーマに沿った内容のものにしたいと考えている。なお、当方は、暖簾と無形資産の会計、ブランド会計、国際会計、企業利益と課税所得の差異（税務会計）、カレント・コスト会計、債務者利得の問題、評価と資本維持の問題、減損会計などについて少々掘り下げて検討しているつもりである。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）、白石和孝『知的無形資産会計』（新世社）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

醍醐聡編『新版財務会計論ガイダンス』（中央経済社）、『新版会計法規集 第5版』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 修士論文のテーマ選定から作成に至るまでの指導を徹底して行う。中間報告以外の日には、修士論文のテーマに沿った内容の雑誌・紀要などを輪読したい。

2回 同上
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の中間報告の評価...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に無し

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の中間報告を中心に進める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中間報告の際文献目録を作成する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15回

前半は、修士論文のテーマに関連した研究文献を読みながら、研究史の整理を行う。後半は、各自の中間報告を積み重ねていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次のうちに、修士論文のテーマを確定し、論文作成の準備を着実にを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 2年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Formatクラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年間にわたり修士論文作成のための指導を徹底して行う。テーマは院生と相談のうえ決めたいが、できれば、修士論文のテーマに沿った内容のものにしたいと考えている。なお、当方は、暖簾と無形資産の会計、ブランド会計、国際会計、企業利益と課税所得の差異（税務会計）、カレント・コスト会計、債務者利得の問題、評価と資本維持の問題、減損会計などについて少々掘り下げて検討しているつもりである。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第13版〉』（中央経済社）、白石和孝『知的無形資産会計』（新世社）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

醍醐聡編『新版財務会計論ガイダンス』（中央経済社）、『新版会計法規集 第5版』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 修士論文のテーマ選定から作成に至るまでの指導を徹底して行う。中間報告以外の日には、修士論文のテーマに沿った内容の雑誌・紀要などを輪読したい。

2回 同上
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の中間報告の評価...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に無し

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き修士論文の中間報告を中心に進める。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中間報告の進展に合わせて、参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15回
報告準備の進展に合わせて、授業内容を調節する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告の内容

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

夏季休暇のうちに、報告準備をしっかりと進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済史研究【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

両大戦間期の世界経済の全体像を理解することができる。
そのことによって、現在のグローバル化した世界経済の実態をより正確に理解できる。
両大戦間期の主な流れは、ドイツとアメリカである。相対的安定期の形成と1929年世界恐慌の発生の関連が理解できる。
世界恐慌の打開策としてのニューディール政策、ナチス経済、大東亜共栄圏、英連邦の形成過程が理解できる。
恐慌の深化と各国の経済のブロック化、為替の切り下げ競争、その結果としての第2次世界大戦の必然性が理解できる。

教科書 /Textbooks

口述講義のため指定の教科書はなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

塚本 健『ナチス経済』(東京大学出版会)
都留重人『アメリカ経済の発展』(勁草書房)
W.A Lewis, Economic Survey, 1919-1936, 6th ed., 1963.
林健太郎『両大戦間期の世界』(中央公論新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の目的と方法【両大戦間期】、【第一次世界大戦】
- 第2回 第1次大戦後の世界【ヨーロッパの没落】、【アメリカの台頭】、【ロシア革命】
- 第3回 ドイツの敗北とワイマール共和国、【ワイマール共和国】、【賠償金】【福祉国家】
- 第4回 賠償金問題とM. ケインズ【ルール地方】【天文学的インフレ】
- 第5回 ドーズ案とドイツの金本位制復帰【ドーズ案】【金本位制復帰】
- 第6回 第1次大戦後のアメリカ【永遠の繁栄】【自動車産業】【住宅産業】【総合産業】
- 第7回 アメリカ経済構造の問題と過剰資本【フォード】【自己金融】【過剰資本】
- 第8回 相対的安定期のドイツ経済【合理化投資】【短期資本】【相対的安定期】
- 第9回 アメリカのバブル経済の構造と暗黒の木曜日【バブル経済】【ウォール街】
- 第10回 ルーズベルト大統領とニューディール政策【ポンプの呼び水政策】【財政政策】
- 第11回 ヒットラーとナチス経済(1)【労働振興手形】【メフォ手形】【アウトパン】
- 第12回 ヒットラーとナチス経済(2)【ナチス経済圏】【第2次世界大戦】
- 第13回 両大戦間期のイギリス経済
- 第14回 世界恐慌と英連邦の形成過程
- 第15回 両大戦間期と現在との比較一結びに代えてー

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、発表20%、試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本経済新聞を毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済史演習【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

EUの形成過程を見る。戦後、欧州石炭鉄鋼共同体が形成され、それが発展してEU欧州連合へと結実していった。EUは、第2次世界大戦の反省から生まれたものといえる。そのEUが経済危機に直面している。いったいなぜそうなったのか。そしてEUの将来はいかなる方向に展開するのか。こういった問題意識が理解できる。具体的には第1に、欧州石炭鉄鋼共同体からEUまでの発展過程が理解できる。第2に、政治統合を目指すEUのコアとなったユーロについて理解ができる。第3に、西欧を中心として結成されたEUに、東欧や南欧諸国が加盟したことによってどんな問題が発生したのかが理解できる。最後に、ギリシャ危機やスペイン、アイルランドの財政危機とユーロ安の問題を取り上げ、それらが理解できる。これらの考察を通じて、EUの将来を見極めることができる。

教科書 /Textbooks

口述講義

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第2次大戦後の世界経済
- 第2回 アメリカ主導のIMFとGATTの形成
- 第3回 アメリカ主導のIMFとGATTの形成
- 第4回 マーシャルプランと欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC)
- 第5回 ECSCの形成とその意図
- 第6回 欧州経済共同体 (EEC)の発足
- 第7回 欧州共同体 (EC)の発足
- 第8回 マーストリヒト条約と欧州連合 (EU)
- 第9回 統一通貨ユーロの導入
- 第10回 ユーロ導入の条件と財政問題
- 第11回 南欧諸国のEC加盟とユーロ問題
- 第12回 なぜギリシャはECに加盟できたのか
- 第13回 ギリシャ財政危機とEU首脳国の対応
- 第14回 ユーロ安と日本の円高の関係
- 第15回 EUの将来—結びに代えて—

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよびレポート20%、発表30%、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本経済新聞を毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多い場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半(7, 8回程度)の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節(参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる)の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半(7, 8回程度)は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする。受講者が8名以下であれば、1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また、受講者各自の研究テーマの発表を交えながら、様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学、教育学、社会学、人類学等との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は前の回の授業で次回の発表内容の概略を伝える事、その予告をもとにして他の受講生は予習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論研究【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、相互の情報のやりとりである。コミュニケーションは、情報が正しく伝達されていることが前提となるが、私たちは伝達された情報を正しく認識しているわけではなく、誤った認識をしていることが少なくない。物理的な事象とは異なって知覚をしまったり、相手の伝達意図とは異なる認識を持ってしまうこともある。今年度の授業では、クリストファー・チャプリス&ダニエル・シモンズ著の「錯覚の科学」を講読し、どのような状況下で人間は錯覚を起こすのか、心理学的な観点から学ぶとともに、本書で紹介されている数々の実験の方法論についても学ぶ。到達目標は、心理学の実験の方法論についての知識を得ることとコミュニケーションの心理学的視点について理解することである。

教科書 /Textbooks

クリストファー・チャプリス&ダニエル・シモンズ『錯覚の科学』文藝春秋

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 箱田裕司ほか『認知心理学』有斐閣
- 熊田孝恒『マジックにだまされるのはなぜか:「注意」の認知心理学』化学同人
- 原田悦子, 篠原一光編『現代の認知心理学 4 注意と安全』北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 受講者には各章を担当して発表してもらう。
- 第1回オリエンテーション
 - 第2回えひめ丸はなぜ沈没したのか?
 - 第3回注意の錯覚
 - 第4回捏造された「ヒラリーの戦場体験」
 - 第5回記憶の錯覚
 - 第6回免罪証言はこうして作られた
 - 第7回自信の錯覚
 - 第8回リーマンショックを招いた投資家の誤算
 - 第9回知識の錯覚
 - 第10回俗説、デマ、そして陰謀論
 - 第11回原因の錯覚
 - 第12回自己啓発、サブリミナル効果のウソ
 - 第13回可能性の錯覚
 - 第14回直感信じられるのか?
 - 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、講読予定のページを事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論研究【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- パトリシア・クランプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- その他、学会年報や紀要など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答
授業態度と内容理解・・・70%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

E.Eriksonの漸成理論を拠り所にして、乳児期から老年期までの生涯発達を通じて、各発達段階における不適応の諸特徴、ならびに発達課題と不適応との関連を理解すると同時に、各発達段階に応じた臨床心理学的援助のあり方について考究する。その際、治療現場での臨床事例を取りあげ、その援助プロセスを詳細に検討することで、理論的・実践的な理解を深めていくこととする。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 不適応の発生メカニズムについて理解することができる。
- ・ 不適応に対する具体的な援助の指針や進め方を導き出すことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松島恭子(編)『ライフサイクルの心理療法』創元社
 ○『臨床心理学体系3 ライフサイクル』金子書房
 ○下山晴彦・丹野義彦(編)『講座 臨床心理学5 発達臨床心理学』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本科目の概要と進め方
 第2回 乳児期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【基本的信頼感】
 第3回 乳児期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【愛着障害】
 第4回 幼児期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【自律性・積極性】
 第5回 幼児期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【発達障害】
 第6回 児童期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【勤勉性】
 第7回 児童期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【不登校】
 第8回 青年期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【自我同一性】
 第9回 青年期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【ひきこもり】
 第10回 中年期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【世代性】
 第11回 中年期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【うつ】
 第12回 老年期の不適応と臨床心理学的援助(その1)【統合】
 第13回 老年期の不適応と臨床心理学的援助(その2)【認知症】
 第14回 ライフサイクルと不適応(その1)【発達課題】
 第15回 ライフサイクルと不適応(その2)【カウンセリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 60% 討論への参加度 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者はレジュメを作成すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、① いじめ、不登校、摂食障害、自傷行為など、多様なかたちで生じてくる今日の青少年の問題事象に対する理解と援助、② 児童虐待、育児不安、産後うつ病などのかたちで生じてきている今日の「子育ての危機」の問題について、理論的なアプローチと事例研究的なアプローチの二つの側面から検討していくことを課題としていきたい。

なお、本年度は愛着形成と愛着障害の問題、保護者支援の問題をメインにとりあげたい。

教科書 /Textbooks

テキスト 遠藤・数井編 「アタッチメントと臨床領域」 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 保育園の「気になる子ども」の事例(発達障害系)
- 3回 事例検討 その2 保育園の「気になる子ども」の事例(愛着障害系)
- 4回 事例検討 その3 保育園の「気になる保護者」の事例
- 5回 事例検討 その4 成人期の発達障害者の事例(男性の事例)
- 6回 事例検討 その5 成人期の発達障害者の事例(女性の事例)
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 講読演習 テキスト 第七章
- 14回 講読演習 テキスト 第八章
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フィールドを持っている方は積極的な事例報告をお願いしたい。講読演習のテキストは必ず事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論研究【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

児童福祉の理論を深める。児童福祉の固有性とは何か。子どもを理解する基本的視点、児童福祉の理念や制度体系など、児童福祉問題を考える上で基礎となる理論や概念、社会システムについて学べるようにする。児童福祉問題の事例をとりあげ、制度・政策、実践・技術の観点から検討を行う。今日の児童福祉問題は、子どもへの支援だけではなく親や家庭への支援が課題となっており、事例を通して児童家庭問題への接近の仕方など、その方法論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野貴代美『新しいソーシャルワーク入門』学陽書房
宮地尚子『トラウマとジェンダー』金剛出版
小田兼三『エンパワメント』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 児童福祉とは
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【アイデンティティ形成】
- 4回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズ】 【ソーシャルスキル】
- 5回 子どもを理解する視点 【関係性の中に生きる】
- 6回 子どもを理解する視点 【主体的存在として】 【時間的存在として】
- 7回 子どもを理解する視点 【歴史と社会の中で生きる】
- 8回 子ども観の変遷と子どもの権利 【子どもの権利条約】
- 9回 児童福祉問題とソーシャルワーク
- 10回 児童福祉問題の検討(1) 非行少年の事例
- 11回 児童福祉問題の検討(2) 児童虐待の事例
- 12回 児童福祉問題の検討(3) 要保護児童の事例
- 13~14回 児童福祉問題の検討(4) 多問題家族の事例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定された文献を読んできて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論研究【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害者福祉の実践と研究の視角」

障害者福祉の（ないしは障害者福祉問題に近接する）領域において、援助現場から汲み取ることのできる研究上の課題や、または障害者政策のあり方をめぐる研究課題を取り上げ、それらを多角的に検討する。そのことによって、当事者および関係者、および現場が求める研究課題を明らかにすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河合克義『福祉論研究の地平』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～5回 障害者福祉研究の最近の動向を俯瞰する
- 第6～10回 障害者福祉研究の課題に関する検討
- 第11、12回 障害者福祉研究の方法に関する報告と討論
- 第13～15回 障害者福祉研究論文の意味と位置

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。

参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献を熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者福祉論研究【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義は介護保険制度を中心に進めるが、福祉に対する文化社会的な視点、価値観等に照らし合わせて制度を考えるとともに、高齢者の生活基盤である地域社会における多様な問題を随時、検討する。また、高齢者の福祉に限定せず、受講者の身近に感じる問題や課題を取り入れて進める。この過程で介護サービスの柱である介護保険制度から高齢者福祉へと考察を広げていく。従って、講義は、介護保険制度や高齢者福祉を理解し習得するとともに、福祉に限定しない視点から、文化社会的課題と関連して、高齢者福祉の課題を明確化することをねらいとする。学生は人口高齢化による社会的課題と介護保険制度を理解し、身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について
- 第2回 老年観、価値観等の文化的特徴【老年観】
- 第3回 高齢化・少子化、人口減少の現状
- 第4回 少子化に伴う社会的課題
- 第5回 人口減少の地域社会への影響
- 第6回 混住化と地域社会の現状【地域社会活動】
- 第7回 混住化と地域社会の現状【社会関係資本】
- 第8回 混住化と地域社会の現状【近隣関係】
- 第9回 老人福祉の推移【1990年まで】
- 第10回 老人福祉の推移【1990年以降】
- 第11回 介護保険制度の概要①【制度の概要】
- 第12回 介護保険制度の概要①【財源・政策論】
- 第13回 介護保険制度の概要②【法改正】
- 第14回 介護保険制度の概要②【法改正と改正後の課題】
- 第15回 孤立化と地域社会の課題【社会関係】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40% 課題報告30% 参加度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉コミュニティ研究【夜】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会情勢の変化は、家族や地域社会の関係性に影響を及ぼし、虐待や孤立死の問題など全国的に顕在化している。東日本大震災がもたらしたコミュニティへの影響も看過できない。これらの課題を、コミュニティ再生の視点から検証し、目指すべき「福祉コミュニティ」について考える。

また、北九州市における「福祉コミュニティ」形成の実践を中心としながら、住民活動と政策動向の両面から理解を深め、今後の「福祉コミュニティ」形成に向けた手法、理念について考察したい。

到達目標は、以下のとおり。

- ・ コミュニティの意味、機能を理解し、「福祉コミュニティ」形成に向けた自らの役割が判断できるようになる。
- ・ 住民活動や政策に関する理解を深め、自らの活動領域における関わりを明確にする。

教科書 /Textbooks

使用しない(必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「福祉コミュニティ形成の研究 新版」大学教育出版
 「北九州市発21世紀の地域づくり」中央法規出版
 「誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する」ミネルヴァ書房
 「地域を拓いた人たち」北九州市社会福祉協議会
 「コミュニティ論 改訂版」日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 第 1 回～第 2 回 現代社会とコミュニティ【コミュニティ】【福祉コミュニティ】
 第 3 回 コミュニティ問題の背景【地域組織】【住民自治】
 第 4 回～第 6 回 福祉コミュニティの課題【個人と家族】【孤立】【コミュニティケア】【住民参加】
 【ソーシャルインクルージョン】【災害】
 第 7 回 福祉コミュニティの理論【地域福祉】【構造改革】【地方分権】
 第 8 回～第 10 回 北九州市の福祉コミュニティづくり【コミュニティワーク】【ネットワーク】
 第 11 回～第 12 回 福祉コミュニティ事例研究【当事者参加】【まちづくり】【権利擁護】
 第 13 回 福祉コミュニティ形成の技術【ニーズ】【啓発】【福祉教育】【地域福祉計画】
 第 14 回～第 15 回 福祉コミュニティ形成の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30% 期末試験(レポート)... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたっては、自分の住む町や北九州市の住民活動、行政の保健福祉、コミュニティ施策の状況をできるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学研究【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に伴って生まれ、消滅してきたことが指摘されている。環境の変遷と文明の盛衰との関連を考えることは、環境問題の解決、ひいては現代の文明の行く末を見きわめる手がかりともなるだろう。この科目では、環境と文明の関わりについて、基礎的なテキストを読み理解を深める。

教科書 /Textbooks

「環境考古学のすすめ」(丸善ライブラリー 安田喜憲著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「環境考古学事始め」(洋泉社 安田喜憲著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の授業で受講者の担当部分と発表日を決める。
担当者が分担部分を発表した後、討論によって深めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% ゼミ発表の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の担当でない回でもテキストを読んでおくこと。また、新聞など目を通し、関連する記事の掲載があれば読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学研究【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて検討する。また方法論としてのフィールドワークによるデータの分析・考察の手法を学ぶ。

キーワードは以下の通り。

【人間性の起源】 【異文化理解】 【共役不可能性】 【自然】 【人間】 【贈与交換】 【環境認知】

教科書 /Textbooks

各自の興味を考慮し文献を決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の興味を考慮し文献を決める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認と文献の選択。
- 第1講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第2講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第3講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第4講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第5講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第6講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第7講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第8講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第9講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第10講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第11講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第12講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第13講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第14講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第15講 文献の発表とそれに基づくディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションとレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学研究【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行う。学外における実証的研究の指導も含む。

教科書 /Textbooks

院生諸君と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマに沿って論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジュメにて報告。司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う。各回のテーマは以下の通り。

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 文化とは何か
- 3回目 近代化とは何か
- 4回目 世俗化とは何か
- 5回目 ポストモダニズム論
- 6回目 消費社会論
- 7回目 後期近代の理論について(Z・パウマン)
- 8回目 後期近代の理論について(J・ヤング)
- 9回目 後期近代の理論について(A・ギデンズ)
- 10回目 観光文化概論
- 11回目 観光文化と消費文化
- 12回目 観光文化とポストモダニズム
- 13回目 グローバル化
- 14回目 グローバル化と消費主義
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度20%、レジュメ50%、発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズの領域に興味がありかつ知識があること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市社会学研究【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。
授業は演習形式も交えて行う。

教科書 /Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』(町村敬志・西澤晃彦著,2000,有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生【産業型都市、前産業型都市、社会移動、都市問題】
- 第3回 都市へのまなざし【エスノグラフィー、社会地図、参与観察】
- 第4回 都市的世界の構造【空間構造、社会階層、構造分析、人間生態学】
- 第5回 個性化のメカニズム【社会権の交差、個性化、ネットワーク分析、ファシズム】
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス【階級、階層、社会移動、都市の構造分析】
- 第7回 都市生活の基盤【社会的資源、資源配分、集会的消費、NPO】
- 第8回 居住点から広がる社会【アーバンイズム、町内会、コミュニティ】
- 第9回 郊外という迷宮【郊外、ニュータウン】
- 第10回 政治権力と都市【CPS、地域開発、成長マシンとしての都市】
- 第11回 見える都市、見えない都市【見えない権力、監視】
- 第12回 都市の計画と再生【都市計画、再開発】
- 第13回 ユートピアとしての都市【ユートピア、半都市主義】
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)...70% 参加・貢献度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。
文献について報告してもらうので、(1)概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメの用意が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域コミュニティという専攻の特質上、受講生各自が持つ問題意識は多岐にわたっている。それらの問題が、実際の社会心理学の研究とどのように関連しているかを理解してもらうことが目標である。社会心理学の研究論文を各自が読んでまとめたものを発表し、受講者で議論するという標準的な演習形式で進める。最初の数回の授業では、各自が興味をもつ社会現象等を発表し、それらがこれまで蓄積されてきた社会心理学的研究のどこに関連するのを探り、その後の授業は発表と議論にあてられる。

各受講生が関心を持つ特定の社会現象について、社会心理学的研究の内容を踏まえることで解釈が変化したことを説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

発表に用いるのは『心理学研究』、『社会心理学研究』、『実験社会心理学研究』等の雑誌である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の2, 3回(受講の人数によって異なる)は、各自が興味をもつ社会現象等を発表し、それらがこれまで蓄積されてきた社会心理学的研究のどのような分野に関連するのを探っていく。

実際の社会心理学的研究に関連しそうでつかのキーワードが出てきた時点で、『心理学研究』、『社会心理学研究』、『実験社会心理学研究』等の中から発表したい論文を選び、その内容を報告してもらう。論文内容を報告するとともに、自分の研究テーマとの関わりを紹介し、それについて議論する。

1回の授業に発表者は1人。1編の論文を報告してもらう。従って発表回数は受講の人数によって異なるが、例年は1人2回程度である。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 興味のある社会現象を発表
- 3回 関連するキーワードの選出
- 4回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【ストレス】
- 5回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【バーンアウト】
- 6回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【児童虐待】
- 7回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【親子の愛着】
- 8回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【エラーの指摘】
- 9回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【リスク認知】
- 10回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【進路決定過程】
- 11回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【職業アイデンティティ】
- 12回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【友人関係】
- 13回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【家族関係】
- 14回 研究論文の報告, 自分の研究テーマとの関連について議論【組織行動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は前の回の授業で次回の発表内容の概略を伝える事、その予告をもとにして他の受講生は予習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会心理学演習【夜】

キーワード /Keywords

コミュニケーション論演習【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションに関する実験や調査の技法について学習する。また、受講者自身が計画している実験や調査の方法について発表をしてもらい、その方法について議論検討したり、既発表の論文で実施されている実験や調査について受講者にレビューしてもらい、その方法について検討する。実験や調査の方法論について理解すること、多変量解析の各特徴について理解することが到達目標である。

教科書 /Textbooks

使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大野木裕明・中沢潤(編著)(2002). 心理学マニュアル研究法レッスン 北大路書房
- 山田剛史・村井潤一郎(2004). よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房
- 海保博之ほか(1999). 認知研究の技法 福村出版
- 鎌原雅彦ほか(編)(1998). 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房
- 浦上昌則・脇田貴文(2008). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書
- APA(アメリカ心理学会)(2004). APA論文作成マニュアル 医学書院
- 小塩 真司(2004). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで 東京図書
- 松尾太加志・中村知靖(2002). 誰も教えてくれなかった因子分析 - 数式が絶対に出てこない因子分析入門 - 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(1) 【序・方法】
- 第3回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(2) 【結果】
- 第4回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(3) 【考察】
- 第5回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(1) 【序・方法】
- 第6回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(2) 【結果】
- 第7回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(3) 【考察】
- 第8回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(1) 【序・方法】
- 第9回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(2) 【結果】
- 第10回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(3) 【考察】
- 第11回 探索的因子分析の演習
- 第12回 検証的因子分析の演習
- 第13回 共分散構造分析の演習
- 第14回 受講者による発表および討論(前半)
- 第15回 受講者による発表および討論(後半)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の修士論文のテーマを具体化しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の数によっては、一部内容を変更することがあります。

キーワード /Keywords

生涯学習論演習【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ライフステージごとの学習要求や学習課題、生涯にわたる学習や教育について、学習者がどのように変容していくのか、また、そうした変容を促す働きかけや条件とは何か。学習者の成長の法則性を明らかにしながら、それらを編成・促進する専門性について理解を深めることをねらいとしている。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会教育学会年報や紀要など
月刊社会教育

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

個々の研究テーマに近接する学習や教育に関わる研究や、諸課題を「解決」する動向・運動の展開について整理しながら、その教育的価値や変容のプロセス、支援のあり方に関する討議を行う。

- 1 ガイダンス
(2～14 発表をもとに討議を行う)
- 2 学習ニーズと学習課題
- 3 子育て・家庭教育
- 4 学校教育と社会教育
- 5 子どもの学校外教育
- 6 若者の学習
- 7 女性の学習
- 8 高齢者の学習
- 9 社会的排除と学習
- 10 学習をめぐる法制度
- 11 生涯学習関連施設と学習支援者
- 12 NPO・NGOと学習
- 13 地域づくりと学習
- 14 自己教育と相互教育
- 15 まとめ—総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (発表と討議)
授業態度と発表・・・70%、討論参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理臨床は現在、教育、福祉、医療、保健、司法といった多様な領域においてその専門性が発揮されている。そこで本演習では、心理臨床がこれらの各領域でどのように機能しているかを把握することに主眼をおくこととする。具体的には、受講者が関心を持つ領域での臨床心理士の活動に関する文献を各自で検索・収集して演習でプレゼンテーションし、それを題材として全体でのディスカッションを行いながら、心理臨床の実際についての理解を深めることとする。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 不適応の発生メカニズムについて理解することができる。
- ・ 不適応に対する具体的な援助の指針や進め方を導き出すことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下山晴彦・丹野義彦(編)『講座 臨床心理学6 社会臨床心理学』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要と進め方
- 第2回 教育領域における心理臨床(その1)【不登校】
- 第3回 教育領域における心理臨床(その2)【いじめ】
- 第4回 福祉領域における心理臨床(その1)【虐待】
- 第5回 福祉領域における心理臨床(その2)【愛着障害】
- 第6回 医療・保健領域における心理臨床(その1)【精神障害】
- 第7回 医療・保健領域における心理臨床(その2)【心理療法】
- 第8回 医療・保健領域における心理臨床(その3)【心理アセスメント】
- 第9回 医療・保健領域における心理臨床(その4)【乳幼児健診】
- 第10回 医療・保健領域における心理臨床(その5)【子育て相談】
- 第11回 司法・矯正領域における心理臨床【非行】
- 第12回 産業領域における心理臨床(その1)【ニート】
- 第13回 産業領域における心理臨床(その2)【キャリアカウンセリング】
- 第14回 臨床心理士は何ができるのか?
- 第15回 まとめ：心理臨床の実際(これまでの内容を基に全体討論を実施)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 60% 討論への参加度 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者はレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学演習【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、① いじめ、不登校、摂食障害、自傷行為など、多様なかたちで生じてくる今日の青少年の問題事象に対する理解と援助、② 児童虐待、育児不安、産後うつ病などのかたちで生じてきている今日の「子育ての危機」の問題について、理論的なアプローチと事例研究的なアプローチの二つの側面から検討していくことを課題としていきたい。

授業内容としては、参加者の事例報告や文献報告を中心に進めていきたい。

なお、现阶段では、①成人期の広汎性発達障害への理解と支援の問題、②保護者との愛着関係に課題を持つ幼児に対する理解と支援の問題について、集中的に検討していきたいと考えている。

教科書 /Textbooks

参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者の関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事例報告その1 成人期の広汎性発達障害者の事例(男性で診断されている事例)
- 第3回 事例報告その2 成人期の広汎性発達障害者の事例(男性で、未診断の事例)
- 第4回 事例報告その3 成人期の広汎性発達障害者の事例(女性で未診断の事例)
- 第5回 事例報告その4 育児に困難さを示す母親の事例
- 第6回 事例報告その5 児童虐待の事例
- 第7回 事例報告その6 その他の事例
- 第8回 文献購読 テキスト序章、第一章
- 第9回 文献購読 テキスト 第二章
- 第10回 文献購読 テキスト 第三章
- 第11回 文献購読 テキスト 第四章
- 第12回 文献購読 テキスト 第五章
- 第13回 文献購読 テキスト 第六章
- 第14回 参加者の希望によって内容を決定する
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フィールドを持っている院生はできるだけ事例または実践の報告をお願いしたい。
文献購読をする場合には、自分が発表ではない場合でも、必ず読んで授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成人期の広汎性発達障害、課題を抱える若者への自立支援、愛着関係、愛着生涯、子育て支援

児童福祉論演習【夜】

担当者名
/Instructor

河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

児童家庭福祉問題の研究にジェンダーの視点を取り込むことをねらいとしている。今日、「格差」をめぐる問題が顕在化し、「貧困の女性化」として母子世帯の貧困問題が福祉の課題となっている。また、児童家庭福祉の担い手としての「ケアの女性化」をめぐる問題、児童虐待、配偶者の暴力など家族内暴力の背景にもジェンダーの問題が介在している。本授業では、ジェンダーの視点からの児童家庭福祉問題を検討する際に踏まえておかなければならない基本事項として、研究の視座、方法論、研究対象、理論などについて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大沢真理 『福祉国家とジェンダー』 明石書店
河嶋静代 「フェミニズムの視点による社会福祉研究の視座」 『アジア女性研究』 第17号
河野清美 『新しいソーシャルワーク入門』 学陽書房
杉本貴代栄 『社会福祉の中のジェンダー』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フェミニズムの視点 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 フェミニズムの視点
- 3回 研究の方法とフェミニスト調査 【エスノグラフィー】
- 4回 研究の方法とフェミニスト調査の実際 【アクションリサーチ】
- 5回 研究の方法とフェミニスト調査の実際 【DV調査】 【性売買調査】
- 6回 社会福祉とフェミニズム 【社会福祉学のパラダイム転換】
- 7回 ソーシャルワークとフェミニズム 【エンパワメント】 【当事者性】
- 8回 ソーシャルワークとフェミニズム 【システム論】
- 9回 社会福祉とフェミニズム 【家族モデル】 【社会保障】
- 10回 社会福祉とフェミニズム 【福祉国家】
- 11回 児童家庭福祉問題とジェンダー 【貧困の女性化】
- 12回 児童家庭福祉問題とジェンダー 【ケア労働の女性化】
- 13回 児童家庭福祉問題とジェンダー 【性暴力】 【トラウマとジェンダー】
- 14回 児童家庭福祉問題とジェンダー 【家族神話】 【母性神話】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 80% 課題20...%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で指示された事柄について 自主学習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論演習【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害者福祉の現代的課題と研究の視角」

障害者福祉の（ないしは障害者福祉問題に関連する近接）領域において頻繁に取り上げられる重要なキーワードを拾い上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべき課題を明らかにする。そのことを通して研究方法のあり方や研究課題の設定の仕方をも身につけることを目的とする。

いくつかのキーワード

【障害者福祉の思想 - ノーマライゼーション・インクルージョン】

【福祉ミックス - 福祉供給システムの多元化】

【ピアカウンセリング】 【エンパワメント】

【権利擁護システム（例えばオンブズマン、成年後見制度・日常生活自立支援事業）】

【福祉の市場化】 【社会福祉基礎構造改革】 【措置制度から契約制度へ】

【施設解体・地域生活支援】 【施設 - 地域コンフリクト】 【障害者プラン - 障害福祉計画】

【障害者とIT】 【障害者スポーツ】 【扶養義務規定と家族支援】 【出生前検診】

【障害者と介護保険】 【障害者総合支援法】

など。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～5回 障害者福祉領域の課題・動向に関する講義
- 第6～13回 主要なキーワードに関する報告と討論
- 第14、15回 まとめの議論

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。

参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の熟読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者福祉論演習【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者福祉論演習では、孤立や高齢者の生活の質に関わる地域社会の基本的条件等の問題について、前期の講義を前提に、調査結果に基づく受講者の身近な問題意識などについて、普遍化することをねらいとしてすすめる。そのため、授業内容のテーマは、受講者が問題意識と結びつけて報告するための目安として設定している。学生は人口高齢化に伴う課題に関する自分の問題意識について、多様な視点を得ることができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方について
- 第2回 高齢化の社会理論
- 第3回 高齢期に関する心理学的理論
- 第4回 高齢者に関する社会保障制度【医療、公的扶助】
- 第5回 高齢者に関する社会保障制度【老人福祉、介護保険】
- 第6回 高齢期の環境とアイデンティティ
- 第7回 高齢期の社会的サポートと生活の質
- 第8回 高齢者から見た高齢期の生活の質【心理的満足】
- 第9回 高齢者から見た高齢期の生活の質【家族、友人、近隣との社会関係】
- 第10回 高齢者の生活の質の確保に関わる地域社会の基本的条件
- 第11回 生活環境の変化と高齢者めぐる課題【生活の郊外化、買い物、通院】
- 第12回 高齢者の家族介護者の理解
- 第13回 高齢者虐待
- 第14回 近隣の社会関係と孤立
- 第15回 高齢者のこころと社会的適応過程

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出30%、課題報告40%、参加度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高齢者福祉論研究講義を受講すること。

履修上の注意 /Remarks

各回の課題に対して報告を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学演習【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に伴って生まれ消滅してきた。環境の変遷と、文明の盛衰との関連を考えることは、現代の環境問題の解決、ひいては文明の行く末を見きわめる手がかりともなるだろう。

本演習では、環境変遷と文明の関連について、特に日本人の日本列島への渡来と環境の関係について考える。

教科書 /Textbooks

「日本人はるかな旅1～5」(NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「環境と倫理 自然と人間の共生を求めて」(加藤尚武編 有斐閣 1890円)

「人類史のなかの定住革命」(西田正規著 講談社 950円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進める。

テキストを読んで発表・討論し、併せて同一タイトルで出版されているDVDを見る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の担当でない回でもテキストを読んでおくこと。また、新聞など目を通し、関連する記事の掲載があれば読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学演習【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて検討する。また方法論としてのフィールドワークによるデータの分析・考察の手法を学ぶ
 キーワードは以下の通り
 【人間性の起源】 【異文化理解】 【共役不可能性】 【自然】 【人間】 【贈与交換】 【環境認知】

教科書 /Textbooks

各自の興味を考慮し文献を決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の興味を考慮し文献を決める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認と文献の選択。
- 第1講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第2講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第3講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第4講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第5講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第6講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第7講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第8講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第9講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第10講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第11講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第12講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第13講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第14講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第15講 文献の発表とそれに基づくディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションとレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学演習【夜】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。一学期の文化社会研究セミナーの議論を踏まえ、さらに現代文化研究に関する論文を読み、討論を行う。学外における実証的研究の指導も含む。

教科書 /Textbooks

院生諸君と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

院生諸君と話し合った後に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文を読み (又は社会調査を行い) 参加学生がレジュメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う。テーマは以下の通り。

- 1回目 後期近代について
- 2回目 Z・パウマン論
- 3回目 J・ヤング論
- 4回目 A・ギデンズ論
- 5回目 リスク社会について
- 6回目 ポストモダニズムの文化についての理論
- 7回目 ポストモダニズムの文学
- 8回目 ポストモダニズムの哲学
- 9回目 ポストモダニズムの映画
- 10回目 ポストモダニズムの絵画
- 11回目 ポストモダニズムの音楽
- 12回目 F・ジェイムソンとポストモダニズム
- 13回目 観光文化とポストモダニズム
- 14回目 デイズニー化論
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20% レジュメ 30%、レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズの領域に興味がありかつ知識があること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論研究【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育のシステムについての専門的な知識を習得し、理解を深める。

目標

- ①教育のシステムを研究する上で必要な知識を習得する。
- ②教育のシステムの諸課題を整理し、対応策について考えることができる。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 多様なニーズと学習権
- 3回 公教育の「危機」と「再生」
- 4回 多様化する学校教育の供給主体
- 5回 教育の「質」確保と教育システム
- 6回 教育のアーティキュレーション
- 7回 「学ぶ」ことと「働く」ことの接続
- 8回 「効果的な学校」とは？ チャータースクール
- 9回 「効果的な学校」とは？ コミュニティスクール
- 10回 エスニシティと多文化教育
- 11回 エスニシティと「シティズンシップ」の教育
- 12回 教師の力量とアイデンティティ形成
- 13回 学習する組織
- 14回 学校と地域の協働
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 40% 発表報告... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床社会学研究【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の展開について紹介する。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』（有斐閣アルマ、2004年）
- 岩田正美『社会的排除』（有斐閣、2008年）
- 井上真理子・佐々木喜代三ほか編著『社会病理学講座』1巻～4巻（学文社、2003-2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要（社会病理学から臨床社会学へ）
- 2回～3回 社会問題と社会学
- 4回～5回 社会病理学の生成
- 6回～7回 逸脱とは何か？
- 8回 中間まとめ
- 9回～10回 社会問題の構築主義アプローチ
- 11回～12回 臨床社会学の生成
- 13回～14回 臨床社会学の展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 70% 参加度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について自分なりの関心があり、社会病理学について一定の知識があることが望ましい。
授業では、文献について報告してもらうこともある。その際は準備が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学研究【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、明治期以前から用いられてきた広義の概念である「やま(山)」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

- コンラッド・タットマン「日本人はどのように森をつくってきたのか」
- 宮本常一「山村と国有林」「日本の中央と地方」
- 「森林・林業白書」前年度版、その他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 成城大学民俗学研究所「昭和期山村の民俗変化」
- 他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択とスケジュール確定
- 2回 森林・林業の歴史について解説
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 山村問題について解説
- 10回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森林(山林)、林業、山村(農村、村)をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論演習【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育のシステムについての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。

授業前半は共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。

後半は教育システムに関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

目標

- ①教育のシステムを研究する上で必要な知識を習得する。
- ②教育システムの諸課題について、自らの考えをより深める。

教科書 /Textbooks

文献資料は初回に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【大学紀要等】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【大学紀要等】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【大学紀要等】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【学会誌】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学会誌】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【学会誌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床社会学演習【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の講義をもとにテーマをしぼって検討する。

教科書 /Textbooks

演習の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習の中で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は例であり、変更もありうる。

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 社会への参加について
- 5回～7回 社会的排除について
- 8回～10回 セーフティネットからの脱落
- 11回～14回 社会的包摂について
- 15回 まとめ

こうしたテーマを扱いながら文献の輪読と検討を進める予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度、レポート、報告等を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の研究テーマに関連させて、個人発表を行うことが中心である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学演習【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、明治期以前から用いられてきた広義の概念である「やま(山)」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

- 筒井迪夫「森林文化への道」
- 北村昌美「森林と日本人」、その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択とスケジュール確定
- 2回 森林文化の研究史について解説
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 10回 新しい森林文化論について解説
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森林(山林)、林業、山村(農村、村)をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化研究I (米文化)

【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ現代演劇を代表するアーサー・ミラーとテネシー・ウィリアムズの戯曲のテキストを精読・解釈・分析する。その際には、アメリカ社会の独自性、特殊性を作品がどのように映し出しているかという点を特に理解できるように注意を払っていく。既成の評価にとらわれず、可能な限り、独自の作家像を授業を通して提示したい。そのような作業を通して、作者の人間観、世界観の特質、作品と社会背景との関連性などに関する分析力を身に付けることを目的とする。

また、アーサー・ミラーは、ユダヤ系アメリカ人である。そのような作者の民族性が作品にどのような形で反映されているかを考えることにより、作品におけるユダヤ人的な視点、発想が、純アメリカ的な他の文学作品の中の視点と、どのような関係を形成しているかに関する理解も深めてもらおう。同様に、ウィリアムズの作品が舞台としている南部の文化の独自性と作品内容との関連性についても理解を深めたい。また、『欲望という名の電車』は映画化されている。原作と映画を比較検討することにより、原作と映画との関係に関する分析力も高めたい。

他にも、作品に関連した英語の評論文の読解も時間が許す限り行ないたい。そうすることにより、英語の評論文や古典的な文学作品を読みこなせるだけの英語力も、可能な限り身に付けたい

教科書 /Textbooks

Death of a Salesman Arthur Miller 南雲堂
A Streetcar Named Desire Tennessee Williams A New Directions Paperback ISBN: 978-0-8112-1602-9
受講希望者は事前に、上記テキストをアマゾンや生協等で購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アーサー・ミラー全集I』 早川書房 倉橋健訳
- Willy Loman Ed. Harold Bloom Cherssea House Publishing
- 『欲望という名の電車』 テネシー・ウィリアムズ 新潮文庫
- The Cambridge Companion to Tennessee Williams Ed. Matthew Roudane Cambridge UP

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|--------------------------------|------------------------------|
| 1回 | Arthur Miller に関する概説 | |
| 2回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 過去の位置付けのユダヤ的特質に関する分析 |
| 3回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 女性描写のユダヤ的特質の分析 |
| 4回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | スポーツ描写のユダヤ的特質の分析 |
| 5回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 家族描写のユダヤ的特質の分析 |
| 6回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 物質主義の取り扱い方の分析 |
| 7回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 英語評論文の輪読 |
| 8回 | Tennessee Williamsに関する概説 | |
| 9回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 小道具がテーマの展開に如何に寄与しているかについての考察 |
| 10回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作中の音楽と南部文化との関連性に関する考察 |
| 11回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | ランチの生き方の南部性に関する考察 |
| 12回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作者の世界観、人間観の南部的特質の考察 |
| 13回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作中の女性像の特質に関する考察 |
| 14回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 原作と映画の比較研究 |
| 15回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 英語評論文の輪読 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの指定された箇所(20ページ程度)を、授業前に読んでおくこと。
また、発表を担当する際には、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

英米文化研究I (米文化)

【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化研究II (英文化) 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean comedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare) ed. by Jonathan Bate and Eric Raasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)
A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Defining Comedy 1: The Fool
Class 3: Defining Comedy 2 Endings
Class 4: The Business of Comedy 1: Pleasure
Class 5: The Business of Comedy 2: Pain
Class 6: The Players: Casting and Creation
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Marriage 1: Historical Accounts
Class 9: Renaissance Marriage 2: Fictional Accounts
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Required preparation will be discussed during the first class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学研究I (米文学) 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米文学研究I (米文学研究) では、「20世紀の意識の流れの文学」の先駆となったH. James、「ロストジェネレーション」の代表的作家F. S. フィッツジェラルド、E. ヘミングウェイ等を読む。

教科書 /Textbooks

テキストは以下の通りです。各作家と作品の参考文献と翻訳等は図書館にあります。

Mark Twain: The Adventures of Huckleberry Finn (Norton Critical Edition)

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises (Norton Critical edition)

F.S. Fitzgerald: The Great Gatsby (Charles Scribner & Son)

Henry James: The Portrait of a Lady (Norton Critical Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考文献と資料等は、その都度プリントにして配布いたします。

参考書などは、図書館の指定図書コーナーに開架し、さらに授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第1章～第10章
- 第2回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第11章～第20章
- 第3回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第21章～第30章
- 第4回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第31章～第42章
- 第5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 第1章～第4章
- 第6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 第5章～第9章
- 第7回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第1章～第5章
- 第8回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第6章～第10章
- 第9回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第11章～第15章
- 第10回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第16章～第19章
- 第11回 Henry James: The Portrait of a Lady 第1章～第10章
- 第12回 Henry James: The Portrait of a Lady 第11章～第22章
- 第13回 Henry James: The Portrait of a Lady 第23章～第34章
- 第14回 Henry James: The Portrait of a Lady 第35章～第46章
- 第15回 Henry James: The Portrait of a Lady 第47章～第55章

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート (70%) と発表 (30%) で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは読むこと、また、授業中に指示した参考書等を読むこと。

発表者は、前日までにE-mail等で発表レポートを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、前日までにE-mail等で発表レポートを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【アメリカ人とは】【新大陸アメリカvs旧大陸ヨーロッパ】【フロンティア】【American Dream】【資本主義 (成金) 】【世界大戦】【ニヒリズム】【アメリカの新しい女たち】【意識の流れの文学】

英米文学研究II (現代米文学) 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anglo-American Modernism: The course looks at emergence of 20th century Modernism beginning in late 19th century and continuing through early 20th century. Course considers early critique and rejection of 19th century Romantic celebration of self, origins of Modernist attitudes in European Aestheticism, emphasis on place of artist within a tradition (and exploration of alternative 'traditions'), arguments for "classicism," as well as first experimental writing in Modernist mode.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Modernism: Contemporary Perspectives
- 2回 A Great Tradition?
- 3回 Contextualizing Modernism: 19th century Aestheticism
- 4回 Pre-Modernism--Henry James
- 5回 Pre-Modernism--Henry James
- 6回 Pre-Modernism--Willa Cather
- 7回 The New Classicism--T.E. Hulme
- 8回 T. E. Hulme
- 9回 Ezra Pound--Imagism and Early Poetry
- 10回 Pound--heroic ideals?
- 11回 T. S. Eliot and the Modernist anti-hero, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 12回 Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 13回 Eliot, Essays
- 14回 Eliot, Essays
- 15回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Admission to the Graduate Program in English and American Literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Aestheticism, New Classicism, T. E. Hulme, Ezra Pound, T. S. Eliot

英米文学研究Ⅲ (英文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は英語力の向上をめざし、イギリス社会背景の専門知識をえることにある。

そのため、

- ①英文テキストが書かれた背景、社会状況の十分な理解。
- ②読む者の主観を排して英文テキストの意図する意味の把握。
- ③叙述の仕方と文法の分析。

以上3点がねらいである。

Henry JamesとVirginia WoolfとJames Joyceの代表作を比較検討しながら、語り手の視点の特徴、語り手と「映し手」(reflector) の関係、語り手の潜在化の度あい、「映し手」の内的焦点化の深度等を順次分析する。

教科書 /Textbooks

『英国小説の「語り」の構造』(開文社出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『鳩の翼』(講談社)
- 『ダロウエイ夫人』(みすず書房)
- 『若き日の芸術家の肖像』(新潮文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回序論
- 2 回『鳩の翼』叙述分析(語り手)
- 3 回『鳩の翼』叙述分析(作中人物)
- 4 回『鳩の翼』叙述分析(語りの特徴)
- 5 回『鳩の翼』構造分析
- 6 回『ダロウエイ夫人』叙述分析(語り手)
- 7 回『ダロウエイ夫人』叙述分析(作中人物)
- 8 回『ダロウエイ夫人』叙述分析(語りの特徴)
- 9 回『ダロウエイ夫人』構造分析
- 1 0 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(語り手)
- 1 1 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(作中人物)
- 1 2 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(語りの特徴)
- 1 3 回『若き日の芸術家の肖像』構造分析
- 1 4 回『鳩の翼』と『ダロウエイ夫人』の叙述比較
- 1 5 回『鳩の翼』と『ダロウエイ夫人』と『若き日の芸術家の肖像』の叙述比較

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 1 0 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

扱う小説をしっかりと読み込んでおく。課題にword fileで回答する。

英米文学研究III (英文学) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (日英語比較) 【夜】

担当者名
/Instructor

漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語は、系統はもとより語彙・文法も大きく異なる2言語である。本講義では音韻・形態・語彙・統語・意味・談話などの面からその違いを取り上げ、比較対照しつつ、その裏にあるより抽象度の高いレベルでの共通性・一般性を、生成文法理論や機能主義理論の枠組みを用いてとらえる。

そして、そのような分析が実際の英語教育や日本語教育の現場で遭遇する問題にどう生かせるかも議論する。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中右 実(編) 『日英語比較選書』。研究社。
 - Levin, B. 1993. English Verb Classes and Alternations. Chicago: The University of Chicago Press.
 - Tsujiura, N.(ed.) 1996. The Handbook of Japanese Linguistics. Cambridge: Basil Blackwell.
- その他授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学および英語学の研究方法
- 第2回 音声学・音韻論1：日英語の音素比較
- 第3回 音声学・音韻論2：日英語の音節構造比較
- 第4回 形態論1：日英語の派生形態論と屈折形態論
- 第5回 形態論2：日英語の複合語形成比較
- 第6回 統語論1：日英語の文構造比較
- 第7回 統語論2：日英語の文構造を決定するパラメータ
- 第8回 意味論1：日英語の項構造比較
- 第9回 意味論2：日英語の語彙概念構造比較
- 第10回 語用論1：日英語の発話行為比較
- 第11回 語用論2：日英語のポライトネス比較機能主義言語学の日英語比較
- 第12回 談話分析：日英語の情報構造比較
- 第13回 事例研究1：英語の冠詞指導と日本語の助詞指導
- 第14回 事例研究2：日英語の会話指導
- 第15回 事例研究3：CALLシステムを用いた指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 5% 発表 30% 期末レポート 65%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究II (社会言語学) 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は言語と社会の係わりを様々な視点から捉え、言語のバリエーションと変化を中心に社会言語学の基本的概念や理論を学ぶことを目的とします。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、様々な社会的要因について社会言語学的視点から考えます。代表的な研究を紹介・解説したのちに最近の文献を取り上げ、内容について全員で考察・議論する予定です。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 地域変種
- 3回 社会変種(1) 階級・性
- 4回 社会変種(2) 年齢・民族
- 5回 言語変化
- 6回 方言接触
- 7回 言語接触
- 8回 <文献検索>
- 9回 最近の文献を考察・議論(1)
- 10回 <研究発表(1)・ディスカッション>
- 11回 最近の文献を考察・議論(2)
- 12回 <研究発表(2)・ディスカッション>
- 13回 最近の文献を考察・議論(3)
- 14回 <研究発表(3)・ディスカッション>
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...40%、レポート...60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究Ⅳ (通訳) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。英語学研究という表題からも窺えるように、おもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思ひます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、2学期の「英語学演習Ⅳ(通訳)」の準備を兼ねて、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に応用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思ひます。したがって、この授業を受講する方は、できるだけ2学期開講の「英語学演習Ⅳ(通訳)」をあわせて受講されるようお勧めします。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテキングの理論
- 第10回 ノートテキングの実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいた上でご参加ください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思ひます。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

英米文化演習I (米文化)

【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critica Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等で購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1 - 4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5 - 8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9 - 12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13 - 16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17 - 23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24 - 27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28 - 31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32 - 35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36 - 40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41 - 43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品の事前に指定された箇所(25ページ程度)を事前に読んでおくこと。
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジュメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化演習II (英文化) 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)
A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Required preparation will be discussed during the first class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学演習I (米文学)

【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

J. Steinbeck, E. Hemingway, W. Faulknerについて研究する。
 Hemingwayは【中西部 (Chicago郊外)】に生まれ、『西部戦線異状なし』と並ぶ【戦争小説】の双壁であるA Farewell to Arms『武器よさらば』を書いて20世紀にアメリカ英語を世界の言語にした。
 Steinbeckは【西部 (カリフォルニア)】に生まれ、『パイサーノ』について描き、現在のヒスパニック文化の源流をその文学に見ることが出来る。
 Faulknerは【南部のDeep South】に生まれ、青年期にカナダ空軍に入隊し、ニューオーリンズなどを放浪し、ハリウッドでシナリオを書くとき以外はほとんど南部を出ることはなかった。南部の歴史と民話を掘り起し、南部の神話を【ヨクナパトファ・サーガ】とBIGLOBEして創り上げた。
 これらの作家の作品はアメリカの根源的な問題を掘り下げているのだが、アメリカの病理を浮かび上がらせ、それを批判するだけでなく、アメリカのヴァイタリティをも見せてくれる作家である。
 Faulknerがノーベル賞受賞演説で述べたように、文学は単に人間や社会の病巣をえぐり、そのdark sideを暴露するばかりでなく、prevailするような力を謳う必要がある。

教科書 /Textbooks

William Faulkner: A Rose for Emily (The Viking Press)
 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Jonathan Cape)
 John Steinbeck: The Long Valley (Viking Compass Book)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は図書館の指定図書コーナーに設置し、さらに必要なものはその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 William Faulkner: A Rose for Emily
- 第2回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Indian Camp)
- 第3回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (The Doctor and the Doctor's wife)
- 第4回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (The Battler)
- 第5回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Cat in the Rain)
- 第6回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Big Two-hearted River)
- 第7回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Hill Like White Elephants)
- 第8回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (A Canary For One)
- 第9回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (Now I Lay Me)
- 第10回 Ernest Hemingway: The First Forty-Nine Stories (A Clean, Well-lighted Place)
- 第11回 John Steinbeck: The Long Valley (The Red Pony前半)
- 第12回 John Steinbeck: The Long Valley (The Red Pony後半)
- 第13回 John Steinbeck: The Long Valley ("The Chrysanthemums")
- 第14回 John Steinbeck: The Long Valley ("The White Quail")
- 第15回 John Steinbeck: The Long Valley ("The Snake")

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の発表 (30%) とレポート (70%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

以上のテキストを使うが、参考文献や翻訳等は図書館にもあるので参考にすること。
 参考文献や資料はプリントにして配布する。
 課題レポートの発表者は前日までにレジメを添付ファイルで送信すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【中西部 (シカゴ) 】 【戦争小説】 【西部 (カリフォルニア) 】 【パイサーノ】 【南部Deep South】 【ヨクナバトファ・サーガ】

英米文学演習II (現代米文学) 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Modernism II: Course undertakes survey of key developments in English and American literature from High Modernist period to emergence of Postmodernist fiction and poetry in mid-20th century. Discussion addresses repercussions of First World War and subsequent disillusion, Modernist critique of Western civilization, emergence of a new parodic 'voice,' and intimations of a new Postmodernist attitude in art and literature.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Modernism in Historical and Cultural Context
- 2 回 T. S. Eliot, "The Waste Land"
- 3 回 Eliot, "The Waste Land"
- 4 回 Eliot, "The Waste Land"
- 5 回 James Joyce, "The Dead"
- 6 回 Joyce, "The Dead"
- 7 回 Ernest Hemingway, "In Our Time"
- 8 回 Hemingway, "In Our Time"
- 9 回 Jazz Age and Disillusion
- 10 回 F. Scott Fitzgerald, "The Great Gatsby"
- 11 回 Fitzgerald, "The Great Gatsby"
- 12 回 Samuel Beckett, "Waiting for Godot"
- 13 回 Beckett, "Waiting for Godot"
- 14 回 Beckett, "Waiting for Godot"
- 15 回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term Paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Admission to the Graduate Program in English and American Literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Postmodernism, T. S. Eliot, James Joyce, Hemingway, Fitzgerald, Beckett

英米文学演習Ⅲ (英文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は英語力の向上をめざし、イギリス社会背景の専門知識をえることにある。

そのため、

- ①英文テキストが書かれた背景、社会状況の十分な理解。
- ②読む者の主観を排して英文テキストの意図する意味の把握。
- ③叙述の仕方と文法の分析。

以上3点がねらいである。

文学テキスト叙述分析を体得する。Anthony Trollopeの代表作Framley Parsonageを扱う。語り手の視点の取り方、語り手の視点の特徴、語りの技法等を順次分析する。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope :Framley Parsonage (Penguin Books)
 その他適宜プリントを配布してテキストとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回序論
- 2 回 Chapter 1 - 4
- 3 回 Chapter 5 - 8
- 4 回 Chapter 9 - 12
- 5 回 Chapter 13 - 16
- 6 回 Chapter 17 - 20
- 7 回 Chapter 21 - 24
- 8 回 Chapter 25 - 28
- 9 回 Chapter 29 - 32
- 10 回 Chapter 33 - 36
- 11 回 Chapter 37 - 40
- 12 回 Chapter 41 - 44
- 13 回 Chapter 45 - 48
- 14 回 Chapter 1 - 23章の総括
- 15 回 Chapter 24 - 48章の総括。結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりくんでもらう。課題にword fileで回答する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英米文学演習Ⅲ (英文学) 【夜】

キーワード /Keywords

英語学演習I (日英語比較) 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語は、系統はもとより語彙・文法も大きく異なる2言語である。本演習では英語学研究I(日英語比較)で学んだ音韻・形態・語彙・統語・意味・談話などの面の違いについて、各自で興味深い事実について調べ、発表を通して理解を深める。

特に、英語教職専修免許履修者にあつては、それらの違いを中学校あるいは高等学校の英語教育の場でどのように学習者(生徒)に伝えるか、模擬授業(高等学校の場合は原則として英語)をしてもらうことも考えている。

一方、日本語教育を目指す履修者も念頭に置き、日本語を第一言語としない学習者に対する説明方法の一端を紹介したい。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 中右 実(編)『日英語比較選書』。研究社。
 - Levin, B. 1993. English Verb Classes and Alternations. Chicago: The University of Chicago Press.
 - Tsujiimura, N.(ed.) 1996. The Handbook of Japanese Linguistics. Cambridge: Basil Blackwell.
- その他授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：授業の進め方
- 第2回 日英語の音韻の異同
- 第3回 日英語の形態の異同
- 第4回 発表1：音韻に関する発表
- 第5回 日英語の統語の異同1
- 第6回 発表2：形態に関する発表
- 第7回 日英語の統語の異同2
- 第8回 発表3：統語に関する発表①
- 第9回 日英語の語彙と意味の異同
- 第10回 発表4：統語に関する発表②
- 第11回 日英語の情報構造の異同
- 第12回 発表5：語彙と意味に関する発表
- 第13回 日英語の対人コミュニケーションの異同
- 第14回 発表5：情報構造に関する発表
- 第15回 英語模擬授業あるいは日本語指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 10% 発表 50% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習(特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

「英語学研究I(日英語比較)」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習II (社会言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学概念や理論を踏まえた上で日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とします。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察します。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学びます。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 言語調査について
- 3回 方法論(1) 会話データ収集
- 4回 方法論(2) 会話書き起こし
- 5回 学生による研究報告(1)
- 6回 方法論(3) データのコーディング
- 7回 方法論(4) データ分析
- 8回 学生による研究報告(2)
- 9回 方法論(5) アンケート
- 10回 学生による研究報告(3)
- 11回 ディスカッション
- 12回 学生による研究報告(4)
- 13回 ディスカッション
- 14回 学生による研究報告(5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語学研究II (社会言語学)』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習Ⅳ(通訳)【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期開講の「英語学研究Ⅳ(通訳)」では、若干の実技も行ないましたが、おもに通訳理論等を学びましたので、2学期開講のこの科目では、「通訳」実技を集中的に行ないたいと思います。ここではおもに英語と日本語の間での通訳を想定して実技指導を行ないますが、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳に応用することも視野に入れて指導します。

近年、通訳訓練法が効果的な英語学習法として注目を集めるようになってきました。この科目を受講される皆さんの中には、高度な英語力を鍛えることを目標にしている人もいらっしゃることでしょう。通訳訓練法として認知されているシャドーイングやその他のテクニックを用いて、正確に英語による発話を聞き取り、平明な日本語に置き換える、また日本語による発話を聞き取って正確な英語に通訳する、それとともに、背景知識の量を増やしていくことも、わかりやすい通訳のためには大切です。皆さんには、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいかなど、1学期に議論したことをよく考えて実践していただきたいと思います。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳訓練および通訳の実技を通して、わかりやすい通訳とは何かを深く理解する、②ボランティア通訳検定A級(2008年度以降休止中)レベルの通訳実技を身につける、③通訳に必要な背景知識を増強する、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 通訳基礎訓練：通訳の実際と、そのために必要な技能を認識する。
- 第03回 通訳基礎訓練：日本語と英語の音声を比較検討する。
- 第04回 通訳基礎訓練：語彙と背景知識を増やす。
- 第05回 通訳基礎訓練：クイックレスポンスを中心に
- 第06回 通訳基礎訓練：シャドーイングを中心に
- 第07回 通訳基礎訓練：リプロダクションを中心に
- 第08回 通訳基礎訓練：ノートテイキングの理論と実践
- 第09回 英日逐次通訳演習(一般的な内容のスピーチ)
- 第10回 英日逐次通訳演習(やや専門的な内容のスピーチ)
- 第11回 日英逐次通訳演習(一般的な内容のスピーチ)
- 第12回 日英逐次通訳演習(やや専門的な内容のスピーチ)
- 第13回 英日同時通訳演習
- 第14回 日英同時通訳演習
- 第15回 全体のまとめと実技発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいうえでご参加ください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

中国文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅「中国小説史略」）の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯曲が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。到達目標は、中国近現代文学史に関する知識を養い、魯迅を中心とする中国の近現代文学について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』（トーマス・ハクスレー『進化と倫理』）の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集「呐喊」について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争—「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家連盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学、魯迅、五四新文化運動

中国文学研究II (中国古典文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 黄 冬柏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

三国志と呼ばれるものには、史書『三国志』と小説『三国志演義』がある。この講義では、小説『三国志演義』における虚実の組み合わせや英雄豪傑の原像を読み解くことによって、中国古典小説の面白さを知るとともに、中国の文学や人々の考え方をより深く理解できる。

教科書 /Textbooks

『三国志演義の世界』 金文京著 商務印書館 2010年 (プリントを配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『三国志演義の世界』 金文京著 東方書店 1993年
- 『三国志と日本人』 雑喉潤著 講談社 2002年
- 『三国志演義』 羅貫中著・井波律子訳 筑摩書房 2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国文学における『三国志演義』
- 第2回 史書『三国志』と小説『三国志演義』の異同
- 第3回 映画『レッドクリフ』と小説『三国志演義』
- 第4回 名場面(1)「桃園の誓い」
- 第5回 人物像(1)神になった英雄—関羽
- 第6回 名場面(2)「官渡の戦い」
- 第7回 人物像(2)曹操はなぜ悪役なのか
- 第8回 名場面(3)「三顧の礼」
- 第9回 人物像(3)劉備の人徳
- 第10回 名場面(4)「赤壁の戦い」
- 第11回 人物像(4)諸葛亮の知恵
- 第12回 名場面(5)「関羽の最期」
- 第13回 名場面(6)「秋風五丈原」
- 第14回 日本における『三国志演義』の受容
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習への取り組みとレポートによって評価する。
(日常の学習状況と発表 : 60%、レポート : 40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料や参考書の関連部分を熟読して講義に備える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学研究I (音声学) 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のテーマは、現代中国語の音声について。今日、大学の中国語教育に携わる人にとって、中国語音声学の知識をきちんと習得していることは必須の要件と考えられる。この講義では、学部レベルの基礎知識を前提に、より多角的、体系的に中国語音声に関する諸問題を考察し議論していく。学生のための発音教授法・発音学習法といった実用的なテーマも積極的に取り上げる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 平井勝利『教師のための中国語音声学』 白帝社2012年
- 小泉 保『音声学入門』 大学書林1995年
- 張本楠・楊若薇『普通話連読音変』 香港商務印書館2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 表音文字 (ローマ字) と音声の関係
- 第3回 発音器官と言語音の分類
- 第4回 日本語の音節と中国語の音節
- 第5回 中国語の声母・韻母とローマ字表記
- 第6回 中国語の声調と声調変化
- 第7回 中国語におけるさまざまな発音変化
- 第8回 日中両言語の音声対照 (比較音声学)
- 第9回 中国語の重音音節と軽音音節
- 第10回 イントネーション・プロミネンス・ポーズ
- 第11回 中国語の多音多義字
- 第12回 漢字の形声文字とその発音
- 第13回 中国語の方言音と方言区分
- 第14回 中国語の古代音と現代音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 60% レポート作成... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献にもできるだけ多く目をとおして研究の基礎知識を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般音声学についても、一定の理解があることが望ましい。

キーワード /Keywords

中国語音声 ピンインローマ字 声母・韻母 声調

中国語学研究II (語法) 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

当代言語学理論の視点より現代中国語文法の諸分野における主な問題を若干のテーマに分けて、最新研究成果をまとめ、自分の見解を提出した上で修論の研究方向を決める。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 文法研究概説 文法研究の対象 文法研究の方法
2. 構造主義と中国語文法研究
3. 認知文法と中国語文法研究
4. 「配価(結合価)文法」と中国語文法研究
5. 語義特徴分析理論と中国語文法研究
6. 格文法と中国語文法研究
7. 生成文法理論と中国語文法研究
8. 機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
9. 語用論と中国語文法研究
10. これまでの重要な研究(問題別の観点・著作・論文)
 11. 現代中国語文法研究における重要課題
 12. 中国の有名な文法研究者及びその観点と論述
 13. 日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
 14. 海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化演習 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・新劇（話劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇は誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京上野の美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。昨年中国話劇誕生百周年を迎えた。（3）そのときの顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付き作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、後に中国近代演劇の父といわれる曹禺が「雷雨」で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。到達目標は、中国の演劇史に関する知識を養い、中国演劇史の各時期の代表的な動向について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその活動について
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢の中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防文学『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国新劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父曹禺

中国文学演習II (中国古典文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 黄 冬柏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国文学研究II (中国古典文学) で習得した内容を踏まえつつ、小説『三国志演義』を講読する。具体的に、原著小説から「桃園の誓い」・「赤壁の戦い」などの名場面を中心に割り当て、翻訳文や映像資料を参考しながら、決めた担当者の講読、教員の説明、そして受講者全員のディスカッションによって授業を進めていく。

教科書 /Textbooks

『三国志演義』 羅貫中著 人民文学出版社 1990年 (プリントを配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『三国志演義の世界』 金文京著 東方書店 1993年
- 『三国志演義』 羅貫中作・立間祥介訳 平凡社 1972年
- 『三国志演義』 羅貫中著・井波律子訳 筑摩書房 2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国古典小説における『三国志演義』
- 第2回 「桃園の誓い」講読(1) 【『三国志演義』1頁-3頁】
- 第3回 「桃園の誓い」講読(2) 【『三国志演義』4頁-6頁】
- 第4回 「桃園の誓い」講読(3) 【『三国志演義』7頁-10頁】
- 第5回 「官渡の戦い」講読(1) 【『三国志演義』251頁-253頁】
- 第6回 「官渡の戦い」講読(2) 【『三国志演義』254頁-256頁】
- 第7回 「官渡の戦い」講読(3) 【『三国志演義』257頁-260頁】
- 第8回 「赤壁の戦い」講読(1) 【『三国志演義』354頁-357頁】
- 第9回 「赤壁の戦い」講読(2) 【『三国志演義』358頁-361頁】
- 第10回 「赤壁の戦い」講読(3) 【『三国志演義』362頁-365頁】
- 第11回 「赤壁の戦い」講読(4) 【『三国志演義』366頁-370頁】
- 第12回 「秋風五丈原」講読(1) 【『三国志演義』853頁-855頁】
- 第13回 「秋風五丈原」講読(2) 【『三国志演義』856頁-858頁】
- 第14回 「秋風五丈原」講読(3) 【『三国志演義』859頁-862頁】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習への取り組みとレポートによって評価する。
(日常の学習状況と発表 : 60%、レポート : 40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料や参考書の関連部分を熟読して授業に備える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学演習I (音声学) 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のテーマは、中国語語音史について。中国語の発音の変化発展を歴史的に観察しようというもので、時代的には、隋・唐代から現代までの1400年間の中国語音を対象とする。最初に中古音（隋・唐代 - 宋代）の音韻体系の概略を学び、ついで、中古音-近代音（元・明・清代）-現代音という語音の歴史的な対応関係を示し、それに基づいて、中国語音の現代までの変遷過程を、声母・韻母・声調の3部門に分けて考察する。

教科書 /Textbooks

佐藤昭著『中国語語音史-中古音から現代音まで』 白帝社、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王力『漢語史稿』第二章 (pp45 - 208) 中華書局、1996
- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』 商務印書館、1988
- 丁声樹・李栄『漢語音韻講義』 上海教育出版社、1984
- 唐作藩『漢語語音史教程』北京大学出版社、2011

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 中国語語音史研究の資料と文献
- 第3回 中古音・現代音の音韻体系
- 第4回 中古音声母の音価推定
- 第5回 中古音韻母の音価推定
- 第6回 中古音声母 (幫系・端系声母) の音韻変遷
- 第7回 中古音声母 (知系・見系声母) の音韻変遷
- 第8回 中古音陰声韻母の音韻変遷 (韻尾ゼ口・i・uの韻母)
- 第9回 中古音陽声韻母の音韻変遷 (韻尾m・n・ngの韻母)
- 第10回 中古音入声韻母の音韻変遷 (韻尾p・t・kの韻母)
- 第11回 中古音四声調 (平・上・去・入) の音韻変遷
- 第12回 唐詩を現代南方方言音 (広東語・福建語・客家語) で読む
- 第13回 中国語中古音と日本漢字音 (漢音・呉音) との対応関係
- 第14回 中国語中古音と朝鮮漢字音との対応関係
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 60% レポート作成... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国語音を表記する音声記号の使い方と発音法にも習熟してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本人としては、中国語中古音と関係が深い「日本漢字音」についても理解を深めてほしい。

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 日本漢字音

中国語学演習II (語法) 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修論の研究方向に関する文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、修論の展開を試みる。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 德熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語・フレーズ・文 文法関係の一致性
- 第2回 平述文 疑問文 命令文 感嘆文
- 第3回 主述文 非主述文
- 第4回 動詞述語文
- 第5回 形容詞述語文
- 第6回 名詞述語文
- 第7回 連動文
- 第8回 兼語文
- 第9回 “把”構文
- 第10回 二重目的語文
- 第11回 存現文
- 第12回 文の階層性とその分析
- 第13回 文の変換
- 第14回 認知文法の視点より中国語文構造の解釈
- 第15回 系統効能文法のアプローチ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国思想文化研究【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

教科書 /Textbooks

小島祐馬著『中国思想史』 創文社2000年 (必要に応じてコピーして配る)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

胡適著『中国古代哲学史大綱(上)』商務印書館, 1927.1 (必要に応じてコピーして配る)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	序説
2回	中国古代の社会状態
3回	孔子
4回	孟子
5回	子思子
6回	荀子
7回	墨子
8回	農家
9回	老子
10回	莊子
11回	列子・揚子
12回	法家
13回	易・五行
14回	春秋
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・受講態度によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する資料を熟読し講義に備える。
必要に応じて、テキストと参考書を中国語あるいは日本語に訳す。

履修上の注意 /Remarks

中国語あるいは漢文訓読できることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国思想文化演習【夜】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

『中国思想史の流れ』（上、兩漢・六朝） 橋本高勝編 晃洋書房（購入）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説
- 2回 賈誼
- 3回 劉安
- 4回 董仲舒
- 5回 司馬遷
- 6回 揚雄
- 7回 王充
- 8回 王符
- 9回 何休
- 10回 黄老
- 11回 孔融
- 12回 仲長統
- 13回 何晏
- 14回 王弼
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...80% 発表...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回テキストを輪読して、該当思想家の原典を見つけて、重要と思われる節を読んで感想を述べる。

履修上の注意 /Remarks

中国語学力あるいは漢文訓読知識を有するものが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究I (宗教文化) 【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

律令の神祇令に定められた神祇祭祀制度と、その規範となった唐の皇帝祭祀制度と比較しながら、古代日本の神祇信仰の特色について考えていく。

日本の壬子祭祀に関しては『令集解』『延喜式』『儀式』などが主たる資料となり、中国に関しては『唐令拾遺』『同拾遺補』『大唐開元礼』『大唐郊記録』などを利用することになる。

〈到達目標〉

日本宗教文化の特色について知識を深め、資料の読解力や扱い方を身につける。

日本の宗教文化について比較文化の視点から考え、論じられるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本思想大系・律令』(岩波書店)
- 仁井田陞著『唐令拾遺』(東京大学出版会)
- 『訳注日本史料 延喜式・上』(集英社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方について
- 2回 神祇令・神祇式について
- 3回 祠令および中国の皇帝祭祀について
- 4回 テキストの比較講読
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付された資料をもとに読解や比較をして報告してもらうので毎回準備が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

古代の日中の漢文資料を読解することは根気を要する作業であるが、それなしに専門的な知見を得られるものではないと覚悟して臨むこと。

キーワード /Keywords

神祇令、祠令、神祇祭祀、皇帝祭祀

日本文化研究II (表象文化) 【夜】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平安時代の絵巻を詳細に分析して行くことを通して、日本美術史学の考察方法を学習する。12世紀後半に時の権力者・後白河院の命によって制作された「彦火々出見尊絵巻」は、一見一読しただけでは、記紀の神話から派生した説話を絵巻化したもののように思われる。しかし、そのストーリー・画面内容・図像等を詳細に確認して行くと、仏典を源とする仏教説話の流れを汲むことや、法華経絵との共通性、さらには、末法到来を克服するために日本を釈迦在世の地に読み変えようとする思想からの影響等が確認できる。本講義では、そのように、まず作品を隅々まで見つめることから始まる美術史学の考察方法を理解してもらう。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後白河院による絵巻制作
- 2回 「彦火々出見尊絵巻」のストーリーと画面内容①
- 3回 「彦火々出見尊絵巻」のストーリーと画面内容②
- 4回 「彦火々出見尊絵巻」のストーリーと画面内容③
- 5回 研究史概観-「海幸山幸神話」との相違点-
- 6回 研究史概観-後白河院覇権論に基づく解釈-
- 7回 釈迦の前身を主人公とする龍宮訪問譚との共通性①
- 8回 釈迦の前身を主人公とする龍宮訪問譚との共通性②
- 9回 仏画の図像の使用
- 10回 法華経絵(龍女成仏場面)との共通性①
- 11回 法華経絵(龍女成仏場面)との共通性②
- 12回 摩竭魚のいるところ-龍宮の宝蔵-
- 13回 末法辺土を釈迦在世の靈鷲山へ①
- 14回 末法辺土を釈迦在世の靈鷲山へ②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布済みのプリントは毎回必ず持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学研究I (日本文学) 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学について、幕末・明治から現代の文学について概説および講読していく。

学習のポイントは以下の通り。

- ①近現代文学の主要な作家・作品を通して、知識を培い教養を深めること。
- ②時代状況のなかで文学を位置づける歴史的視座を得ること。
- ③近代文体の成立から現代文の達成までを、具体的な表現にそくして理解すること。

教科書 /Textbooks

プリント等を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本の近代文学 / 現代文学 入門
- 第2回 幕末の文学
- 第3回 自由民権運動期の文学
- 第4回 帝国憲法制定期の文学
- 第5回 日清戦争と文学
- 第6回 日露戦争と文学(1)自然主義文学
- 第7回 日露戦争と文学(2)漱石・鷗外
- 第8回 日露戦争と文学(3)耽美派
- 第9回 第一次世界大戦と文学
- 第10回 日中戦争と文学
- 第11回 太平洋戦争と文学
- 第12回 終戦と文学
- 第13回 占領期の文学
- 第14回 高度経済成長と文学
- 第15回 日本文学の現代性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を聞くための事前準備として提示された作品を読んで参加のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では古代日本語（奈良時代～平安時代の日本語）を扱います。多様な角度からの言語観察を通して、ことばや言語現象とそれを支える古代人の思考の論理（物の捉え方や認識方法など）との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。一つ一つのことばの持つ本質的な意義と古代人の思考・思想との関わりや、それぞれの言語現象の持つ時代的意味を考察していきます。物語のストーリーをなぞることに重点を置くのではなく、あくまでもことばや言語現象を通して、古代日本を生きた人々の価値観・認識・認知・思考方法・社会通念などに迫っていくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

小学館『万葉集』日本古典文学全集○
 小学館『万葉集』新編日本古典文学全集○
 小学館『源氏物語』日本古典文学全集○
 小学館『源氏物語』新編日本古典文学全集○

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 日本語の時代区分について 上代から中古にかけての日本語
 第2回 上代～中古の言語資料の性質
 第3回 辞書の果たす役割とその限界
 第4回 注釈書の基礎
 第5回 写本について
 第6回 語学関係の論文を読む(1)
 第7回 語学関係の論文を読む(2)
 第8回 語学関係の論文を読む(3)
 第9回 語義関係の論文を読む(1)
 第10回 語義関係の論文を読む(2)
 第11回 語義関係の論文を読む(3)
 第12回 文化関係の論文を読む(1)
 第13回 文化関係の論文を読む(2)
 第14回 発表
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なお、受講者の発表をもとに講義を展開していく回もありますので、発表に際してはある程度の準備時間が必要となることを承知しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「比較文学研究」では「○○文学と△△文学の比較」といったことは行わない。イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学といった縦割り式の文学ではなく、すべての文学に関わる現代文学理論、文学に関わる思想について学ぶ。今回は、現代文学、文学研究のあらゆる分野に影響を与えたミシェル・フーコーの方法論を『知の考古学』をテキストとして学ぶ。

教科書 /Textbooks

ミシェル・フーコー『知の考古学』（河出文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示するが、『知の考古学』のベースとなっている『狂気の歴史』『臨床医学の誕生』『言葉と物』をもっとも重要な参考書として挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション フーコーと現代文学理論（文学における、知と権力の問題）
- 第2回 言説の規則性（言説の統一性、言語形成）
- 第3回 言説の規則性（対象の形成、言表様態の形成）
- 第4回 言説の規則性（概念の形成、戦略の形成）
- 第5回 言説の規則性（注記と帰結）
- 第6回 言表とアルシーク（言表を定義すること）
- 第7回 言表とアルシーク（言表機能）
- 第8回 言表とアルシーク（言表の記述）
- 第7回 稀少性、外在性、累積
- 第8回 歴史的アリアリとアルシーク
- 第9回 考古学的記述（考古学と思想史）
- 第10回 考古学的記述（独創的なものと規則的なもの）
- 第11回 考古学的記述（矛盾）
- 第12回 考古学的記述（比較にもとづく事実）
- 第13回 考古学的記述（変化と変換）
- 第14回 考古学的記述（科学と知）
- 第15回 結論

成績評価の方法 /Assessment Method

平素、課題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回課せられるテキストを十分に読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較言語研究 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生成文法の『原理とパラメター』の理論的枠組みの中で、言語間の違いがどのようにして分析されてきたかを概観する。また、受講生の興味に応じて、様々な言語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方
第2回 - 第4回 生成文法の概説
第5回 - 第7回 句構造理論
第8回 - 第10回 移動規則
第11回 - 第15回 世界の諸言語の分析

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化演習I (宗教文化) 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

「光定の『伝述一心戒文』を読む」

日本天台宗の祖である最澄の弟子・光定の作である本書は、最澄とその門弟らの動向を詳しく知ることができる資料である。最澄の伝記『叡山大師伝』や最澄の著作・関連資料と比較しながら読解することにより、最澄の行動・思想や日本天台宗草創期の教団の動向について多くの情報を得ることができる。

本書の講読を通じて平安仏教のあり方について考えていきたい。

受講者には毎回テキストの指定された部分をあらかじめ読解してその内容を報告してもらう。

〈到達目標〉

日本宗教史を学ぶにあたっては、その基礎資料となる文献の読解力の修得が絶対に必要な条件である。この授業では研究に必要な文献読解力を身につけ、あわせて日本仏教への理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『伝教大師全集』（世界聖典刊行協会）

※必要部分をコピーする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田村晃祐『最澄』（吉川弘文館）

○『日本思想大系 最澄』（岩波書店）

『日本名僧論集 最澄』（吉川弘文館）

○大久保良峻編『日本の名僧 山家の大師最澄』（吉川弘文館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ガイダンス。

2 最澄と天台宗についての概説。

3 『伝述一心戒文』の読み方について。

4～15 『伝述一心戒文』の講読。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献と関連資料を熟読し、不明な語彙は完璧に調べ上げること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

天台本覚思想

日本文化演習II (表象文化) 【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1993年から継続して出版されている『絵は語る』シリーズ(平凡社)は、それぞれ一冊で一作品を取り上げ、様々な角度からの考察を行い、作品の深部まで徹底的に読み解くことが目指されたものである。本演習では、このシリーズを読み込むことを通して美術史的研究方法の習得を目指したい。具体的には、一章ずつ担当者を決めて、掲載史料の理解を助ける資料や、掲載挿図よりも見やすいカラ・図版等を探して来て、それらを用いながら、内容をよりわかりやすくまとめて紹介してもらう。受講人数が少ない場合には、何度も担当してもらうことが予想される。今年度は、『絵は語る 10 彦根屏風』と『絵は語る 9 松島図屏風』を取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

上記二冊をコピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の確認
- 2回 発表準備と進展状況の確認
- 3回 発表とディスカッション
- 4回 発表とディスカッション
- 5回 発表とディスカッション
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 発表とディスカッション
- 14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% 授業への参加態度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。
発表者以外の者も、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学演習I (日本文学) 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学について、なかでも近代文学の小説作法・思想等について実際に小説を読み解くことにより学ぶものとする。毎時間ごとに発表担当者をきめ、作品の語釈・解釈をレジюмеで提示してもらい、それをもとに参加者全員で議論を行う。時代状況との関係といった歴史的観点からも作品にアプローチできるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

「戦後短篇小説再発見」(講談社学芸文庫)
全18巻のうち、1冊を使用(授業初回時に指示する)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 各種、日本文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主に戦後の文学(主に短編小説) を考える。作品の語釈・解釈を通じて、戦後文学の表現・思想について考察していくことを目的とする。

第1回 テキストの指示・授業概要説明
第2回 模範演習
第3回～15回 受講者による演習発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業における発言等の意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学演習 【夜】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では平安時代中期に成立した『源氏物語』を扱います。多様な角度からの言語観察を通して、ことばや言語現象とそれを支える古代人の思考の論理（物の捉え方や認識方法など）との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。物語のストーリーをなぞることに重点を置くのではなく、あくまでもことばや言語現象を通して、古代日本を生きた人々の価値観・認識・認知・思考方法・社会通念などに迫っていくことを目的とします。受講者はそれぞれ物語中に使用される興味ある語や言語現象を定め、先行研究を踏まえながら実際の用例の分析・考察を行ないます。各人の発表をもとに受講者全員で討議を行いながら、中古日本語に対する理解を深めるとともに、古代を生きた人々の思考の論理に迫ってゆきます。

教科書 /Textbooks

小学館『源氏物語』日本古典文学全集○
小学館『源氏物語』新編日本古典文学全集○

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎良幸著『源氏物語における語義の研究』風間書房○
山崎良幸著『あはれもものあはれの研究』風間書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語義研究・文法研究とその意義
- 第2回 底本と索引 先行研究を踏まえる意義
- 第3回 語義関係の論文を読む(1)
- 第4回 語義関係の論文を読む(2)
- 第5回 語義関係の論文を読む(3)
- 第6回 語義関係の論文を読む(4)
- 第7回 文法関係の論文を読む(1)
- 第8回 文法関係の論文を読む(2)
- 第9回 文法関係の論文を読む(3)
- 第10回 文法関係の論文を読む(4)
- 第11回 各人発表(1)
- 第12回 各人発表(2)
- 第13回 各人発表(3)
- 第14回 各人発表(4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語義・文法の研究方法とその意義については、「日本語学研究」のなかでも扱うので、これを履修していると、理解がより深いものになります。なお、受講者の発表をもとに講義を展開していきますので、十分な準備時間が必要となることを承知しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学演習 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「比較文学研究」では「○○文学と△△文学の比較」といったことは行わない。イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学といった縦割り式の文学ではなく、すべての文学に関わる現代文学理論、文学に関わる思想について学ぶ。今回は、現代文学、文学研究のあらゆる分野に影響を与えたミシェル・フーコーの『性の歴史I / 知への意志』をテキストとしてフーコーの知の考古学を学ぶ。

教科書 /Textbooks

ミシェル・フーコー『性の歴史I / 知への意志』（新潮社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フーコー『快楽の活用』（新潮社）、フーコー『自己の配慮』（新潮社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 我らヴィクトリア朝の人間
- 第3回 抑圧の仮説（言説の煽動）
- 第4回 抑圧の仮説（倒錯の確率）
- 第5回 性の科学（告白の重要性）
- 第6回 性の科学（性的欲望、セクシュアリテの出現）
- 第7回 性の科学（問題の再設定）
- 第8回 性的欲望の装置（目的）
- 第9回 性的欲望の装置（方法）
- 第10回 性的欲望の装置（領域）
- 第11回 性的欲望の装置（時代区分）
- 第12回 死に対する権利と生に対する権力
- 第13回 総括
- 第14回 雑談的追記
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素、課題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回課せられるテキストを十分に読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較言語演習 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の「比較言語研究」で取り上げた言語分析の手法を用いながら、様々な言語現象を分析する。到達目標は以下の通りである。

- (1) 受講生は、各自が興味ある言語現象を選び、文献研究やインフォーマント・ワークによる調査などを通して、各自の研究を進めていく。
- (2) 研究成果を論文としてまとめる技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 - 第4回 受講生による研究テーマの発表
- 第5回 - 第11回 関連文献の講読
- 第12回 - 第14回 受講生による研究発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究I (認知言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
1学期
授業形態 /Class Format
講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コース紹介
- 第2回 『美学』 (アリストテレス)
- 第3回 『詩学』 (アリストテレス)
- 第4回 『論語』 (孔子)
- 第5回 「山上の説教」 (イエス)
- 第6回 『万葉集』
- 第7回 「方丈記」
- 第8回 シェイクスピア (「ソネット」)
- 第9回 ジョン・ダン
- 第10回 小林一茶
- 第11回 アメリカの「独立宣言」
- 第12回 ニーチェ
- 第13回 キップリング
- 第14回 M.L.キング
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 50% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

metaphor

比較文化研究II (日米文化比較) 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan
- 4 回~ 5 回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States
- 6 回~ 7 回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I
- 8 回~ 9 回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II
- 10 回~ 11 回 Value Patterns in the United States and Japan
- 12 回 Review
- 13 回~ 15 回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials from this course

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 40% Final 2000 word paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化演習I (認知言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
2学期
授業形態 /Class Format
演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

当演習においては、文学における隠喩を科学的に追求しようとしています。文学作品を分析するのみならず、アンケート、コンピューター上の実験などについて勉強し、実際にアンケートを行なってから、SPSSによるデータの分析を行なう。文学、メタファー、そして統計学について楽しく勉強する演習である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学における【メタファー】とは
- 第2回 文学に登場する隠喩研究の難点
- 第3回 文学作品の【認知言語学】的な分析の実践
- 第4回 アンケート調査について
- 第5回 実験について
- 第6回 統計学について
- 第7回 文学作品の分析
- 第8回 文学作品の分析
- 第9回 文学作品の分析
- 第10回 文学作品の分析
- 第11回 学生による発表
- 第12回 学生による発表
- 第13回 学生による発表
- 第14回 今後の課題について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：30% 課題：20% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目のために、文学作品を読んだ上で、分析をしなければ、ディスカッションに十分に参加することができません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メタファー、認知言語学、統計学

比較文化演習II (日米文化比較) 【夜】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
2学期
授業形態 /Class Format
演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Japanese Communication Patterns
- 4 回~ 6 回 North American Communication Patterns
- 7 回~ 8 回 Interactions: Interpretations of foreign scholars from the Meiji Period
- 9 回~ 1 1 回 Interactions: Interpretations of contemporary scholars
- 1 2 回 Review
- 1 3 回~ 1 5 回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials from this course

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 40% Final 2000 word paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア海域史研究 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

17～19世紀の前近代東アジア国家に共通する特質である海禁政策について、わが国における幕藩制国家における鎖国制を取り上げ、オランダ東インド会社をはじめとするヨーロッパ人および唐船（ジャンク船）貿易の活動の拠点としての長崎の港市としての機能、砂糖の輸入と流通、思想・学問の受容の書誌学的研究などを行う。
前半は研究史の説明を行い、後半はそれらについて個々の史料の講読を行う予定である。

教科書 /Textbooks

石田千尋『日蘭貿易の史的研究』（吉川弘文館2004）石田千尋『日蘭貿易の史的研究展開』（吉川弘文館2009）のコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○中村質『近世長崎貿易史の研究』（吉川弘文館1985）太田勝也『鎖国時代長崎貿易史の研究』（思文閣出版1992）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 長崎貿易研究史①
- 3回 長崎貿易研究史②
- 4回 出島オランダ貿易研究史①
- 5回 出島オランダ貿易研究史②
- 6回 蘭学研究史①
- 7回 蘭学研究史②
- 8回 文献コピー講読
- 9回 文献コピー講読
- 10回 文献コピー講読
- 11回 文献コピー講読
- 12回 文献コピー講読
- 13回 文献コピー講読
- 14回 文献コピー講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

下読みしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。さらに、東アジア諸国の経済問題と経済統合問題など取り上げ、現実の東アジア経済に対する理解を深める。

到達目標は以下の通りである。

- ① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
- ② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
- ③ 東アジア諸国、特に日中韓三カ国の相互依存関係を理解できる。

教科書 /Textbooks

中西訓嗣・広瀬憲三・川井一宏著『国際経済理論』（有斐閣ブックス）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）
伊藤元重・大山道広著『国際貿易』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカードモデルI【比較優位】【貿易パターン】
- 3回 リカードモデルII【2国多財モデル】【相対賃金】【技術進歩】
- 4回 特殊要素モデルI【特殊要素】【生産構造】
- 5回 特殊要素モデルII【比較静学】
- 6回 ヘクシャー・オリーンモデルI【ヘクシャー・オリーン定理】【要素価格均等化定理】
- 7回 ヘクシャー・オリーンモデルII【ストルパー・サムエルソン定理】【リプチンスキー定理】
- 8回 貿易均衡【交易条件】【オファー・カーブ】
- 9回 貿易政策論の基礎I【小国】【ラーナーの対称性定理】
- 10回 貿易政策論の基礎II【大国】【関税と数量規制政策の同値性】
- 11回 海外直接投資I【国際資本移動】【マクドゥーガル分析】
- 12回 海外直接投資II【多国籍企業】【取引コスト】
- 13回 東アジア経済発展【幼稚産業保護論】【工業化戦略】
- 14回 東アジア経済統合【統合の経済効果】【相互依存】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出(回数) 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合

東アジア国際政治研究【夜】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ この授業では、北東アジアの国際関係、特に安全保障問題について理解を深めることをねらいとする。
 - ・ 具体的な事例としては、冷戦後の東アジアにおける最大の安全保障問題の一つである北朝鮮の核兵器・弾道ミサイル開発問題に焦点を当て、この問題の背景、並びに、関係国、特に当事者である北朝鮮、そして、日米中韓露の対応とその問題点を検討する。
 - ・ それを通じて、北東アジアの国際政治についての理解を深める。
- 到達目標は以下の通り。
- ・ 北朝鮮の核兵器・弾道ミサイル開発問題について専門的な知識を得る。
 - ・ 北東アジアの国際政治の動態について専門的な知識を得る。
 - ・ 安全保障問題の分析方法を習得する。

教科書 /Textbooks

随時、文献を指定。英語文献を多数読む予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
 ○吉田康彦、進藤榮一編『動き出した朝鮮半島』日本評論社、2000年
 Tae-Hwan Kwak and Seung-Ho Joo, eds, North Korea's Foreign Policy under Kim Jong Il (Hampshire, UK: Ashgate Publishing, 2009)
 その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 教官が指定した文献を読んだ上で、その文献について批判的な検討を行う。その一方で、北東アジアの国際政治に関する主題で、論文(2.5万字程度)を作成し、学期末に提出してもらう。

- | | |
|---------|------------------------------|
| 1回 | 授業内容の説明など |
| 2回～3回 | 論文構成の作成 |
| 4回～8回 | 北朝鮮の大量破壊兵器開発と関係国の対応(2002年以前) |
| 9回～13回 | 北朝鮮の大量破壊兵器開発と関係国の対応(2002年以降) |
| 14回～15回 | 論文発表 |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題文献に関する質疑応答など...60%、論文...40%
- ・ その他、詳細については第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ この授業で読む文献を理解するには、北朝鮮の核兵器、弾道ミサイル開発問題の基礎的な専門知識が必要となるので、知識が不足している学生は、学部開講科目の「韓国・北朝鮮の政治外交II」を聴講した上で履修すること。
- ・ また、参考文献欄の最初の2冊を読んだ上で履修すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国政治研究【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の現代史を踏まえて、①中華人民共和国の成立過程、②中国の政治体制と課題について検討し、理解を深めることを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

Kenneth Lieberthal, Governing China: From Revolution through Reform, 2nd edition, W.W.Norton & Company, 2004.
天児慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。
- 毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	イントロダクション
2回	『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動』はじめに・1章
3回	” 2・3章
4回	” 4・5章
5回	” 6・7章
6回	” 8・9章
7回	Governing China Chap.1
8回	” Chap.2
9回	” Chap.3
10回	” Chap.4
11回	” Chap.5~6
12回	” Chap.7~8
13回	” Chap.9~10
14回	” Chap.11~12
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % 課題提出物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

履修上の注意 /Remarks

中国の近現代史についての基礎知識を習得していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代韓国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

教科書 /Textbooks

趙淳(深川博史監訳/藤川昇悟訳)『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「開発5カ年計画：概観」(1)
- 第4回 「開発5カ年計画：概観」(1)
- 第5回 「産業組織」(1)
- 第6回 「産業組織」(2)
- 第7回 「労働」(1)
- 第8回 「労働」(2)
- 第9回 「金融制度」(1)
- 第10回 「金融制度」(2)
- 第11回 「対外貿易」(1)
- 第12回 「対外貿易」(2)
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在韓国経済演習を履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代日本政治外交史研究【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書、とりわけ、政軍関係論に関するものを読み進めていきます。毎回分担範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定しますが、森靖夫『日本陸軍と日中戦争への道』（ミネルヴァ書房、6825円）、黒沢文貴・小林道彦編著『日本政治史のなかの陸海軍』（ミネルヴァ書房、定価未定）、中西寛・小林道彦共編著『歴史の桎梏を越えて』（千倉書房、5775円）などを予定しております。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編・刊『日本外交文書並主要文書』上・下巻（原書房、1965年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～8回 『日本陸軍と日中戦争への道』の輪読（適宜『歴史の桎梏を越えて』も読んでいきます）
- 9～14回 『日本政治史のなかの陸海軍』の輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前期に3冊読破するというスケジュールはややハードですが、がんばって参りましょう。

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究I (ミャンマー) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミャンマーの現代政治について、地域研究的観点から分析し、その特質についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
 第2回～第5回：ミャンマー現代史概説
 第6回～第10回：ミャンマー現代政治の特質
 第11回～第14回：ミャンマー現代政治の論点
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究II (マレーシア・ シンガポール) 【夜】

東アジア専攻

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ(華僑、華人問題)、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
 ○岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
 ○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
 ○Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
 * 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
 ○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
 * 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
 ○清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
 第2～5回 『アジア政治とは何か』を4回に分けて輪読、議論する
 第6～9回 『東南アジア諸国の国民統合と教育』を4回に分けて輪読、議論する
 第10～13回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasを4回に分けて輪読、議論する
 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 40% 授業参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことがない場合は、学部の「教養科目 東南アジアを知ろう!」や「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

国際機構研究 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代国際関係における国際機構の政策、法および実践を多面的に研究する。とくに着眼する機構については、下記「授業計画・内容」を参照されたい。

教科書 /Textbooks

Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, Cambridge University Press, 2011.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第1回 はじめに
- 第2回 教科書講読第1章【国際機構研究への導入】
- 第3回 教科書講読第2章【国際機構概説】
- 第4回 教科書講読第3章【世界貿易機関 (WTO)】
- 第5回 教科書講読第4章【国際通貨基金 (IMF)】【世界銀行】
- 第6回 教科書講読第5章【国際連合の法と行政】
- 第7回 教科書講読第6章【国際連合による国際平和および安全】
- 第8回 中間総括
- 第9回 教科書講読第7章【国際労働機関 (ILO)】
- 第10回 教科書講読第8章【国際司法裁判所 (ICJ)】
- 第11回 教科書講読第9章【国際刑事裁判所 (ICC)】
- 第12回 教科書講読第10章【地域機構】【EU】【AU】【ASEAN】
- 第13回 教科書講読第11章【教科書結論】
- 第14回 教科書総括
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況... 50% 研究報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記「授業計画・内容」に挙がっている各種の国際機構について文献を事前に講読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係論研究【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行い、地域が持つ文化の特性を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
 David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
 David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
 Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
 11. ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
 12. ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
 13. その他のグループ間関係
 14. 21世紀のアメリカの人種関係
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。
 授業中の発言・報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回の授業以前に担当教員(北美幸)の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト(読んでおくべき文献のリスト)も配布する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史研究【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

南北戦争後から20世紀前半のアメリカ合衆国の歴史・社会に関する講義・文献講読を通じて、各時代の主要なテーマを考える。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 再建期と金びか時代：政治再編
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

リーディング・リストの文献を、積極的に読むことを薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

南欧地域研究 【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史のなかで19世紀は「ヨーロッパの世紀」と言われます。19世紀末以来、南欧地域は依然として農村的で、経済的「停滞」や「後進性」というイメージがつきまといます。講義では、南スペインを代表するアンダルシアに焦点を絞り、比較史の視点から、近現代のアンダルシア地域論を近年の研究成果を踏まえて再考します。

テーマはやや特殊ですが、同じラテン系の国々、イタリア・フランスの近代との比較検討ができるレベルを目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関哲行他編『スペイン史 2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年
- 立石博高・塩見千加子編『アンダルシアを知るための53章』明石書店、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「長い19世紀」ヨーロッパと南欧世界
- 2回 イスパニストたちによる研究
- 3回 スペイン近代【挫折史観】をめぐって
- 4回 工業化のなかのアンダルシア【地域的不均衡発展】
- 5回 アンダルシア農村社会【カシキスモ】【ラティフンディオ】
- 6回 アンダルシア社会の近代の変容
- 7回 外部で創られるアンダルシア・イメージ
- 8回 内からの地域アイデンティティの模索
- 9回 19世紀末のスペインと地域主義
- 10回 アンダルシア【地域主義】
- 11回 地域主義者プラス・インファンテの思想
- 12回 フランコ体制下のアンダルシアの社会変容
- 13回 20世紀70年代のアンダルシア論
- 14回 今日のアンダルシアの状況
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、50点。報告、50点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上に挙げた参考文献は読むこと。専門用語は辞典でしっかり押さえる。
質疑応答の時間を活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア地域研究【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソ連時代の民族政策・言語政策・教育政策、ポスト・ソビエト諸国が抱える言語問題について理解を深めることを目的とする。到達目標は、世界における言語問題について理解し、言語と社会の関係について説明できるようになることです。

教科書 /Textbooks

塩川伸明『民族と言語-多民族国家ソ連の興亡(1)』岩波書店、2004年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中井和夫『ソヴィエト民族政策史』御茶の水書房、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族・エスニシテイ・言語問題への視点
- 2回 ソ連の民族・エスニシテイ問題：ロシア帝国の構造と特徴
- 3回 ソヴェト政権の民族政策：初期の民族政策
- 4回 スターリン時代の民族政策
- 5回 ポスト・スターリン時代の民族政策
- 6回 ベレストロイカからソ連解体へ①
- 7回 ベレストロイカからソ連解体へ②
- 8回 ソ連解体後への展望
- 9回 ソ連言語政策史再考：帝政末期からポスト・スターリン時代
- 10回 ソヴェト体制末期における言語状況：類型化①
- 11回 ソヴェト体制末期における言語状況：類型化②
- 12回 ベレストロイカ期の言語法問題①
- 13回 ベレストロイカ期の言語法問題②
- 14回 ソ連解体後への展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献に挙げている書を読み、重要事項を事典等で調べて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア海域史演習 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

17～19世紀の前近代東アジア国家に共通する特質である海禁政策について、わが国における幕藩制国家における鎖国制を取り上げ、オランダ東インド会社をはじめとするヨーロッパ人および唐船（ジャンク船）貿易の活動の拠点としての長崎の港市としての機能、砂糖の輸入と流通、思想・学問の受容などのくずし史料を分担して解説する。

教科書 /Textbooks

長崎貿易・蘭学に関するくずし史料のコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

児玉幸多監修『くずし字解説字典』普及版（東京堂出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 史料講読①
- 3回 史料講読②
- 4回 史料講読③
- 5回 史料講読④
- 6回 史料講読⑤
- 7回 史料講読⑥
- 8回 史料講読⑦
- 9回 史料講読⑧
- 10回 史料講読⑨
- 11回 史料講読⑩
- 12回 史料講読⑪
- 13回 史料講読⑫
- 14回 史料講読⑬
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

下読みしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済演習【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、不完全競争市場構造のもとで、貿易政策の経済分析を学習する。その分析ツールを用いて、東アジア経済の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 東アジアの貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』 (MIT Press)
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』 (東洋経済新報社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』 (東京大学出版社)
柳川範之著『戦略的貿易政策』 (有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 東アジア各国の貿易政策調査発表I
- 14回 東アジア各国の貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出・発表 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

貿易政策、完全競争、市場支配

東アジア国際政治演習【夜】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

・ 1学期開講の「東アジア国際政治研究」で学んだ事柄を基礎として、現代東アジアの国際政治（特に安全保障問題）に関する研究を学生各自が行い、現代東アジアの国際政治についての理解を深め、定期的に研究発表を行う一方で、論文を執筆する。

・ 教員や他の学生による評価を通じて説得力ある議論を展開する力を養う。

到達目標は以下の通り。

- ・ 研究対象についての専門的な知識を身につける。
- ・ 国際政治問題を分析する能力を高める。
- ・ 論理的で説得力ある文章を作成する能力を高める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Tae-Hwan Kwak and Seung-Ho Joo, eds, North Korea's Foreign Policy under Kim Jong Il (Hampshire, UK: Ashgate Publishing, 2009)

- 菅英輝編著『朝鮮半島：危機から平和構築へ』社会評論社、2004年
 - 平間洋一、杉田米行編著『北朝鮮をめぐる北東アジアの国際関係と日本』明石書店、2003年
 - 江畑謙介『日本の安全保障』講談社、1997年
- その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究テーマと具体的な問の設定及びそれらの発表、序章の作成及びその発表、研究内容に関する発表、論文の第一稿の作成と発表、最終稿の提出を順次行っていく。論文は3万字程度とする。

- 1回 授業内容の説明など
- 2回～4回 論文構成の作成、発表、改訂
- 5回～13回 発表
- 14回～15回 最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 質疑応答など...20%、発表...20%、論文...60%
- ・ その他、詳細については第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「東アジア国際政治研究」を履修し終えていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国政治演習【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国政治研究で習得した知識を基に、最近の研究動向にも注目しながら中国が抱える政治社会問題および外交関係について検討し、問題発生のメカニズムと要因について理解を深める。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションで指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2～14回 文献講読と担当者による報告、全員での討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % 課題提出物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめ課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを活用して理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

現代中国政治研究を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代韓国経済演習【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的な問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、なにをもたらしたかを明らかにする。

教科書 /Textbooks

尹明憲『韓国経済の発展パラダイムの転換』、明石書店、近刊予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 「韓国の経済発展の概観」(1)
- 第2回 「韓国の経済発展の概観」(2)
- 第3回 「IMF危機で露出した韓国産業経済の構造的な問題点」
- 第4回 「成長至上の国土・地域政策」
- 第5回 「経済発展における技術の役割」(1)
- 第6回 「経済発展における技術の役割」(2)
- 第7回 「韓国のナショナル・イノベーション・システム」(1)
- 第8回 「韓国のナショナル・イノベーション・システム」(2)
- 第9回 「技術政策における変化」(1)
- 第10回 「IMF危機後の国土・地域政策におけるイノベーション志向」
- 第11回 「地方における革新クラスター形成の摸索」
- 第12回 「韓国の対外経済政策及び国際経済関係の変容」
- 第13回 「地方主導での経済交流の展開」
- 第14回 「環黄海地域における技術連携の可能性」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在韓国経済研究を履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代日本政治外交史演習【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史研究の基本的スキルである文語体の文章の読解力を涵養し、あわせて崩し字（草書体）書簡の解読能力をを身につける。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定しますが、活字本としては『木戸孝允日記』『木戸孝允関係文書』（ともに東京大学出版会）などを予定しております。崩し字のテキスト（写真版コピー）はこちらで用意いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～9回 活字本の解読
10～15回 崩し字の解読。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文語体の文章や候文をなるべく沢山読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域演習I (ミャンマー) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域研究のあり方に関する基本文献を輪読し、地域研究とは何かについて考えて見る。その上で、ミャンマーに関する研究を概観しながら、地域研究的視点から見たミャンマー研究の現状を把握する。

教科書 /Textbooks

随時指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション。
第2回～第14回：テキストを輪読していく。
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域演習II (マレーシア・ シンガポール) 【夜】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域研究IIに続いて、戦後東南アジアの国際関係、政治、外交、エスニック問題などについての英語および日本語文献を輪読し、受講生が主体となって報告・討論する。受講生が多い場合はグループ学習や報告を行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や学問的素養を養う】。また、課題レポートを科して、添削、返却をする。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることがきるよう指導する。

教科書 /Textbooks

- 受講者と相談の上で決定するが、以下を候補として考えている：
- Southeast Asian Affairs 2011 (シンガポール東南アジア研究所が毎年出版している年報) から、受講者のテーマに関係する論文や記事を読む。
 - Rodolfo C. Severino, Southeast Asia in Search of an ASEAN Community, ISEAS, 2006
 - 玉田芳史・木村幹編『民主化とナショナリズムの現地点』ミネルヴァ書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田辰雄・渡辺利夫監修『講座現代アジア全4巻』東京大学出版会、1994年
『ナショナリズムと国民国家』『近代化と構造変動』『民主化と経済発展』『地域システムと国際関係』の4巻がある

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～5回 Southeast Asian Affairs 2010から論文を選択して、輪読、議論
- 第6～9回 Southeast Asia in Search of an ASEAN Communityを4回に分けて輪読、議論
- 第10～13回 『民主化とナショナリズムの現地点』を4回に分けて輪読、議論
- 第14回 これまでの議論を踏まえて各人が作成したレポートを報告、議論する
- 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 40% 授業参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集してしっかり熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、国際関係、国民国家、地域統合、ASEAN、中間層、民主化

国際機構演習 【夜】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、その目的、制度、機能、課題等を研究する。

教科書 /Textbooks

Clive Archer, International Organizations : Third Edition, Routledge, 2001.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。

- 1回 はじめに
- 2回 - 3回 テキスト第1章【国際機構の定義】【国際機構の歴史】
- 4回 - 5回 テキスト第2章【国際機構の類型】
- 6回 - 8回 テキスト第3章【国際機構の役割と機能】
- 9回 - 12回 テキスト第4章【国際機構に関する文献】
- 13回 - 14回 テキスト第5章【国際機構の展望】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加の状況... 50% 報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係論演習【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行い、地域が持つ文化の特性を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, *The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture*, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
 Marc Dollinger, *Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America*, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
 Matthew Frye Jacobson, *Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race*, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
 Murray Friedman, *What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance*, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
 11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
 12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
 13. その他のグループ間関係
 14. 21世紀のアメリカの人種関係
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。
 授業中の発言・報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回の授業以前に担当教員(北美幸)の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト(読んでおくべき文献のリスト)も配布する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史演習 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1890年代以降のアメリカ合衆国の歴史に関する代表的な論文を読み、それを通じて各時代の主要なテーマを考える。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
- 3回 都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
- 4回 都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
- 5回 労働争議の時代：ブルマン・ストライキと労働問題
- 6回 労働争議の時代：労働組合と労働問題
- 7回 労働争議の時代：フォーティズムと労働問題
- 8回 大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
- 9回 大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
- 10回 大恐慌の時代：不況と政治
- 11回 大恐慌の時代：不況と家族・家庭
- 12回 大恐慌の時代：不況と労働運動
- 13回 冷戦の時代：冷戦と反共主義
- 14回 冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

リーディング・リストの参考文献を、積極的に読むことを薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

南欧地域演習 【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

南欧に特徴的な居住空間であるアグロタウン（とくに地中海ヨーロッパに典型的な準農村都市）に焦点を当て、共同体論からソシアビリティに関する論文を解説しながら、人々の日常性を持続と変容の諸相で観察し、近現代の南欧の文化と社会を読み解きたいと思います。

アグロタウンで織りなされる人間関係とそこに見られる思考を学び、人間関係が希薄化する、われわれの今日的状況との違い、あるいは共通する側面を議論できるようにしたい、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ビット・リバース『シエラの人々』
Corbin, J.R., The anarchist Passion, Aldershot, 1993.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペインの民族学者による共同体研究の動向
- 2回 人類学者コービンについて
- 3回 テキスト「序論」
- 4回 アンダルシアの「ブエプロ」について
- 5回 アグロタウンとは？
- 6回 コービンの基礎構造について
- 7回 基礎構造（文化）
- 8回 基礎構造（コミュニティー）
- 9回 基礎構造（社会）
- 10回 緊急構造（階級闘争）
- 11回 コービンの評価について
- 12回 アンダルシア社会の変容
- 13回 南イタリアとの比較（地中海民族学の視点から）
- 14回 最近のアグロタウン研究の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献に挙げた日本語文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア地域演習【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多言語社会が抱える課題（言語政策、バイリンガル教育、言語権、言語法、異民族間婚姻など）について認識を深めることを目的とする。到達目標は、世界における言語問題について理解し、言語と社会の関係について説明できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリント配布（多言語主義、旧ソ連の言語政策、EU言語憲章、多言語教育に関する文献から選択予定）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店
田中克彦『言語から見た民族と国家』岩波書店
塩川伸明『民族と言語』岩波書店
東照二『バイリンガリズム』講談社新書
「ことばを訪ねて」朝日新聞、2011年11 - 12月8回分

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方と輪読テキストの選択
- 2回 要約発表の方法とルール、レジユメの書き方について、社会言語学重要用語解説
- 3回 - 6回 テキストの輪読と要約発表
- 7回 - 8回 クレオールに関するビデオ資料鑑賞：内容についての討論
- 9回 非母語で作家活動をする人物についての議論
- 10回-13回 テキストの輪読と要約発表
- 14回-15回 基本概念についてのまとめ：多言語主義、言語権、第一言語と母語など

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言語政策、EUの多言語主義、バイリンガルなど社会言語学関係の書物を複数冊読んで授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア近現代史研究【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジア島嶼部における近代から現代への移行を、国家のあり方の変遷に注目してとらえる。それによって、様々な事象が国民国家によって規定される今日の社会のあり方をとらえる視点を養う。具体的には、18世紀末から20世紀半ばにかけて展開した港市国家、植民地国家の形成・発展、人の大量越境、脱植民地化と国民国家形成などを扱う。受講者による基本文献の輪読と報告・討論を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
Butcher, John G. and Howard Dick. Eds. 1993. The Rise and Fall of Revenue Farming : Business Elites and the Emergence of the Modern State in Southeast Asia, St. Martin's Press, New York.
Eric Tagliacozzo, Secret Trades, Porous Borders: Smuggling and States Along a Southeast Asian Frontier, 1865-1915 , Yale University Press, New Haven, 2005.
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
Ariffin Omar, Bangsa Melayu: Malay Concept of Democracy and Community 1945-1950, Oxford University Press, Kuala Lumpur, 1993.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回～3回 交易の時代と東南アジアにおける港市国家の発展
- 4回～6回 植民地国家の形成(1)：植民地財政と徴税請負制
- 7回～8回 植民地国家の形成(2)：国境線の画定
- 9回～11回 アジア間貿易の形成
- 12回～13回 脱植民地化と主権の移行：伝統的統治者の行方
- 14回 現代におけるインプリケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的にテキストに沿って進める。テキストの該当箇所を授業の前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

東南アジアについて基本的な知識がない受講者は、東南アジア研究概論およびアジア地域統合論を受講のうえ本科目を受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア近現代史演習【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東南アジア島嶼部の近現代史に関する文献を取り上げ、輪読する。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に基づいて決定する。英語の文献を扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回～14回 テキスト輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者以外も、文献を精読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

東南アジアに関する基本的な知識がない受講者は、東南アジア研究概論およびアジア地域統合論を受講のうえ本科目を受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代英文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日エコクリティストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソローや、"inhumanism"を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty (必要な箇所のコピーは準備します。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・80%
毎回の授業への参加度など・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

この講義で学ぶエコクリティシズム批評の方法論を身につけた方は、次に、その方法論をベースにした実践ともいえるべき「現代英文学演習」を受けると、より効果的です。

現代英文学研究【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「エコクリティシズム」「ロレンス」「ワーズワス」「ソロー」「ジェファーズ」

英語表現法I 【夜】

担当者名
/Instructor

クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
 Lesson 2: The origins & development of the English language
 Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
 Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
 Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
 Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
 Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
 Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
 Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
 Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
 Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
 Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
 Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
 Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
 Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法II 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Greek roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or science. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks
 Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.
 Part 2: Word Elements from Latin (pp. 157- end)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary
 Lesson 2: The origins & development of the English language
 Lesson 3: Words from mythology, history and philosophy (Homework: Ayer 1-2)
 Lesson 4: Greek Bases (Homework: Ayer 3)
 Lesson 5: Prefixes: Typical combinations & homonyms (Homework: Ayer 4-5)
 Lesson 6: Prefixes: Reduplication & onomatopoeia (Homework: Ayer 6)
 Lesson 7: Review #1 (units 1-6)
 Lesson 8: Loan words and word analysis (Homework: Ayer 7-8)
 Lesson 9: Place names and expressions (Homework: Ayer 9-10)
 Lesson 10: Vocabulary from religious sources (Homework: Ayer 11-12)
 Lesson 11: Sports, military and art vocabulary (Homework: Ayer 13-16)
 Lesson 12: Legal, literary & occupational vocabulary (Homework: Ayer 17-19)
 Lesson 13: Science & medical terms; combining forms (Homework: Ayer 20-23)
 Lesson 14: Suffixes: diminutive and scientific (Homework: Ayer 24-25)
 Lesson 15: Review #2 (units 7-25)

成績評価の方法 /Assessment Method
 Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語表現法I【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

さまざまな書籍、新聞および雑誌などの記事と映像教材を使い、現代中国の社会、政党、行政などの構造を知りながら、現代中国語の表現への理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『中国文学の昨日と今日』
- ・ 原典と映像で中国を読む

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 資料・教材の配布と説明
- 第2回 中国の言語
- 第3回 現代中国の行政
- 第4回 中国の地理
- 第5回 現代中国の政党
- 第6回 中国の政府
- 第7回 総合討論
- 第8回 中国人の思想(1)
- 第9回 中国人の思想(2)
- 第10回 中国の歴史(古代)
- 第11回 中国の歴史(近代)
- 第12回 中国の歴史(現代)
- 第13回 中国の文学史(1)
- 第14回 中国の文学史(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容の予習30% 内容の理解30%、レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日中両国の文学、歴史、思想、地理、政治などの知識を予習と勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語表現法Ⅱ【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「中国語表現法Ⅰ」の内容を継続し、日本語の文章を中国語（あるいは中国語の文章を日本語に）訳する練習を行いながら、実践的に現代中国語の表現法を身に付けていく。

教科書 /Textbooks

授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『中国文学の昨日と今日』
- ・ 文章で中国の歴史、思想、地理、政治などを深く理解する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 資料・教材の配布と説明
- 第2回 中国語作文1、文体
- 第3回 中国語作文2、構造
- 第4回 作文実践
- 第5回 中国語作文3、資料収集
- 第6回 中国語作文4、注釈法
- 第7回 作文練習
- 第8回 翻訳入門
- 第9回 翻訳の原則
- 第10回 翻訳の技巧
- 第11回 翻訳の理論
- 第12回 翻訳実践
- 第13回 翻訳の評論
- 第14回 翻訳練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容の理解30% 勉強の意欲30%、レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中日両国の文学、歴史、思想、地理、政治などの知識を予習と勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代英文学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

対自然関係、対人関係において、今日様々な問題が生じています。それらは自然環境破壊、愛の不毛性、孤独死等々の現象として現前化し、我々にそれら問題の深刻さを突きつけているのです。

人間はお互いにかなる関係性を築くべきか、また人間は自然とどのようにかわるべきか、といった問題提起を發しつつ、このような危機的状況に生きる人間を扱った作品を次から次へと生み出した19～20世紀のイギリスの作家D.H.Lawrence。彼の作品群には、多くの有意義なメッセージが含まれており、ますます無視できない存在になってきています。ロレンスの今日的意義を問い直すために、今回は彼の後期の短編“The Man Who Loved Islands”を扱う予定です。

到達目標： 19～20世紀を生きたイギリス人作家（詩人）であるD.H.Lawrenceの短編を通じて英語の読解力を養い、作品のメッセージを現代人の問題に絡めて説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

“The Man Who Loved Islands” by D.H.Lawrence（プリントを準備します。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 D.H.Lawrence の紹介
- 2回 プリント pp. 97-98 の精読と議論
- 3回 プリント pp. 99-100 の精読と議論
- 4回 プリント pp. 101-02 の精読と議論
- 5回 プリント pp. 103-05 の精読と議論
- 6回 プリント pp. 106-08 の精読と議論
- 7回 第1の島についての議論
- 8回 プリント pp. 109-111 の精読と議論
- 9回 プリント pp. 112-114 の精読と議論
- 10回 プリント pp. 115-117 の精読と議論
- 11回 第2の島についての議論
- 12回 プリント pp. 118-120 の精読と議論
- 13回 プリント pp. 121-124 の精読と議論
- 14回 第3の島についての議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・80%
授業への参加度など・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

この講義は「エコクリティシズムの理論」の実践ともいうべき内容になっていますので、この講義を受講する前に、その方法論の基礎を学べる「現代英文学研究」を受けておくと、より効果的です。

現代英文学演習【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「現代人の悲劇」「人間と自然」「ロレンスの意義」「エコクリティシズム」

社会システム総合演習【夜】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会システム全般を大きく対象として取り上げ、その構造や機能、さらにはそれらの動態的变化等について考察する。その際、つねに実態を重視するとともに、複合領域的な視点からアプローチをしていくことを共通の目標としていく。したがって、受講生の専攻分野に関わりなく、個別具体的な問題意識を顕在化させることに努めるとともに、同時にその専門化された分析手法の有効性や限界についても、論理的かつ実証的に習得するように努める。具体的には個々の受講生が複合領域的な観点から相互に討議しまたこれへの参加を得て、よりその内容を研鑽し発展させて行く。

教科書 /Textbooks

演習の性格上、共通のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

多様で多方面にわたる総合的な演習を行う関係から、その進行状況にあわせた演習内容とスケジュールとなる。

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 社会システムとは：発表および討議
- 3回 社会システムとは：発表および討議
- 4回 論理的思考に関する講義および討議
- 5回 論理的思考に関する講義および討議
- 6回 例題演習および討議
- 7回 例題演習および討議
- 8回 学生による報告の中間発表
- 9回 学生による報告の中間発表
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 課題・・・45% 発表・・・35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の専門分野を超えていろいろな視点から研究対象をとらえられるべく、視角を広げ他分野の研究に対して臆することなく議論を行うことが必要。その上で自らの研究テーマの客観化を行い、その有効性等を確認する作業に努めることが、各授業へ対する準備となる。

履修上の注意 /Remarks

社会システム研究科博士前期課程学生は必須科目。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

討論中心の演習であり、学生間および学生と教員との相互の意見交換・意思疎通が重要となる。活発な議論を期待する。

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究IA，特別研究IB，特別研究IIA，特別研究IIBを通じた目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや，採用する研究手法等によって進め方は異なるために，共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には，研究テーマの絞り込み，関連する先行研究の渉猟とまとめ，問題の明確化，実験・調査の計画と実施，データの分析，論文の執筆，という流れであり，これらを受講者が互いに発表，議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的に研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集，研究の方法論を学び，研究を独自で展開するのに必要な能力をつける。研究における方法論の習得，論文執筆に必要なスキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の研究テーマについて，十分に検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

修士論文の作成に向け、テーマに関する文献収集や研究手法に関して学び、文献の検討等を通して、必要な知識及び研究法を習得する。

目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② より効果的な研究法を習得、実践する。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討 1【研究目的・課題】
- 3回 研究計画の検討 2【研究方法】
- 4回 文献の検討 1【修士論文・課題】
- 5回 文献の検討 2【修士論文・方法】
- 6回 文献の検討 3【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
- 7回 文献の検討 4【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
- 8回 文献の検討 5【日本教育経営学会・学会誌掲載論文】
- 9回 文献の検討 6【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
- 10回 中間まとめ
- 11回 研究方法 1【フィールドワーク・学校】
- 12回 研究方法 2【フィールドワーク・学校外教育】
- 13回 研究計画の検討 3【先行研究の検討①(研究目的・課題)】
- 14回 研究計画の検討 4【先行研究の検討②(研究方法)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告...50%
参加度 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に必要な基礎的・理論的知識と研究法の習得を目指す。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールドにおける調査、観察、面接の具体的手法に関する指導を行い、研究テーマを具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じた文献・資料を必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
受講者の研究計画に即したスケジュールを年度当初に作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組みと自主的研究活動 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初の時間に教員より説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けて求められる基本的な文献の講読、研究計画の検討を行なう。

また、修士論文執筆に向けての基本的なデータとしての事例、実践報告などについての検討、整理を行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域に合わせて参考書を授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究計画の検討 その1
- 3回 研究計画の検討 その2
- 4回 修士論文に関係する文献の講読
- 5回 修士論文に関係する文献の講読
- 6回 修士論文に関係する文献の講読
- 7回 修士論文に関係する文献の講読
- 8回 修士論文に関係する文献の講読
- 9回 研究計画の検討 その3
- 10回 研究計画の検討 その4
- 11回 フィールドワーク
- 12回 フィールドワーク
- 13回 フィールドワーク
- 14回 フィールドワーク
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文の執筆に向けて、積極的な文献収集やフィールドワークを行ない、指導を受けに来てほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を習得することを目的とする。
専門領域および研究テーマに関する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実験および調査の方法について習得し、研究テーマを具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
研究のすすみ具合に合わせて、柔軟におこなう。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業中の発表など総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定された文献を読み、質疑応答や意見発表など積極的に授業に参加するための準備をしてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられ注目されている実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべきことを吟味する。
研究テーマを吟味するために、社会福祉領域と近接領域における先行研究を調べる方法を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～5回 社会福祉研究の動向
第6～10回 研究方法に関する検討
第11、12回 研究課題に関する報告と討論
第13～15回 研究論文の意味と位置

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。
参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献研究を中心とするが、特にこの授業は講義形式で行う。そのため、事後学習を重視してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究(M)IAでは、課題の設定の方法、課題に応じた資料の蒐集や調査の方法等論文作成のための基本を中心に進め、研究法の習得と課題の明確化をねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料等による)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文作成の進め方
- 第2回 社会科学とは
- 第3回 問題意識の報告
- 第4回 問題意識の検討
- 第5回 問題意識の整理・報告
- 第6回 研究方法1【研究の進め方】
- 第7回 研究方法2【実証的研究】
- 第8回 研究方法3【展望的研究】
- 第9回 研究方法4【調査方法】第10回 展望論文・文献の報告【】
- 第10回 問題意識の見直し
- 第11回 展望論文・文献の報告
- 第12回 大まかな論題の設定
- 第13回 研究計画の作成
- 第14回 論題の視点の整理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告とレポートにより評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマと研究計画の整理を進める

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的な知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールド調査の方法について学び、研究を具体的に進めるための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じた文献を必要に応じて指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じた文献を必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究計画に即したスケジュールを年度当初に作成する。

時間配分は、おおむね以下のような予定である。

1回～2回 研究計画の妥当性の検討

3回～5回 関連文献の探索

6回～12回 関連文献の研究

12回～15回 研究の方法の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

研究遂行の積極性 ... 50% 研究の内容... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教員が指示した学習・作業等をきちんとしたうえで授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人のいとなみと環境の相互作用に注目し、フィールドワークによる生態人類学研究を行う。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座「生態人類学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 - 15回
1年目は文献研究と予備調査を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションと論文。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

野に出ること。本を読むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論に関する論文指導を行う。
学外における実証的研究の指導も含む。

教科書 /Textbooks

当該院生と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

当該院生と話し合った後に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20% 輪読レジュメ 50%、研究発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズに関する知識があること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年かけて自らの研究課題について論文を作成することをめざす。
1学期には下記の作業をおこなう。
(1) 社会学的分析についての基本的な考え方を身につける。
(2) 関心のあるテーマについて、「問い」を明確にする。
(3) その「問い」に関する既存の研究文献のレビューを行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。(ただし、自らの「問い」に関する文献リストを作成してもらう。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～15回
(1) 自ら作成した「文献リスト」に基づき、文献の内容を報告してもらう。質疑・応答を通して、理解を深める。
(2) 6月上旬くらいまでに大まかな「執筆計画書(①題目、②問題の所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト、④執筆スケジュール等)」を出してもらう。
(3) 1ヶ月に1回程度、研究の進捗状況を報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)...70% 参加・貢献度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献リストの作成、文献の報告準備が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。
授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の興味の所在を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
- 2回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
- 3回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
- 4回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
- 5回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析1
- 6回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析2
- 7回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析3
- 8回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析4
- 9回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析5
- 10回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析6
- 11回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析7
- 12回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析8
- 13回 最初に決めたテーマと関連した資料とテキストの読解・分析9
- 14回 全体のまとめ
- 15回 レポートの提出・講評

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に与えられた課題を行っておくこと。
夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な基礎的知識と方法論を学ぶ。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や研究の方法論について習得する。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 研究目的論
- 3回 研究課題論
- 4回 資料収集の手ほどき
- 5回 資料収集の実践
- 6回 収集した資料の評価
- 7回 研究方法論 (19世紀まで)
- 8回 研究方法論 (20世紀前半)
- 9回 研究方法論 (1960年代・70年代)
- 10回 研究方法論 (1980年代・90年代)
- 11回 研究方法論 (2000年代以降)
- 12回 先行研究の評価に関して
- 13回 研究論文作成の手ほどき
- 14回 研究論文作成の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

履修上の注意 /Remarks

出席をきちんとすることは当然のことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な文献講読を行う。同時に、言語学の分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生との相談
第2回 - 第5回 文献講読 (音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論)
第6回 - 第10回 言語学の課題についての議論
第11回 - 第14回 受講生による発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を習得することを目的とします。研究テーマの決定・文献調査・調査方法・分析方法等を検討・議論します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 文献購読とディスカッション(1)
- 5回 文献購読とディスカッション(2)
- 6回 文献購読とディスカッション(3)
- 7回 文献購読とディスカッション(4)
- 8回 文献購読とディスカッション(5)
- 9回 文献購読とディスカッション(6)
- 10回 文献購読とディスカッション(7)
- 11回 文献購読とディスカッション(8)
- 12回 学生による研究報告(1)
- 13回 学生による研究報告(2)
- 14回 学生による研究報告(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の読解力の養成。各自の修士論文テーマを絞り込む。各自の修士論文に関連する種々の論文を多読し、批判的検討を加える。
20世紀の中国文学芸術運動、特に中国近代の幕開けから五・四新文化運動を経て、魯迅の死に至るまでの、中国の主に文学芸術界の状況を中心に体系的に深く研究する。
到達目標は、中国近現代文学史に関する知識を養い、魯迅を中心とする中国近現代文学・芸術活動について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 清末の文学・譴責文学(1)【李伯元「官場現形記」】
- 2回 清末の文学・譴責文学(2)【劉鉄雲「老残遊記」】
- 3回 清末の文学・譴責文学(3)【吳趸人「二十年目睹之怪現狀」】
- 4回 清末の文学・譴責文学(4)【曾孟樸「孽海花」】
- 5回 清末の文学・ジャーナリズム・【梁啓超】
- 6回 清末の文学・【日本留学と新文学の萌芽・魯迅】
- 7回 中華民国期の文学・【アメリカ留学と文学革命・胡適】
- 8回 中華民国期の文学・【「新青年」と新詩】
- 9回 中華民国期の文学・【「新青年」と日本留学帰りの北京大学教授たち】
- 10回 中華民国期の文学・【新文学の登場・「狂人日記」】
- 11回 中華民国期の文学・【「新青年」の空中分解】と彷徨する魯迅】
- 12回 中華民国期の文学・【「文学研究会」と「創造社」の台頭】
- 13回 中華民国期の文学・【文学革命から革命文学へ】
- 14回 中華民国期の文学・【中国左翼作家連盟と魯迅の死】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習・発表状況... 40 % レポート... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

数多く関連資料を読むのでしっかり準備して授業に臨んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

清末の文学、中華民国期の文学、魯迅、五四新文化運動

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国後漢時代の思想家王充の著作『論衡』は、その奇抜的な哲学思想のみが注目されてきたが、「中国古代の大百科全書」とも言われるほど中国古代の思想および文化に関する知識も豊富である。本授業は、『論衡』に引用されている典故を整理して研究する。修士論文の第一ステージにもなる。

教科書 /Textbooks

新釈漢文大系『論衡』上中下 [王充 撰] 山田勝美 著、明治書院、1976

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『論衡注釋』 北京大学历史系《论衡》注釋小组注釋 中华书局, 1979.10

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1~15回
『論衡』第一篇「逢遇篇」から第十五篇「奇怪篇」までの文章を毎回一篇読み、その中の典故を一つ一つ整理して発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、発表内容などによる総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

よく図書館を利用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国語文法・語用論・教育法における研究成果をまとめ、修士論文のテーマを考える。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
現代中国語文法に関する問題を分類する。
問題別に研究現状をまとめる。
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。
論文と修論について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修論を作成するための授業であるので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究においては、修士論文作成を前提にした研究指導を行う。修士論文で取り上げるテーマの選定をはじめ、論文作成の準備作業、執筆について報告と討議を行う。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマに応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の指導
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究計画に沿って報告と論文作成の準備を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、修士論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人を対象に、論文執筆に向けて必要な調査や研究について指導を行ないます。主に、国語学・日本語学研究における実証的論証方法を習得することを目指します。授業は、学生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国語学・日本語学研究の意義
- 第2回 演習の運営方針と発表予定について
- 第3回 先行研究を精査することの重要性
- 第4回 先行研究を読む(1)
- 第5回 先行研究を読む(2)
- 第6回 先行研究を読む(3)
- 第7回 先行研究の問題点と研究テーマの設定
- 第8回 研究目的と研究方法
- 第9回 仮説と研究方法の検証(1)
- 第10回 仮説と研究方法の検証(2)
- 第11回 用例採取の方法
- 第12回 用例の分類・分析
- 第13回 論文の構想
- 第14回 プレ発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...30% 課題...10% 討議...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文執筆に向け、研究計画を立て、それに基づき計画的に研究を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Orientation and guidance for thesis research.
- 4 回~ 6 回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 7 回~ 1 1 回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 1 2 回~ 1 5 回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials.

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 40%Final 2000 word paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題を準備してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 文献講読を通して、言語学に関する知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第10回 文献講読
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します (例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々)。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

到達目標： 多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入。担当学生と相談の上、1学期の予定表を作成します。
- 第2回 テーマに沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
- 第3回 前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
- 第4回 前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
- 第5回 前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
- 第6回 前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
- 第7回 前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
- 第8回 前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
- 第9回 前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
- 第10回 前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
- 第11回 前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
- 第12回 前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
- 第13回 前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
- 第14回 前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
- 第15回 総括。修士論文の題目を決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書... 80% 授業への参加度など... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出す課題をしっかりとこなしていただきます。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

修論に関する文献を用いる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究計画の作成指導①
- 3回 研究計画の作成指導②
- 4回 研究計画の作成指導③
- 5回 研究計画の作成指導④
- 6回 研究史のまとめ レジюме説明①
- 7回 研究史のまとめ レジюме説明②
- 8回 研究史のまとめ レジюме説明③
- 9回 研究史のまとめ レジюме説明④
- 10回 研究史のまとめ レポート添削①
- 11回 研究史のまとめ レポート添削②
- 12回 研究史のまとめ レポート添削③
- 13回 研究史のまとめ レポート添削④
- 14回 研究史のまとめ レポート添削⑤
- 15回 まとめ 学期レポートの提出

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究計画、レジメ、レポートを作成してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、原典・史料とともに関連文献を解説する。その原典・史料の内容は、受講生の論文テーマに沿って調整する。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。また受講生の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の概要、解説する原典・史料を決める。
第2回～第14回 原典・資料の解説
第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論（50点）、レポート（50点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は自分の論文テーマを決めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生は自ら進んで論文テーマに相応しい原典・史料を探し、紹介すること。

キーワード /Keywords

政治思想研究、国際関係研究、視点、方法論、解説法、テキストとコンテキスト

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 履修者自らが研究課題を設定し研究活動を遂行していくための力の育成を目的とする。

より具体的な到達目標は以下の通り。

- 研究対象についての専門的な知識を身につける。
- 国際政治問題を分析する能力を高める。
- 論理的で説得力ある文章を作成する能力を高める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- James E. Dougherty and Robert L. Pfaltzgraff, Contending Theories of International Relations: A Comprehensive Survey, 5th ed. (New York: Longman, 2009)
- Koren Mingst, Essentials of International Relations, 3rd ed. (New York: W.W. Norton, 2007)
- その他、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 2学期開講の特別研究 (M) IBと合わせて、一年間を通じて、論文構想の検討、研究発表、論文提出という形で進めていく予定である。論文は4万字程度とする。

1回	授業内容の説明など
2回～4回	論文構成の作成、発表、改訂
5回～13回	発表
14回～15回	前期最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- 論文構成作成、質疑応答など論文作成作業...20%、発表...20%、論文...60%。
- 詳細については、最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 東アジア国際政治に関する学部卒業生程度の基礎知識が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名
/Instructor

横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代中国政治史に関する履修者の個別研究テーマに沿って、研究、調査を進める。
各自の修士論文作成上の技量を身につけることを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

履修者の個別研究テーマにそったテキスト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
履修者の個別レポートを議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートを用意する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中華人民共和国の共産党一党支配体制と市場経済化との関係について検討し、改革開放政策に対する評価を試みる。詳細は受講生の関心に応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(主にミクロ) 経済学及び統計学、計量経済学等の知識を必要とするので、学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について理論的な主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と理論枠組の構築を目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、
2回～14回 各自、理論枠組にかかわる文献を選んで、発表していく。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容及び議論 ... 60% 期末のレポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関する関連文献のリストと、書こうとする論文の章構成を出来るだけ早く作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、まず、研究テーマ（日本政治外交史）を決める手助けをしたい。

教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～14回 学生による報告とそれに対する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆指導。
各人のテーマに従って報告をしてもらい、議論していく。

教科書 /Textbooks

各自に対し随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第15回：論文のテーマに沿って、問題意識、構成、内容等を随時報告してもらい、検討していく。
特に問題意識には重点をおいて指導したい。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的知識の獲得】を目指す。
同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）】を教示し、論文もしくは課題研究を完成させること【】を目指す。
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。
○(1) Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.
○(2) 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
○(3) Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.
○(4) 服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年。
○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
○大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。
バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプール・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
第2～4回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasを3回に分けて輪読、議論する
第5～7回 『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する
第8～10回 Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
第11～13回 『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する
第14回 これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する
第15回 まとめの議論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 40% 授業参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際協力・国際開発をテーマとする修士論文を作成するために、文献の輪読を通して必要な知識について理解し、修士論文を作成する上で基礎となるのこれまでの議論が説明出来るようになります。

教科書 /Textbooks

受講生の問題関心に合わせて相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN
第2回～第14回 レジユメによる報告とディスカシヨN
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力・国際開発について学部修了レベルの知識を有していること。また、修士論文について明確なテーマを持っていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション。
 第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
 第15回 まとめ
 詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
 ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を十分に整えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イベリア半島スペインを対象に、近現代における国家と地域ナショナリズムの問題を取り上げる。スペインの地域的多様性を念頭に、国民国家が自明のものでもなく、地域という枠組みも歴史のなかで作られ変容することを理解する。
ヨーロッパのほかの地域における地域ナショナリズムの動きを、比較的に議論できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

立石博高・中塚次郎編『スペインにおける国家と地域』国際書院、2002年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関哲行ほか編『スペイン2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 導入編 歴史のなかの「スペイン」と地域
- 3回 国民国家の形成と地域ナショナリズム
- 4回～7回 カタルーニャとスペイン
- 8回～9回 ガリシア・バスク
- 10回～11回 アンダルシア主義
- 12回～13回 EUのなかの地域
- 14回 自治州国家体制の30年
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献にあげた本の第2部第1章「国家と地域」を読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロシア革命前後時代におけるボルガ・ウラル地域、中央アジア地域の多民族社会について理解を深めることを目的とする。主なテーマは、民族政策、バイリンガル社会、異民族間婚姻、民族文化喪失などです。

到達目標は、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようにすることです。

教科書 /Textbooks

西山克典『ロシア革命と東方辺境地域』、北海道大学図書刊行会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアにとっての「東方」と「辺境」
- 2回 ロシア帝国の地域編成
- 3回 欧露辺境としてのボルガ中流・ウラル地域
- 4回 中央アジアの植民地—セミレーチエ
- 5回 ストルイビン体制と帝国秩序の危機
- 6回 革命における中央と周辺
- 7回 1916年のムスリム蜂起
- 8回 中央アジアにおける革命の展開
- 9回 ボルガ・ウラル地域における革命
- 10回 バシキール自治共和国の形成①
- 11回 バシキール自治共和国の形成②
- 12回 ソビエト権力と国家編成
- 13回 ボルガ中流・ウラル地域の再編
- 14回 中央アジアにおける土地改革と民族編成
- 15回 ネットからスターリン体制へ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IA 【夜】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国社会史を研究分野とする修士論文の作成指導

教科書 /Textbooks

受講生の研究課題に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回の授業は、適宜下記の内容を扱う。

1. 研究課題に関する研究史の整理
2. 主要原典資料の精読と中文古文書判断力の向上
3. 研究報告

第1回 ガイダンス

第2回 研究報告

第3回 研究報告

第4回 研究報告

第5回 研究報告

第6回 研究報告

第7回 研究報告

第8回 研究報告

第9回 研究報告

第10回 研究報告

第11回 研究報告

第12回 研究報告

第13回 研究報告

第14回 研究報告

第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に熟読し発言を準備すること。報告担当時は報告を入念に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

修士論文、研究史整理、原典講読、研究報告

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究IA、特別研究IB、特別研究IIA、特別研究IIBを通じた目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究手法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的に研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集，研究の方法論を学び，研究を独自で展開するのに必要な能力をつける。そして，修士論文を完成させるのに必要な能力をつけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の研究テーマについて，先行研究などを調べ十分に検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を捉えた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究IAの成果及び出てきた課題をふまえ、修士論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法を習得する。

目標

- ①研究に必要な知識を習得する。
- ②より効果的な研究法を選択、吟味し、実践する。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 文献の検討1【修士論文・課題】
- 3回 文献の検討2【修士論文・方法】
- 4回 文献の検討3【日本子ども社会学会・学会誌掲載論文】
- 5回 文献の検討4【日本教育学会・学会誌掲載論文】
- 6回 文献の講読5【日本比較教育学会・学会誌掲載論文】
- 7回 文献の講読6【異文化間教育学会・学会誌掲載論文】
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究方法1【フィールドワーク・学校】
- 10回 研究方法2【フィールドワーク・学校外教育】
- 11回 研究方法3【面接・質問事項の精査】
- 12回 研究方法4【面接・聞き取りの手法】
- 13回 研究計画の検討1【先行研究の検討(研究目的・課題)】
- 14回 研究計画の検討2【先行研究の検討(研究方法)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 ...50%
発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に必要な基礎的・理論的知識と研究法の習得を目指す。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールドにおける調査、観察、面接の具体的手法に関する指導を行い、研究テーマを具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じた文献・資料を必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究テーマに合わせて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
受講者の研究計画に即したスケジュールを学期当初に作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組みと自主的研究活動 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初の時間に教員より説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、修士論文の執筆に向けて求められる基本的な文献の講読、研究計画の検討を行なう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者と相談の上決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究計画の検討 その1
- 3回 研究計画の検討 その2
- 4回 修士論文に関する文献の講読
- 5回 修士論文に関する文献の講読
- 6回 修士論文に関する文献の講読
- 7回 修士論文に関する文献の講読
- 8回 修士論文に関する文献の講読
- 9回 研究計画の検討 その3
- 10回 研究計画の検討 その4
- 11回 研究計画の検討 その5
- 12回 研究計画の検討 その6
- 13回 研究計画の検討 その7
- 14回 研究計画の検討 その8
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文の執筆に向けて、積極的な文献収集やフィールドワークを行ない、指導を受けに来てほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を習得することを目的とする。
専門領域および研究テーマに関する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実験および調査の方法について習得し、研究テーマを具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
研究の進み具合に合わせて、柔軟におこなう。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 60%、発表報告 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示された事柄を踏まえて、論文作成作業を進めてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべきことを吟味する。
自らの研究テーマ・目的を明らかにするために、社会福祉領域および近接領域における先行研究を把握し、研究の内容と方向性を検討することを狙いとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～5回 社会福祉研究の動向
第6～10回 研究方法に関する検討
第11、12回 研究課題に関する報告と討論
第13～15回 研究論文の意味と位置

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。
参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業では院生の研究報告を中心に実施するので、事前の文献研究など、準備を重視してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IB では課題の精査と研究テーマの設定を進める。

教科書 /Textbooks

特に使用しない (資料等による)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 研究の進め方
第 2 回 研究計画の確認
第 3 回 ~ 6 回 問題意識、論題に関連する先行研究論文・文献の報告
第 7 回 研究計画の精査
第 8 回 ~ 第 10 回 論題と仮説の設定
第 11 回 ~ 第 14 回 調査計画と調査票の作成
第 15 回 研究計画と論題の見直し

成績評価の方法 /Assessment Method

報告とレポートにより評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告の準備をする

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的な理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールド調査の方法について学び、研究を具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

年度当初に作成した受講者の個々のスケジュールに基づいて、特別研究IAから引き続いて実施する。
時間配分は、おおむね以下のような予定である。
1回～5回 研究方法の試行
6回～7回 研究方法の再検討と修正
8回～15回 研究の遂行と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

研究遂行の積極性 ... 50% 研究の内容... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自発的な研究態度が良い結果を生みます。指導教員の指示のみでなく、自分のアイデアを生かして積極的に行動し、その結果を持って授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人のいとなみと環境の相互作用に注目し、フィールドワークによる生態人類学研究を行う

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座「生態人類学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文献研究と予備調査を進める。
- 第2講 文献研究と予備調査を進める。
- 第3講 文献研究と予備調査を進める。
- 第4講 文献研究と予備調査を進める。
- 第5講 文献研究と予備調査を進める。
- 第6講 文献研究と予備調査を進める。
- 第7講 文献研究と予備調査を進める。
- 第8講 文献研究と予備調査を進める。
- 第9講 文献研究と予備調査を進める。
- 第10講 文献研究と予備調査を進める。
- 第11講 文献研究と予備調査を進める。
- 第12講 文献研究と予備調査を進める。
- 第13講 文献研究と予備調査を進める。
- 第14講 文献研究と予備調査を進める。
- 第15講 文献研究と予備調査を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションと論文発表

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

野に出ること。本を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年かけて自らの研究課題について論文を作成することをめざす。
2学期は(1学期の作業をふまえ)下記の作業をおこなう。
(1) 文献レビューをもとに「調査」を企画・実施する。
(2) 論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

使用しない。(ただし、自らの「問い」に関する文献リストを作成してもらう。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
(1) 1学期に引き続き、自ら作成した「文献リスト」に基づき、文献の内容を報告してもらう。質疑・応答を通して、理解を深める。
(2) 調査の「企画書」を作成する。この「企画書」にもとづき実査を行う。
(3) 調査の進捗状況、論文の内容について1ヶ月に1回程度、報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(論文)...85% 参加・貢献度...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査企画書の作成、文献の報告準備が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 修士論文発表会への参加

成績評価の方法 /Assessment Method

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平常点(討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究方法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味のある所在を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度は、ジョン・スタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらった修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行ないたい。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の実情を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
- 2回 夏季休業中の研究に関する報告と指導
- 3回 修士論文のテーマと構想に関する指導1
- 4回 修士論文のテーマと構想に関する指導2
- 5回 修士論文のテーマと構想に関する指導3
- 6回 修士論文執筆に必要な資料の読解、収集1
- 7回 修士論文執筆に必要な資料の読解、収集2
- 8回 修士論文執筆に必要な資料の読解、収集3
- 9回 修士論文で取り上げる作品の精読1
- 10回 修士論文で取り上げる作品の精読2
- 11回 修士論文で取り上げる作品の精読3
- 12回 修士論文で取り上げる作品の精読4
- 13回 修士論文の構想の確定
- 14回 全体のまとめ
- 15回 次年度の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の研究状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に与えられた課題を行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な応用的知識と方法論を学びます。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や、研究の方法論について学びます。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 資料収集の実践
- 3回 資料収集のまとめ
- 4回 収集した資料の評価
- 5回 研究方法論の検討 (19世紀まで)
- 6回 研究方法論の検討 (29世紀前半)
- 7回 研究方法論の検討 (1960年代・70年代)
- 8回 研究方法論の検討 (1980年代・90年代)
- 9回 研究方法論の検討 (2000年代以降)
- 10回 研究方法論のまとめ
- 11回 研究論文作成のための導入
- 12回 研究論文作成のための必要事項の確認
- 13回 研究論文作成の実践
- 14回 研究論文作成のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

履修上の注意 /Remarks

出席をきちんとすることは当然のことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生との相談
第2回 - 第9回 文献講読
第10回 - 第13回 課題研究
第14回 受講生による発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を習得することを目的とします。研究テーマの決定・文献調査・調査方法・分析方法等を検討・議論します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 方法論について検討(1)
- 3回 方法論について検討(2)
- 4回 方法論について検討(3)
- 5回 方法論について検討(4)
- 6回 方法論について検討(5)
- 7回 論文構成について検討(1)
- 8回 論文構成について検討(2)
- 9回 論文構成について検討(3)
- 10回 論文構成について検討(4)
- 11回 論文構成について検討(5)
- 12回 学生による研究報告(1)
- 13回 学生による研究報告(2)
- 14回 学生による研究報告(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の読解力の養成ならびに各自の修士論文テーマを絞り込む。各自の修士論文テーマに関する種々の論文を多読し、批判的検討を加える。
 中国・清末の京劇改革運動から中国近代演劇の父と称される曹禺の登場を経て、中華人民共和国樹立後演劇家に転進した老舍等、代表的な作家・作品に目を通し、さらにそれらに関する各種論文を読み、批判的検討を加えていく。さらに、中国文化大革命時期の作家・作品や同時代につなげるためにノーベル文学作家で中国不条理劇の旗手高行健の作品を読解する。
 到達目標は、中国の演劇史に関する知識を養い、各時期の演劇活動について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 清末の演劇・京劇について
- 第2回 清末の演劇・京劇改革運動
- 第3回 清末の演劇・上海における話劇の誕生
- 第4回 清末の演劇・日本東京で話劇誕生
- 第5回 清末の演劇・プロ話劇団の誕生
- 第6回 清末の演劇・辛亥革命と話劇運動
- 第7回 中華民国の演劇・イブセン劇の受容
- 第8回 中華民国の演劇・ロマンチスト田漢
- 第9回 中華民国の演劇・洪深と中国初の女優登場
- 第10回 中華民国の演劇・左翼劇作家夏衍の演劇
- 第11回 中華民国の演劇・近代演劇の父曹禺の演劇
- 第12回 中華人民共和国の演劇・老舍の演劇
- 第13回 中華人民共和国の演劇・文化大革命期の演劇
- 第14回 中華人民共和国の演劇・不条理劇の旗手高行健
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題発表含む)・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

清末の京劇、中国話劇の誕生、中華民国期の話劇、中華人民共和国期の話劇

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国後漢時代の思想家王充の著作『論衡』は、その奇抜的な哲学思想のみが注目されてきたが、「中国古代の大百科全書」とも言われるほど中国古代の思想および文化に関する知識も豊富である。本授業は、『論衡』に引用されている典故を整理して研究する。修士論文の第二ステージにもなる。

教科書 /Textbooks

新釈漢文大系『論衡』上中下 [王充 撰] 山田勝美 著、明治書院

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『論衡注釋』 北京大学历史系《論衡》注釋小組注釋 中华書局, 1979.10

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1~15回
『論衡』第十五「書虚篇」から第三十篇「刺孟」までの文章を毎回一篇読み、その中の典故を一つ一つ整理して発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、発表内容などによる総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

よく図書館を利用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国語文法・語用論・教育法における研究成果をまとめ、修士論文のテーマを考える。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
現代中国語文法に関する問題を分類する。
問題別に研究現状をまとめる。
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。
論文と修論について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修論を作成するための授業であるので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究においては、修士論文作成を前提にした研究指導を行う。修士論文で取り上げるテーマの選定をはじめ、論文作成の準備作業、執筆について報告と討議を行う。

教科書 /Textbooks

研究テーマに応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究テーマに応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の指導
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究計画に沿って報告と論文作成の準備を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、修士論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人を対象に、論文執筆に向けて必要な調査や研究について指導を行ないます。主に、国語学・日本語学研究における実証的論証方法を習得することを目指します。授業は、学生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 修士論文の構想
- 第2回 運営方針と発表予定について
- 第3回 先行研究の研究成果と研究テーマの関連性(1)
- 第4回 先行研究の研究成果と研究テーマの関連性(2)
- 第5回 基礎資料となる表の分析(1)
- 第6回 基礎資料となる表の分析(2)
- 第7回 仮説の論証方法(1)
- 第8回 仮説の論証方法(2)
- 第9回 発表(1)
- 第10回 発表(2)
- 第11回 用例の読解
- 第12回 仮説の再構築
- 第13回 発表(3)
- 第14回 発表(4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...30% 課題...10% 討議...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文執筆に向け、研究計画を立て、それに基づき計画的に研究を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

認知言語学、認知文学、比較文学、メタファー論、表象

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Orientation and guidance for thesis research.
- 4 回~ 6 回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 7 回~ 1 1 回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 1 2 回~ 1 5 回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials.

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 40%Final 2000 word paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前の回で指摘された箇所を書きなおし、新たな課題のエッセイを準備してくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献講読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。到達目標は以下の通りである。

- (1) 文献講読を通して、修士論文作成に必要な知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第11回 文献講読
- 第12回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します (例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々)。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

到達目標： 多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入。担当学生と相談の上、2学期の予定表を作成します。
- 第2回 1学期に決定した修士論文の題目に沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
- 第3回 前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
- 第4回 前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
- 第5回 前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
- 第6回 前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
- 第7回 前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
- 第8回 前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
- 第9回 前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
- 第10回 前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
- 第11回 前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
- 第12回 前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
- 第13回 前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
- 第14回 前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
- 第15回 総括。修士論文のおおよその流れの決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 (M)IB 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

修論に関する文献を用いる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期レポートの添削
- 3回 1学期レポートの添削
- 4回 史料分析の指導
- 5回 史料分析の指導
- 6回 史料分析の指導
- 7回 史料分析の指導
- 8回 史料分析の指導
- 9回 史料分析の指導
- 10回 年次レポートの作成
- 11回 年次レポートの作成
- 12回 年次レポートの作成
- 13回 年次レポートの作成
- 14回 年次レポートの作成
- 15回 まとめ 年次レポートの提出

成績評価の方法 /Assessment Method

年次レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートを作成・修正してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国 (日本、清国・中国、朝鮮・韓国) の政治思想と国際関係への理解を深めるために、原典・史料と関連文献を解読する。この科目は基本的に、「特別研究 (M) IA」と同じ形式の授業を行う。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。また受講生の論文テーマに沿って原典・史料を決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 概要
第2回～第14回 原典・史料の解読
第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論 (50点)、レポート (50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は自分の論文テーマを決めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生は自ら進んで論文テーマに沿って原典・史料を探し紹介すること。

キーワード /Keywords

政治思想、国際関係、視点、方法論、解釈、テキストとコンテキスト

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 1学期の特別研究 (M) IAで始めた論文作成作業を継続し、より完成度の高い論文を作成する。

到達目標は以下の通り。

- ・ 研究対象についての専門的な知識を身につける。
- ・ 国際政治問題を分析する能力を高める。
- ・ 論理的で説得力ある文章を作成する能力を高める。

教科書 /Textbooks

- ・ 特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ James E. Dougherty and Robert L. Pfaltzgraff, Contending Theories of International Relations: A Comprehensive Survey, 5th ed. (New York: Longman, 2009)
- ・ Koren Mingst, Essentials of International Relations, 3rd ed. (New York: W.W. Norton, 2007)
- ・ その他、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期開講の特別研究 (M) IAと合わせて、一年間を通じて、論文改訂、研究発表、論文提出という形で進めていく予定である。

- 1回 2学期の取組みについての話し合い
- 2回～13回 発表
- 14回～15回 最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 質疑応答、改訂など論文作成作業...20%、発表...20%、論文最終稿...60%。
- ・ その他、詳細については、最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 同担当者の特別研究 (M) IAを履修し終えていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名
/Instructor

横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代中国政治史に関する履修者の個別研究テーマに沿って、研究、調査を進める。
各自の修士論文作成の技量を身につけることを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

修者の個別研究テーマにそったテキスト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
履修者の個別レポートを議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートを用意する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国の対外認識および外交の変遷について検討し、内政と国際要因が中国の対外的な行動に及ぼす影響を与えてきたのかについて理解を深める。詳細は受講生の研究テーマに応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論
- 15回 レポート提出とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(主にミクロ)経済学及び統計学、計量経済学等の知識を必要とするので、学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について事例研究に関する主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と資料収集、分析を行うことを目指す。

教科書 /Textbooks

授業時に必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、研究テーマの確認
- 2回～14回 各自、事例研究にかかわる文献を選んで、発表していく。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容及びディスカッション ... 60% 期末のレポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関する関連文献のリストと、書こうとする論文の章構成を出来るだけ早く作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、研究テーマ（日本政治外交史）を絞込み、必要史料を収集・解読する手助けをしていく。

教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～14回 学生による報告とそれに対する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆指導。
各人のテーマに従って報告をしてもらい、議論していく。

教科書 /Textbooks

各自に対し随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第15回：論文のテーマに沿って、問題意識、構成、内容等を随時報告してもらい、検討していく。
論文執筆に向けての資料収集に重点を置く。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M)IAに続き、戦後東南アジアの国際関係に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的知識、学問的素養】を身につける。同時に、1学期に科した課題レポートの評価を行いながら、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。また1学期に続いて、課題レポートをいくつか科す。

教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。

- (1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
○(2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
○(3)山影進『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
第2～4回 China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
第5～7回 『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
第8～10回 『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
第11～12回 これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
第13～14回 報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 40% 授業参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華人、開発体制、地域統合、民主化、ASEAN

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際協力・国際開発をテーマとする修士論文を作成するために、文献の輪読を通して必要な知識を習得し、修士論文の骨格を描けるようになります。

教科書 /Textbooks

受講生の問題関心に合わせて相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN
第2回～第14回 レジユメによる報告とディスカシヨN
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力・国際開発について学部修了レベルの知識を有していること。また、修士論文について明確なテーマを持っていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション。
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を十分に整えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀はかつてないほどに大規模な移民現象が起きています。授業では大西洋をまたいで19世紀後半から20世紀初頭に出現した国際移動に関する最近の論文、およびイベリア半島南部を基点に形成される移民の流れ(メソシステム・レベル)を取り上げ、移民研究の動向や方法も理解します。

今日のグローバル化の波のなかで発生する労働力移動も比較検討できるレベルまで到達したい。

教科書 /Textbooks

次の英文論文を最初の授業で配布。

Carl Strkwerda, "Tides of Migration, Current of History: The State, Economy, and the Transatlantic Movement of Labor in the Nineteenth and Twentieth Centuries", International Review of Social History, 44, 1999, pp.367- 394.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ S・カースルズ / M・ J・ ミラー 『国際移民の時代』名古屋大学出版局、2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的講義
- 2回～7回 上記の論文を読む
移民は近代の現象か？ 国家はどのような機能を果たしたか？
- 8回～9回 移民研究のアプローチ：学界動向論文紹介
- 10回～11回 南イベリアを基点とする【移民システム】の形成・消滅・再現
- 12回～13回 ヨーロッパの南から北への労働力移動
アンダルシア移民
- 14回 スペイン南部からカタルーニャへの移民
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告(50点)とレポート(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初の数回の授業のために、事前に英文の論文を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

カフカス地域の民族間関係について理解を深めることを目的とする。キーワードは、【民族主義】、【宗教復興】、【アイデンティティ変容】、【民族言語】などです。
到達目標は、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようにすることです。

教科書 /Textbooks

検討中です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

廣瀬陽子『コーカサス国際関係の十字路口』、集英社新書
木村英亮『ロシア現代史と中央アジア』、有信堂
北川誠一ほか編『コーカサスを知るための60章』、明石書店
塩川伸明『民族と言語』、岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフカス地域の自然地理、民族、言語
- 2回 北カフカスと南カフカス
- 3回 アゼルバイジャン
- 4回 グルジア
- 5回 アルメニア
- 6回 チェチェン
- 7回 ダゲスタン
- 8回 イングーシ、北オセチア
- 9回 ビデオ観賞、議論①
- 10回 ビデオ観賞、議論②
- 11回 石油資源をめぐる問題
- 12回 カフカスとロシアとの関係、政治体制
- 13回 カフカスの外交
- 14回 将来について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を読んで準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IB 【夜】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 2学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国社会史を研究分野とする修士論文の作成指導

教科書 /Textbooks

受講生の研究課題に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 研究課題に関する研究史の整理
2. 主要原典資料の精読と中文古文書判断力の向上
3. 研究報告
- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告
- 第3回 研究報告
- 第4回 研究報告
- 第5回 研究報告
- 第6回 研究報告
- 第7回 研究報告
- 第8回 研究報告
- 第9回 研究報告
- 第10回 研究報告
- 第11回 研究報告
- 第12回 研究報告
- 第13回 研究報告
- 第14回 研究報告
- 第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 (60%) ・ 討論 (40%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会史 修士論文 研究報告

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成の基礎となる研究活動を行う。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議する。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究と実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス・研究モデル、2: 論点整理と動向検討、3: 研究課題への応用と検討)
(1) 理論的な考え方について。実証研究とは何か
(2) 研究とは何か。テーマ設定と関連情報の収集・整理
(3) 課題レポート作成と研究計画の提出
(4) 先行研究についての文献リストの作成
(5) 先行研究についての考察
(6) 分析視点と仮説の設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況及び発表内容等を総合して評価する。
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究IA、IBの成果及び出てきた課題をふまえ、修士論文の作成に必要な知識及び研究法を習得しつつ、研究の進め方、まとめ方を学ぶ。

目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② 研究を進める上でより効果的な研究法を実践する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法】
- 4回 研究計画の検討3【先行研究の検討】
- 5回 研究計画の検討4【論文の構成】
- 6回 研究方法1【質問紙調査・フォーディング】
- 7回 研究方法2【質問紙調査・予備調査】
- 8回 中間発表
- 9回 研究方法3【音声記録分析】
- 10回 研究方法4【発話分析】
- 11回 修士論文に関わる発表・討論1【序論・目的】
- 12回 修士論文に関わる発表・討論2【序論・先行研究】
- 13回 修士論文に関わる発表・討論3【序論・課題設定】
- 14回 修士論文に関わる発表・討論4【序論・方法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1月末の修士論文執筆に向けての集中的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文執筆者の専門領域に合わせて参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文構想の検討 その1
- 3回 修士論文構想の検討 その2
- 4回 修士論文構想の検討 その3
- 5回 修士論文構想の検討 その4
- 6回 修士論文構想の検討 その5
- 7回 修士論文構想の検討 その6
- 8回 修士論文構想の検討 その7
- 9回 修士論文構想の検討 その8
- 10回 修士論文構想の検討 その9
- 11回 修士論文構想の検討 その10
- 12回 修士論文構想の検討 その11
- 13回 修士論文構想の検討 その12
- 14回 修士論文構想の検討 その13
- 15回 修士論文構想の検討 その14

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文に対する取り組みの姿勢と進行状況によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の、着実な修士論文の進行作業を期待したい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
1年次に明確化した社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題に沿って、自らの研究テーマ・目的を明らかにし、特に博士（前期）論文の完成を見通した研究に取り組む。
そのために必要とされる、自らの研究テーマ・目的に沿った資料収集を行い、必要となる調査計画を立て、実施することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～5回 自らの研究課題・テーマに関する討論
第6～10回 研究方法・調査内容に関する検討
第11～15回 収集した資料や調査内容・結果に関する報告とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。
参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究の枠組みとテーマを具体化し、資料や調査内容・結果を検討するので、フィールドワークも含めた研究内容を確認していく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IIA では、調査の実施と結果の検討及び、論文の中間報告的なまとめにより、必要な資料の確認等を目的とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第 3 回 論題の整理
第 4 回～第 7 回 先行研究の視点・結果・残された課題の整理
第 8 回～第 14 回 調査実施と結果の整理・集計報告
第 15 回 論題の見直し

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、レポートにより評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告の準備をする

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人のいとなみと環境の相互作用に注目し、フィールドワークによる生態人類学研究を行う。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座「生態人類学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第2講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第3講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第4講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第5講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第6講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第7講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第8講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第9講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第10講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第11講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第12講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第13講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第14講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第15講 論文の執筆と考察の検討を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションと論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

野に出ること。本を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論に関する論文指導を行う。
学外における実証的研究の指導も含む。

教科書 /Textbooks

院生諸君と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

院生諸君と話し合った後に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度20% 発表レジュメ30%、研究発表50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズに関する知識があること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文完成に向けての個別指導を対面形式で行う。最初は、確定した修士論文の構想に沿って、引用文献の収集と分析、テキストの再分析を行ってもらい、修士論文執筆に向けての基礎固めを行ってもらう。それらの作業の進捗状況を授業時に報告してもらう。修士論文の執筆開始後は、毎回、新たに執筆された箇所に関する指導を行う。毎回、修士論文の完成へと向けた課題を与える予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、修士論文のテーマと関連した和文、英文の評論文をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引き 第5版 (北星堂)
修士論文中の引用は上記に記載されている規則に則って行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 1
- 3回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 2
- 4回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 3
- 5回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 4
- 6回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 5
- 7回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 6
- 8回 修士論文の執筆状況の報告と指導 1
- 9回 修士論文の執筆状況の報告と指導 2
- 10回 修士論文の執筆状況の報告と指導 3
- 11回 修士論文の執筆状況の報告と指導 4
- 12回 修士論文の執筆状況の報告と指導 5
- 13回 修士論文の執筆状況の報告と指導 6
- 14回 修士論文の執筆状況の報告と指導 7
- 15回 夏休み中の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文執筆に向けての基礎固めの進捗状況、修士論文執筆開始後は、その執筆状況を授業時に説明できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Principal purpose of this course is preparation and initial drafting of the thesis. Course will survey materials covered in 1st year of study; review topics and key points to be covered, continue with in-depth exploration of relevant materials, and reading of appropriate critical texts. Submission of comments/summary/analysis on weekly basis is expected.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor as needed

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Setting schedule
- 3 回 Reviewing critical approaches
- 4 回 Summarizing critical approaches
- 5 回 Statement of thesis
- 6 回 In-depth reading/summarizing materials
- 7 回 In-depth reading/summarizing materials
- 8 回 In-depth reading/summarizing materials
- 9 回 Identifying key point and supporting passages
- 1 0 回 Identifying key point and supporting material
- 1 1 回 Identifying key point and supporting material
- 1 2 回 Compiling and organization of notes
- 1 3 回 Compiling and organization of notes
- 1 4 回 Analysis and draft
- 1 5 回 Review draft

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 30% Participation ... 30 % Summaries, Notes, Draft ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Admission to the Master's Program.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American Literature, 19th Century Fiction, 20th Century Fiction, Gender Studies

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文に関する発表
- 2回 修士論文に関する発表
- 3回 修士論文に関する発表
- 4回 修士論文に関する発表
- 5回 修士論文に関する発表
- 6回 中間検討
- 7回 修士論文に関する発表
- 8回 修士論文に関する発表
- 9回 修士論文に関する発表
- 10回 修士論文に関する発表
- 11回 修士論文に関する発表
- 12回 中間検討
- 13回 修士論文に関する課題検討
- 14回 修士論文に関する課題検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表内容によって判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回与えられた課題をきちんと行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の討論・修論の作成により100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student thesis. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students to incorporate into their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course. From this point students should have a general outline of their thesis.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied and suggested by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Thesis guidance for incorporation of research and materials.
- 4 回~ 6 回 Presentation thesis outlines.
- 7 回~ 1 1 回 Discussion centered on thesis development.
- 1 2 回~ 1 5 回 Discussions and Presentations led by students based on thesis chapters.

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations and drafts 40%Final paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、エッセイ内容についてのディスカッションと指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1000～1200字程度のエッセイ課題の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次の特別研究Iの成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために具体的に個別指導を行うことで、多くの文献を集め「文献の網羅」をすると同時に、「コンテンツの確定」を目指します。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に論文作成計画書を作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入。1学期間の予定の作成。
 第2回～14回 担当学生と相談の上、計画を立てて授業を進めていきます。
 第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書 ... 80% 授業への参加度など ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

修論に関する文献を用いる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究計画の修正
- 3回 研究計画の修正
- 4回 研究計画の修正 (4月)
- 5回 学期レポートの作成
- 6回 学期レポートの作成
- 7回 学期レポートの作成
- 8回 学期レポートの作成
- 9回 中間報告会の準備 (6月)
- 10回 中間報告会の準備
- 11回 序論の完成
- 12回 序論の完成 (7月)
- 13回 修士論文の章立て
- 14回 修士論文の章立て
- 15回 まとめ 学期レポートの提出

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究計画・ レポートを修正してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名
/Instructor

横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解と研究を深めるために、原典・史料と関連文献を解読する。受講生の論文テーマに沿って報告・討論、補足説明を行い、論文の完成度を高める。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。また受講生の論文テーマに沿って原典・史料と関連文献を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 概要
第2回～第14回 原典・史料と関連文献の解読
第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論（50点）、レポート（50点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は自分の論文のなかで書きあげた部分を随時報告すること。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生は完成度の高い論文をめざすこと。

キーワード /Keywords

論文の書き方、方法論、解読法、テキストとコンテキスト

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国政治に関する文献を読んで、経済改革、政治体制、社会問題などについて報告・討論し、修士論文や課題レポートを執筆するために必要な技法を教示する。到達目標は、修士論文の一部となる課題レポートの完成である。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～14回 テキストを輪読し、質疑応答を中心に授業を進める。適宜、論文執筆に必要な技法について解説する。

第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 40%、 報告・議論 40%、 出席 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成に向けて自主的に勉学に励み、参考文献・資料収集などを積極的に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成の基礎となる研究活動を行う。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議する。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
理論研究と実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1:ガイダンス・研究モデル、2:論点整理と動向検討、3:研究課題への応用と検討)
(1)調査計画
(2)調査活動の実施(予備調査、本調査)
(3)調査結果の分析
(4)それらの文章化(補足調査)
(5)まとめたものを発表しながら相互に検討・批評を行う。
(6)調査協力者への報告や提案書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究IA、IB、特別研究IIAでの成果及び課題をふまえ、修士論文の作成に必要な知識及び研究法を学ぶ。

目標

- ①研究に必要な知識を習得する。
- ②研究を進める上でより効果的な研究法を実践する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 発表・討論1【本論草稿①】
- 3回 発表・討論2【本論草稿②】
- 4回 発表・討論3【本論草稿③】
- 5回 発表・討論4【結論草稿①】
- 6回 発表・討論5【結論草稿②】
- 7回 発表・討論6【図表及び資料】
- 8回 中間報告
- 9回 発表と討論1【論文の仕上げ①序論】
- 10回 発表と討論2【論文の仕上げ②本論】
- 11回 発表と討論3【論文の仕上げ③結論】
- 12回 発表と討論4【論文の仕上げ④キーワード】
- 13回 発表と討論5【仕上げ・最終チェック】
- 14回 発表と討論6【仕上げ・要旨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1月末の修士論文執筆に向けて、集中的な検討作業を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文構想の検討 その1
- 3回 修士論文構想の検討 その2
- 4回 修士論文構想の検討 その3
- 5回 修士論文構想の検討 その4
- 6回 修士論文構想の検討 その5
- 7回 修士論文構想の検討 その6
- 8回 修士論文構想の検討 その7
- 9回 修士論文構想の検討 その8
- 10回 修士論文構想の検討 その9
- 11回 修士論文構想の検討 その10
- 12回 修士論文構想の検討 その11
- 13回 修士論文構想の検討 その12
- 14回 修士論文構想の検討 その13
- 15回 修士論文構想の検討 その14

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文に対する取り組みで評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週ごとに目標を決めて、着実な論文執筆を進めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
これまでに収集した研究資料の具体的な利用方法と、自らがフィールドワークで確認してきた社会福祉の(ないしは社会福祉問題に近接する)領域における実践上および研究上の課題を多角的に検討することによって、研究をまとめることを目的とする。
特に博士(前期)論文を作成するための討論とまとめに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～5回 自らの研究課題・内容に関する討論
第6～10回 研究内容のまとめ方に関する検討
第11～15回 研究論文の完成に必要な討論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲度・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。
参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

博士(前期)論文を完成させるため、理論構成を精査する。精密な議論ができるよう、当該研究領域における諸理論の位置関係を把握しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IIB では、論文として具体的な報告を中心に進め、完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 ~ 4 回 論題の見直しや論文の構成の検討・報告
第 5 回 ~ 15 回 先行研究、調査結果の検討等を通して、論文の構成を見直すとともに、完成に向けて進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告により評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文の構想を具体化した報告を準備する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人のいとなみと環境の相互作用に注目し、フィールドワークによる生態人類学研究を行う。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座「生態人類学」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第2講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第3講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第4講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第5講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第6講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第7講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第8講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第9講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第10講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第11講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第12講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第13講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第14講 論文の執筆と考察の検討を進める。
- 第15講 論文の執筆と考察の検討を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションと論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

野に出ること。本を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、自らの研究課題について論文を作成することをめざす。
2学期は、特別研究 (M) IIAでの研究をふまえ、下記の作業をおこなう。
(1) 文献レビューをもとにした資料の検討と分析
(2) 論文の完成と報告

教科書 /Textbooks

使用しない。(ただし、自らの論文に関する「資料・文献リストを作成すること。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15回
(1) 自ら作成した「資料・文献リスト」に基づき、資料と文献の批評・分析を行う。質疑・応答を通して、理解を深める。
(2) 研究計画書にもとづき調査の進捗状況や論文執筆状況について報告と検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 (論文) ... 85% 参加・貢献度... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献リストの作成、文献の報告準備が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、修士論文を無理なく完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)
修士論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 1
- 2回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 2
- 3回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 3
- 4回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 4
- 5回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 5
- 6回 修士論文草稿の章立に関する指導 1
- 7回 修士論文草稿の章立に関する指導 2
- 8回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 1
- 9回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 2
- 10回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 1
- 11回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 2
- 12回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 3
- 13回 修士論文草稿に関する指導：単語レベル
- 14回 修士論文草稿に関する指導：引用文献リスト
- 15回 完成した修士論文の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示に従って、修士論文の加筆修正作業を行っておくこと。
修士論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to complete research and analysis of materials discussed in thesis, submit complete draft, compile notes and bibliography, undertake necessary revisions, prepare summary and defense.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided as needed by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction: Review of materials
- 2 回 Re-reading and filling out of draft
- 3 回 Re-reading and filling out of draft
- 4 回 Re-reading and filling out of draft
- 5 回 Composing Introduction
- 6 回 Expanding: Incorporating examples, quotations, commentary
- 7 回 Expanding and revising
- 8 回 Expanding and revising
- 9 回 Writing Conclusion
- 10 回 Preparation of draft for submission
- 11 回 Compiling Notes
- 12 回 Compiling Bibliography
- 13 回 Prepare defense
- 14 回 Final revisions
- 15 回 Proofreading and Submission of thesis

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 20 % Participation ... 20 % Final essay ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of first year of Graduate Program.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis Preparation

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は英語力の向上をめざし、イギリス社会背景の専門知識をえることにある。

そのため、

- ①英文テキストが書かれた背景、社会状況の十分な理解。
- ②読む者の主観を排して英文テキストの意図する意味の把握。
- ③叙述の仕方と文法の分析。

以上3点がねらいである。

ここでは修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得させる。

具体的にはGenette、Chatman、Rimmon-Kenanらによって展開されている物語論 (narratology) —語りの構造研究—の観点から、英語で書かれた物語テキストの構造分析の方法を習得させる。語り手の視点の特徴、語り手と「映し手」(reflector)の関係、語り手の潜在化の度合い、「映し手」の内的焦点化の深度等の分析法を理解させる。

研究テーマに関する文献・資料の収集方法についての指導もおこない、研究テーマを具体化するための能力を養成する。

教科書 /Textbooks

学生の研究テーマに役立つ適切な批評論文を逐次プリントであたえてテキストとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英国小説の「語り」の構造』(開文社出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

文学テキストと批評論文、批評方法についてあたえるアサインメントに応じてもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

優れた修士論文を書けたかどうか、評価の唯一の基準。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 (M)IIB 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英文批評論文を読み、ノートを作り、アサインメントにWord-fileで提出する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導

教科書 /Textbooks

受講生と相談する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文に関する発表
- 2回 修士論文に関する発表
- 3回 修士論文に関する発表
- 4回 修士論文に関する発表
- 5回 修士論文に関する発表
- 6回 中間検討
- 7回 修士論文に関する発表
- 8回 修士論文に関する発表
- 9回 修士論文に関する発表
- 10回 修士論文に関する発表
- 11回 修士論文に関する発表
- 12回 修士論文に関する課題検討
- 13回 修士論文に関する発表
- 14回 修士論文に関する課題検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表内容によって判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回与えられた課題をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の討論・修論の作成により100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student thesis. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students to incorporate into their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course. From this point students should have completed a rough draft of their thesis.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回~ 3 回 Thesis guidance: review of materials to date.
- 4 回~ 6 回 Presentation of first draft of thesis.
- 7 回~ 1 1 回 Discussion centered on final draft of thesis.
- 1 2 回~ 1 5 回 Revisions and completion of final draft.

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations and drafts 40% Final paper 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回の授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、エッセイ内容についてのディスカッションと指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1000～1200字程度のエッセイ課題の準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次の特別研究Ⅰ、及び1学期の特別研究ⅡAの成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために、具体的に個別指導を行い、論文の完成を目指します。(講義全体のキーワードは「修士論文作成」「論の拡大」などです。)

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に2学期の論文作成計画書を確認、修正し、それに従って指導をしていきます。

- 第1回 導入。2学期の予定の作成。
第2回～14回 担当学生と相談の上、計画を立てて授業を進めていきます。
第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

修論に関する文献を用いる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 修士論文の章立て
- 3回 修士論文の章立て
- 4回 第1章の完成
- 5回 第1章の完成
- 6回 第2章の完成
- 7回 第2章の完成
- 8回 修士論文の完成
- 9回 修士論文の完成
- 10回 修士論文の完成
- 11回 修士論文の完成
- 12回 修士論文の完成
- 13回 修士論文の最終チェック(1月)
- 14回 修士論文の最終チェック
- 15回 修士論文の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修論原稿を執筆してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。この科目は基本的に、前期の「特別研究（M）IA」の延長ゼミである。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

読解する文献、原典・古典は授業中決める。
レジュメの作成・報告、討論。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ参加度、論文の進度などによって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ参加学生は自分の論文テーマを紹介すること。関連文献を多く読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代中国政治に関する文献を読んで、経済改革、政治体制、社会問題などについて報告・討論し、受講者の研究課題に関する議論を深める。また、修士論文の執筆技法を習得させる。到達目標は、修士論文の完成である。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～14回 テキストを輪読し、質疑応答を中心に授業を進める。適宜、論文執筆に必要な技法について解説する。
第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文 40%、 報告・議論 40%、 出席 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成に向けて自主的に勉学に励み、参考文献・資料収集などを積極的に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、受講生の論文テーマに沿った文献講読ならびに作成中の論文のプレゼンテーションを行う。

教科書 /Textbooks

ガイダンス時に受講生と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。また、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス：論文作成方法や論文作成の進捗状況の確認。
第2回 プレゼンテーション。
第3 - 5回 文献講読と解説。
第6回 プレゼンテーション。
第7 - 9回 文献講読と解説。
第10回 プレゼンテーション。
第11 - 13回 文献講読と解説。
第14回 プレゼンテーション。
第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% プレゼンテーション... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションの際には、レジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 近藤 倫明 / Michiaki Kondo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集と研究方法を学び、研究を具体化するために必要な能力を養成する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 修士論文作成に必要な指導を個別に行う。

(これまでの研究事例)

- 「失語症患者の音読訓練における継時的変化に関する文献及び調査実験的研究」
- 「脳血管障害者の形態認知に関する文献及び調査実験的研究」
- 「統合失調症患者における空間行動と認知地図に関する文献及び調査研究」
- 「脳血管障害者の視空間認知に関する文献及び調査実験的研究」
- 「半側無視患者における視覚探索特性」
- 「ビジュアルフォーマット教材の視認性評価」
- 「視覚教材作成に関する認知心理学的研究」
- 「Ryser社製弱視治療用眼鏡箔における有効性の検討」
- 「高次脳損傷者における触感覚の定量的測定」

成績評価の方法 /Assessment Method

討議への参加状況：20%、発表内容と修士論文の進行状況：80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文研究の個人発表に備えてプレゼンの準備を行うこと。パワーポイントプレゼンテーションの準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近代文学研究。修論作成のための方法の習得。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 修論作成のための2学期の計画の確認
- 2回 修論作成のための発表
- 3回 修論作成のための発表
- 4回 修論作成のための発表
- 5回 修論作成のための発表
- 6回 修論作成のための発表
- 7回 修論作成のための発表
- 8回 修論作成のための発表
- 9回 修論作成のための発表
- 10回 修論作成のための発表
- 11回 修論作成のための発表
- 12回 修論作成のための発表
- 13回 修論作成のための発表
- 14回 修論作成のための発表
- 15回 修論作成のための発表

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容による ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のための資料をきちんと作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords